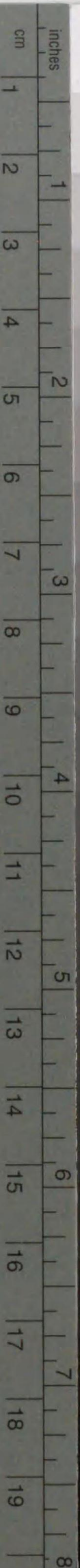


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

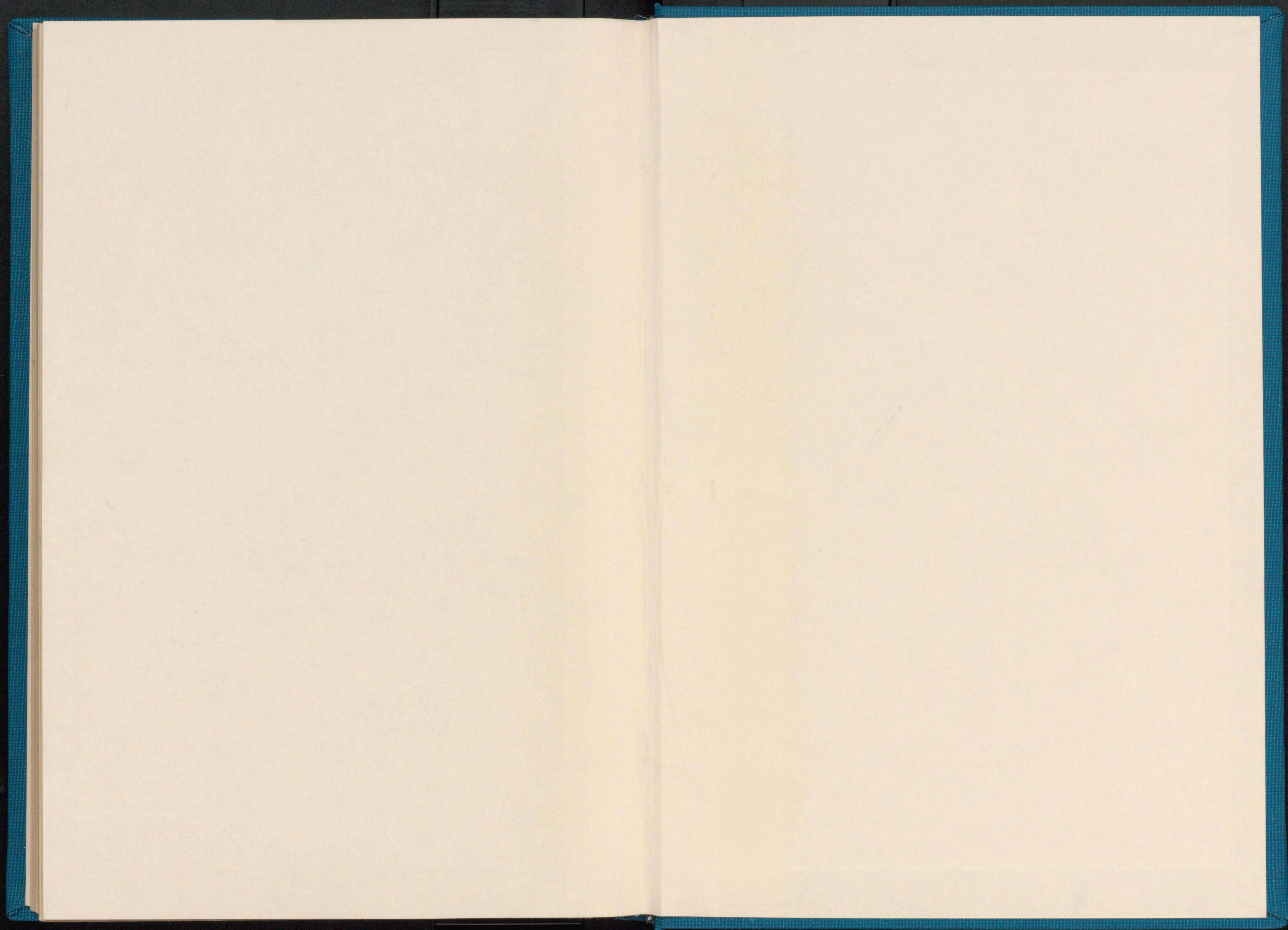
© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black
[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]
[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]

736
14

736-14
1200501590889

〇 複写



736
14

大阪都市計畫並同事業輯攬

大阪市役所土木部

ト工-3K-22



大阪都市計畫並同事業輯攬

昭和十二年八月



大阪都市計畫並同事業輯覽

目次

前編	大阪都市計畫並ビニ同事業ノ總說	
緒言		
第一 沿革		一
一	東京市區改正條例準用前ノ市區改正	一
二	東京市區改正條例及附屬命令ノ準用ト都市計畫法ノ制定	四
第二 計畫及事業ノ大要		五
一 概說		五
二 計畫		七
大阪都市計畫區域		七
大阪都市計畫用途地域		一一
大阪都市計畫防火地區		二六
大阪都市計畫風致地區		三〇
大阪都市計畫美觀地區		三三

大阪市區改正設計	二
綜合大阪都市計畫	三
大阪都市計畫高速交通機關	四
三 事 業	
第一次大阪都市計畫事業	五
寢屋川附近都市計畫事業	六
大阪驛附近都市計畫事業	七
第二次大阪都市計畫事業	八
第三次大阪都市計畫事業	九
大阪都市計畫事業高速交通機關	一〇
大阪都市計畫下水道事業	一一
大阪府知事執行都市計畫事業	一二
後編 大阪都市計畫並ビニ同事業ノ各説	
第一 計 畫	
一 大阪都市計畫區域	一三
二 大阪都市計畫用途地域	一四
三 大阪都市計畫防火地區	一五

四 大阪都市計畫風致地區	一六
五 大阪都市計畫美觀地區	一七
六 大阪市區改正設計	一八
七 綜合大阪都市計畫	一九
八 大阪都市計畫高速交通機關	二〇
第二 事 業	
一 第一次大阪都市計畫事業	二一
二 寢屋川附近都市計畫事業	二二
三 大阪驛附近都市計畫事業	二三
四 第二次大阪都市計畫事業	二四
五 第三次大阪都市計畫事業	二五
六 大阪都市計畫事業高速交通機關	二六
七 大阪都市計畫下水道事業	二七
イ 第一期下水道事業	二八
ロ 第二期下水道事業	二九
ハ 第三期下水道事業	三〇
ニ 大阪都市計畫(第四期)下水處理事業	三一

前篇 大阪都市計畫並びに同事業の總説



(大阪憲兵隊檢閲済)

緒言
沿革
計畫及事業大要
概説
計畫
事業

第三 附録

ホ 大阪都市計畫第五期下水道事業	二六七
八 大阪府知事執行都市計畫事業	二九二
イ 十放射路線事業	二九三
ロ 神崎川改修ノ都市計畫事業	三〇四
ハ 大阪都市計畫街路並運河事業	三〇七
現存計畫並事業一覽表	三〇九
都市計畫關係法例	三三三
都市計畫法	三五三
都市計畫法施行令	三五七
都市計畫委員會官制	三六一
市街地建築物法	三六四
市街地建築物法施行令	三六七
市街地建築物法施行規則中防火地區及美觀地區ニ關スル規定	三七四
東京市區改正條例	三七七
東京市區改正土地建物處分規則	三七九
京都市、大阪市及其ノ他ノ市ノ市區改正ニ關スル件	三八〇
東京市區改正條例及東京市區改正土地建物處分規則準用ニ關スル件	三八〇

緒言

近代に於ける産業經濟機構の變革以來、人口の大都市への集中は既に不可避的共通現象となつて居たが、從來の都市はかかる事態に順應するには餘りにも準備に乏しかつた。交通は徒らに雑沓を醸し、住居の密集は不衛生地區を隨所に生み、生活様式の混在は保安上の危険の度を多くし、國民經濟上の損失亦眞に測り知るべからざるものある等、幾多の弊害は踵を接して續出し、終には「都市は集ひ來りたる農民の墓所なり」と迄絶叫せらるるに至つたのであつて、是等諸種の弊害を除き、都市民をして眞に安らかなる都市生活を営ましむることこそ現代都市爲政者の採るべき途となつてゐる。而して、都市計畫なるものは理想的都市建設への技術的貢獻を使命とし、其の範圍は交通、衛生、保安、經濟等苟も都市生活に關係ある諸般施設を包含して居り、諸種の弊害を未然に防止するを目標とする地域及び地區制の適正なる運用と、他面積極的に理想的都市建設に向ふ所の各種根幹的文化施設の合理的適配の二途に依つて其の目的を果さんとする。本市に於ては、夙に都市計畫に關して考究する處あり、或は明治の中葉に於て府會區部會議長の都市計畫に關する提案となり、或は大正七年には東京市區改正條例並びに附屬命令の準用として現はれ、他面市としても已に都市改良計畫調査會を設置して専ら都市改良に關する調査を進めつつあつたが、都市計畫法の施行せらるるや都市計畫區域、用途地域並びに地區を始め、街路、運河、公園、下水道、墓地、土地區劃整理、高速度交通機關及び河川改修等各方面の施設計畫相次いで認可され、又事業として執行せるもの少からざる現況にある。

第一 沿革

一 東京市區改正條例準用前の市區改正

市區改正の建議と其の調査

我國に於て都市改良の叫びが始めて擧げられたのは明治十七八年の頃であつた。當時東京、大阪の如き大都市に於ては、商工業の發展に伴ひ人口集中の傾向漸く著しく、加ふるに西歐諸都市の都市改良計畫が甚しく進展せるに鑑み、我國に於ても識者の間に之が必要を認められる様になつたのであつた。而して東京市に於ける市區改正に就ては相尋調査研究せられた結果、遂に明治二十一年八月東京市區改正條例、同二十二年一月東京市區改正土地建物處分規則の公布を見るに至つた。之れは我國に於て都市計畫につき法的根據を與へられた嚆矢である。

我大阪市に於ても明治十九年十二月府會區部會議長から市區改正に關する建議が時の府尹(當時は府知事が市の事務を管掌した)に提出せられて居る。其の要旨は

第一 道路橋梁の位置を定め其の幅員を確定すること

第二 蒸汽機關を使用して物品を製造する工業家を適當の場所に移轉せしむること

第三 賤業者の区内に散在する者を一定の土地に移轉せしむべきこと

第四 花街の移轉地を選定し營業者に其準備を爲さしむべきこと

等を擧げて居る。即ち第一は街路計畫の決定、第二は地域制定、第三及び第四は風紀地區指定の必要を説いたものである。

府知事は右の建議に基き、大阪市區改正法案取調委員會を設け、戸口増減の情勢、道路、橋梁、河川、下水、溝渠及び鐵道等數十項に涉り基本調査を爲すこととし、就中都市改良の根幹たる道路に就ては一等(幅員十五間)より四等(幅員八間)に至る各等級の路線三十線を選定し、審議の原案を作成した。尤も本案は財源其他關係に依り遂に實施するに至らなかつたのは遺憾である。

第一次市域擴張後の市區整理

産業經濟の發展は都市人口の集中、市域の擴張を招來し、新市域への都市計畫の必要を生ぜしむるに至るは近世都市の何れもが辿る必至の道程である。明治三十年四月近接町村を編入した我大阪府は、新市域の發展に規格を與へ、且つ舊市の市區整理を爲すべく明治三十一・二年度の交、街路、堀川、公園、臨海停車場、町名地番等に關し種々調査を遂げ、市區整理案を作成した。其の概要は街路を一等(幅員十五間)乃至七等(幅員三分)に分ち、其の新設及び擴張を豫定したものの百八十七線、堀川は一等(二十五間)乃至四等(八間)とし、更に等外(三間乃至五間)を設

け、新設を豫定したものの十八線、改修を豫定したものの三線、公園は之を大小二種に分ち、新設及び擴張を豫定したものの大公園五ヶ所、小公園二十四ヶ所で、其の計畫は相當廣汎なものであつた。而して明治三十三年には市區改正整理委員會を設け、右調査案に基き更に調査研究を重ねたが、時恰も日露戰爭前後に於ける我國經濟界の沈衰期であつたために、斯様な大規模の市區改正は到底實現し得なかつたのは餘儀ない次第であつた。

然し、新市域に無秩序に出現せんとする街衢の整理等に就ては相當の注意を拂ひ、市に於て測量の助成等を爲し、主として土地所有者の共同施行に依つて今日の區劃整理の如き事業を局部的に行はしめて居つた。舊市域に於ても明治四十二年の北區の大火並びに同四十五年の南區の大火等の罹災跡地に市街の整理を行つたのである。明治の末葉から大正の初期にかけては、電氣軌道の敷設に依つて市區改正の事業が行はれた觀がある。即ち、當時幅員四間三分以上の街路を殆んど持たなかつた我大阪府は、明治三十六年九月始めて開通した花園橋築港間の第一期線、同三十九年から同四十二年にかけて敷設せられた第二期線、同四十二年から大正五年迄に敷設せられた第三期線、其の後の第四期線及び期外線等の敷設に依り、今日に於ける市街電車網の基を作るとともに、幹線街路の多くを生み出した。

二 東京市區改正條例及附屬命令の準用と 都市計畫法の制定

大正三年世界大戰の勃發以來、我國の大都市は製造工業の急激なる發展、物資移動の増大、人口の加速度的増加等近代都市の特徴を著しく發揮し、交通、衛生、保安、經濟等に關し合理的計畫確立の必要が痛感せらるゝに至つた。政府は之等大都市の市區改正を急速施行することとし、大正七年四月法律第三十六號及び勅令第一八四號を以て東京市區改正條例及び其の附屬命令を京都、大阪、横濱、神戸及び名古屋の各都市にも準用することとし、尙ほ東京市區改正委員會の組織權限に關する勅令及び之が準用勅令を公布して、六大都市に於ける市區改正の施行に資した。

然しながら、時代の進運は右條例の根本的改正を要求して止まなかつた爲め、大正八年四月都市計畫法及び市街地建築物の公布あり、前者は大正九年一月から、後者は同十二月から六大都市に施行され市區改正條例は廢された。之につき大阪府の市街地建築物法施行細則が大正十年一月から施行せられ、茲に關係法令は完備するに至つた。

本市に於ては大正六年四月都市改良計畫調査會を設け市區改正の大綱を審議しつゝあつたが、大正七年五月には市區改正部を置き市區改正の調査立案其他の事務を主管せしむることとした。後都市計畫法の施行に伴ひ市區改正部は都市計畫部と改稱、都市計畫事業の實施を擔當したのであるが、昭和三年五月都市計畫部と土木部とは合併せられ現行の土木部が成立したので、爾後本市の都市計畫及び同事業の中、府關係、下水道關係及び高速鐵道關係以外の諸事業を主管してゐる。

第二 計畫及事業の大要

一 概 説

大正七年四月東京市區改正條例及び其の附屬命令が本市に準用せられ、翌八年都市計畫法及び市街地建築物の發布せらるると共に、豫ねてからの調査に基づき、本市内外に亘る都市計畫施設の具體的審査が行はれ、先づ大阪市區改正設計が大正八年十二月内閣より認可された。之は本市に於ける近代科學的都市計畫の先驅となつたもので之を基として同十年三月には第一次大阪都市計畫事業の決定を見るに至り、街路、橋梁方面の改良は順次刮目すべきものを生じて居る。次いで同十一年四月には都市計畫區域の決定あり、以て各種都市計畫施設を行ふべき將來の大大阪が豫想せられ、同十四年四月には都市計畫區域全般に亘る用途地域の指定を見た。是より先同十二年七月には防火地區が、降つて昭和八年四月には風致地區、同九年十二月には美觀地區等が夫々認可決定され都市權築の準據すべき所が指示された。

昭和三年五月には街路、運河、下水道、公園及び墓地等を包含する綜合的都市計畫の認可を得たが、同九年三月大阪驛前整理の爲新たに土地區劃整理の追加があり、今日に至つてゐる。此の昭和三年五月認可の大阪都市計畫を、本

市に於ては綜合的大阪都市計畫と呼んでゐる。其の後の市勢の急速なる進展に順應する爲め、是等計畫の中特に緊急實施を要するものを選定の上事業とすることとなり、先づ昭和六年一月には下水處理事業の認可があつて中部及び北部處理區の各一部ではあるが、下水處理の事業が具體化し、同七年十月には第二次大阪都市計畫事業として街路及び運河が決定せられ、降つて同十二年三月には街路、運河及び橋梁の新設改築を加へた第三次大阪都市計畫事業が認可された。是等の諸事業は後述する如く總て現在執行中である。

此のほか昭和二年四月認可の寢屋川附近都市計畫事業、同三年五月認可（同九年三月變更）の大阪驛附近都市計畫事業及び昭和四年六月決定の都市計畫事業高速度交通機關等があり、此の中寢屋川附近都市計畫事業は既に昭和八年三月竣功し、他は現在着々進捗中である。

以上は大阪市長及び大阪市が執行する都市計畫事業であるが、此の外大阪府知事の執行に係る都市計畫事業として、大正十五年六月内閣認可の十放射路線事業、昭和七年十月決定の神崎川改修事業及び昭和十一年四月決定の大阪府主管第二次都市計畫事業等があり、前二者は殆んで完了し、後者は現在執行中である。

斯くて、本市は一面に於て地域及び地區制の運用によつて圓滑なる都市發展を策すると共に、他面進んで各種の事業を執行し以て都市計畫の理想とする所を實現せんと圖つて居る。

二 計畫 畫

一 大阪都市計畫區域

都市計畫區域は交通、衛生、保安、經濟等に關し永久に公共の安寧を維持し、福利を増進する重要施設の計畫を施行するに際し考慮せらるる範圍である。都市發展の將來を豫想し、都市百年の大計を樹立する點から考へれば其の範圍は單に一般行政上の區域たる市町村域に限らるべきでなく、現在の都市を中心として將來之と一體の共同生活を營むべき地域に迄及ぶを理想とする。

而して此の區域は四圍の地形（工場並びに住宅分配の狀況）人口増加の趨勢、産業發展の狀況及び交通機關の整備等と相關聯して互に因果關係を爲し、到底截然たる區別を定め得ないが、大體のところ大都市に於ては、都市活動の中心地點から半徑十哩内外の圓圈を以て交通機關の充實に伴ひ都市生活を營むに適當なる範圍と見られてゐる。以下少しく本市都市計畫區域決定の經過を述べる。大正九年六月十八日大阪府知事は大阪都市計畫區域決定に關し理由書並びに參考書類を添付して内務大臣に内申し、内務省に於ては審査の上原案を作成し、大正十年六月八日大阪府知事を経て關係各市町村に對し其の意見を諮問した。本市へは六月十四日付通牒あり、右諮問に對し本市は堺市外二十七箇町村を除きたる一市四十七箇町村に、大阪港内の海面を加へたる區域を適當なりとして同年七月答申した。

關係市町村としては豊能郡豊中村を除いては大體に於て原案に賛成の意を表し、斯くて關係市町村の意見書が全部纏つたので、内務大臣は之に基づき末記の如き理由書添付の上、都市計畫大阪地方委員會に區域案として諮問を發した。

同會は同年十月十七日會議を開き、審議の末二十一名の特別委員を擧げて、之に付託したので右委員は、爾後調査研究の上原案を修正し本會議に上程して此の修正意見を可決した。即ち、諮問原案中北方では豊能郡豊中村を削り東方では北河内郡中の守口町及び中河内郡中の巽、瓜破、矢田の三村を存して其他の町村を除き、南方では大和川以南を削除するを妥當なりとしたもので此旨同年十月内務省に答申された。越えて大正十一年三月八日本件は更に都市計畫中央委員會に諮問され同會は地方委員會の意見を適當と認むる旨答申したので大阪港内の水面を包含すべしとする意見を除くの外、地方委員會の答申が其の儘採用せられ大正十一年四月二十四日内閣の認可を得たのである。

斯くて決定した都市計畫區域は面積約八十五平方哩（二二〇・一五平方杆）に及び大阪市及近接五十五箇町村を包含してゐたが、其後大正十四年四月一日大阪市の第二次市域擴張により東成、西成兩郡に屬する四十四ヶ町村が大阪市となつたので、現在では大阪市及十一箇町村を包含することとなり、其の面積は其の後の公有水面埋立地の市域編入により約八十八平方哩（二二七・三〇平方杆）となつた。

参考の爲め、諮問原案中の都市計畫區域設定理由書を記するに左の通である。

大阪都市計畫區域設定理由書

都市計畫法第一條ニ依り都市計畫ハ市ノ區域内ニ於テ又ハ其ノ區域外ニ亘リ施行スヘキモノニシテ其ノ發展、膨脹顯著ナル諸都市ニ在リテハ特ニ其ノ區域ヲ設定シテ計畫ノ方針ヲ定ムルノ必要切ナルモノアリ。而シテ其ノ區域ハ人口増加ノ趨勢ニ對シ適當ナル面積ヲ存セシメ以テ都市生活者ノ公共安寧ヲ維持シ福利ヲ増進スルノ策ヲ樹テザルベカラズ

之ヲ大阪市最近ノ狀況ヲ觀ルニ周圍部ノ人口増加率ハ却テ都市ノ中央部ノ夫レヲ凌駕スル勢アリ之レ獨リ大阪市ニ於テ見ルヘキ現象タルノミナラズ歐米諸國ノ都市皆然ラサルナシ、之レ等シク經濟上、衛生上自然ノ數ニシテ免ルヘカラサル現象ナリ、然レトモ都市ノ膨脹タル決シテ無限ナル能ハスシテ都市計畫ヲ營ム住民ノ都市ニ於ケル活動ニ便ナルヘキ範圍ナラサルヘカラズ、而シテ此ハ都市ノ中心部ヨリノ距離ニ依ルコト勿論ナルモ亦交通機關ノ速度ニヨリ自ラ伸縮セラルヘキモノナリ、而シテ都市ノ中心ハ是即チ都市生活ノ集中スル所ニシテ、之レニ往復スルニ一日半日ヲ要スヘキ區域ニアリテハ所謂都市生活ヲ營ムヲ得ザルベク日常之ニ往復シ以テ都市生活ヲ營ミ得ル範圍コソ實ニ此レ都市ノ膨脹發展ノ極限ナラメ。而シテ其ノ區域タルヤ固ヨリ人口増加ノ趨勢產業發展ノ情況及交通機關ノ整備等ト相關聯シ互ニ因果關係ヲナシテ到底截然タル區別ヲ定ムルコト能ハス、何レノ都市ニ於テモ都市活動ノ中心點ヨリ半径十哩ヲ以テ劃スル範圍内ハ交通機關ノ相當充實ヲ計ラハ概ネ何レノ地點ヨリモ三十分乃至一時間ヲ以テ都市ノ中心ニ達スルヲ得ヘク又以テ都市生活ヲ營ムモノ、居住シ得ル適當ナル範圍ト見ルヲ得テ是レ即チ事實上ノ都市計畫區域ナリト云フヲ得ヘシ大阪府廳ヲ中心地點トシテ鐵道及軌道ニヨリ三十分乃至一時間ヲ以テ到達シ得ル範圍ヲ示セバ別表ノ如ク西方神崎川ヲ超ユテ兵庫縣尼崎市ヲ包含スルハ同市ガ交通上又經濟上ノ點ニ於テ大阪市ト最モ密接ナル關係ヲ有スルニ察セバ極メテ當然ノ事ニ屬スト雖モ、府縣ヲ異ニスル萬般ノ施設計畫ニ就テ支障ヲ來スコト尠カラザレバ暫ク之ヲ除外スルコトトシ、神崎川ヲ以テ兵庫縣ト境シ北ハ豊中村及千里村ノ住宅地域及吹田町ヲ以テ之ヲ限リ、淀川ヲ渡リテ守口町ヨリ南ニ走り八尾町及平野郷町ヲ合セテ大和川ニ入り西シテ堺市及濱寺町ヲ包含スル二市七十箇町村ヲ以テ大阪都市計畫區域ノ對象トセムトス、此ノ全面積一〇八・九七平方哩トナリ現在大阪府

ノ面積二二・五七平方哩ニ比スレバ約四・八倍トナリ此ノ區域ヲ以テ大阪都市計畫區域ニ決定スルノ妥當ナルヲ信ス。而シテ大正七年ニ於ケル大阪市人口密度ハ一平方哩ニ付七二、四〇〇人ナリ、之ヲ歐米諸國ノ都市人口密度ニ比スレバ巴里ノ九一、八〇〇人（一九一一年）伯林ノ八三、三〇〇人（一九一三年）ニ及バザルモ、東京市ノ七八、三〇〇人（一九一七年）ト稍相匹敵ス、尙大阪市ニ就テ之ヲ區別シテ示セバ南區最モ密ニシテ一三〇、九〇〇人ニシテ、紐育マンハツタン區ノ一二三、四〇〇人（一九一七年）ヲ凌駕シ、之ニ亞グハ東區ニシテ一〇八、〇〇〇人、北區八〇、一〇〇〇人ナルモ西區ニアリテ尙廣大ナル空地ヲ擁スルヲ以テ遙ニ少ク僅カニ三九、六〇〇人ナリ

尙ホ東區ニアリテハ大正八年ニ至リ人口稍減少ノ傾向ヲ示スヲ以テ察スレバ東區及南區ニテハ既ニ過密ノ住居ヲナシツツアリト云フヘク、北區ニアリテハ尙ホ多少増加ノ餘地ナキニアラザルモ將來大阪市ノ人口密度ノ標準トシテ巴里ト伯林トノ中間ニ位スル九〇、〇〇〇人ヲ以テセバ恐ラク適當ナラムト信ス、之ヲ以テ人口密度ノ標準トシ將來三十年後ニ於ケル人口増加ヲ豫想セムニ現在ノ大阪市内ニ包含セラレベキ人口ハ二、〇三一、三〇〇人ニシテ此ハ大正十七年ニ至リテ到達スヘキコト人口増加ノ趨勢ヲ調査スルニ洵ニ明ナリ

次ニ郊外地ニ於ケル密度ハ大正七年末ニ於テハ豊崎町ノ六八、五〇〇人ヲ最大トシ中津町ノ六二、〇〇〇人、堺市五〇、〇〇〇人傳法町ノ四九、〇〇〇人、鷺州町三一、七〇〇人、鶴橋町三〇、七〇〇人之ニ次キ自餘ノ町村ハ概ネ之ヨリ小ナリ

郊外地ハ市内ト稍異ニシ市内ヨリモヨリ大ナル空地ヲ存スルヲ要スルヲ以テ西區ノ廣大ナル空地ヲ有シテ尙其ノ密度三九、六〇〇人ナルニ替ヘ郊外地ノ標準密度トシテ一平方哩ニ付四〇、〇〇〇人トセバ郊外地全面積八六・四平方哩ニハ三、四五六、〇〇〇人ヲ收容スルヲ得ルコトトナリ、市内ノ收容人口二、〇三一、三〇〇人ト合セテ都市計畫區域内全部ニ收容シ得ル人口ハ五、四八七、三〇〇人トナリ別紙人口増加圖（略）ニ示セル如ク大正五十四年ニ於テ到達スルヲ見ルヘク此ノ時ニ於テ全區域内平均密度五〇、三〇〇人トナリ、大正七年末平均密度二〇、五〇〇人ナルニ比スレバ約二倍半ニ相當シ將來ノ發展ヲ豫想セバ敢テ適當ナラスト

信ス

然シテ都市計畫區域内ノ人口増加率ヲシテ別紙ニ示ス如クナリトセバ三十年後即チ大正四十年ニ於ケル人口ハ四四、九〇〇、〇〇人トナリ大正七年末ノ約二倍ニシテ大阪市ニ於ケル人口ガ過去二十年ニ於テ約倍加セルニ察セバ此亦敢テ適當ナラスト信ス

而シテ其ノ時ニ於ケル全區域内平均密度ハ四一、二〇〇人トナルモ、市内ハ九〇、〇〇〇人トセルヲ以テ郊外地ハ平均密度二八、五〇〇人トナリ大正七年末ノ平均密度六、九〇〇人ニ比スレバ約四倍トナリ甚シキ過大ノ見積ナル如キモ接續町村ノ現在既ニ三〇、〇〇〇人ヲ超過スルモノ數ヶ町村アリテ過去數年ノ人口増加ノ趨勢及外國諸都市ノ實例ニ徴スルモ大正四十年ニ於ケル郊外地全體ノ平均密度ヲ四〇、〇〇〇人ト豫想スルハ蓋シ當ヲ得タルモノナランカ

更ニ之ヲ人口一人當リ面積ニ就テ考フルニ市内密度九〇、〇〇〇人ハ一人當面積八・七坪ニシテ郊外地二八、五〇〇人ハ一人當二七・四坪ニシテ全區域内平均密度四一、二〇〇人ハ一人當一九・〇坪トナルナリ

以上收容人口ヨリ推定セルモ都市計畫區域ハ前述ノ如ク其ノ區域内ノ住民ノ所謂都市生活ヲ營ミ得ル範圍ナラサル可ラザルヲ以テ其ノ區域内ニハ適當ナル商業地域及之ニ應スヘキ住宅地域ノ存セサル可ラザル事論ヲ俟タズ、此等ノ諸點ヨリ茲ニ別紙附圖（略）ニ示スカ如キ區域ヲ以テ大阪都市計畫區域ト決定セムトス

二 大阪都市計畫用途地域

人口稠密、家屋連櫓の市街地に於ては、同一の地域に多種多様の生産過程並びに生活様式が混雜して所在するとき、住居の安靜を妨げ、市民保健の障礙を爲し、産業活動の能率を阻碍する等其の弊は寔に測り知るべからざるものがある。故に建築物の利用を地域的に統制し、土地の状況に應じて成るべく同一地域内に目的を同じうする建築物を

集團せしめ、以て市民の生活を快適利便ならしむると共に、一方其の地域に適應した施設を集中徹底せしめて其の能率を増進せしむべきである。

現行法令では地域を住居、商業、工業の三種に區別して居るが、此の外に何れの地域にも屬しない未指定の部分を存して居る。

本市の地域設定の問題は遠く明治十九年の府會區部會議長建議案中にも一部窺はれるが、大正六年四月設置せられた都市改良計畫調査會が都市改良の根本問題として用途地域に關する諸種の研究を爲したるに於て始めて稍具體的なものとなり、其の後東京市區改正條例及び附屬法令の準用を見るに至つて更に進んで基本的調査が行はれた。然し市區改正條例では地域の設定を認めなかつたので、此の問題は都市計畫法の實施まで保留されてゐたのである。大正九年一月都市計畫法が施行されるに及んで府市當局に於ては數十回に亘つて調査研究を行ひ、漸く、概案を得るに到つたので、同十年十二月二十七日都市計畫大阪地方委員會に附議した。同會では之を會長の指名したる特別委員に附託し、特別委員は前後七回の審議を重ね、實地調査をも經て、同十三年九月二十九日の會議を最後として成案を得たので、同十四年一月三十日その顛末を内務大臣に内申した。

内務大臣は、審査の上右に基づく諮問案を作成し、大正十四年三月二十四日都市計畫大阪地方委員會に諮問したので、同委員會は本案に付慎重審議し、三月二十三日最後の委員會に於て原案の住居地域中「東成郡神路村ノ内大字深江ノ一部、小路村ノ内大字中川、大字腹見、大字大友ノ全部、大字片江ノ一部」を未指定の部分とするの修正説が多

數を以て成立、其の他は原案の通り可決、直ちに内務大臣に答申された。是に於て多年翹望の本市地域制は大正十四年三月二十七日内閣の認可を得、四月六日内務省告示第十六號を以て公示、同年五月一日から施行の運びに至つた。

其の後大阪市及び附近地發展の情勢に鑑み、昭和五年四月、同六年十月、同七年七月、同十一年五月及び同十二年二月の五次に亘り相當廣範圍の變更を經、現在では左の通りになつてゐる。

地域種別	面積(ヘクタール)	全面積ニ對スル百分比
住居地域	六、七二一	三〇・九
商業地域	三、三四六	一五・四
工業地域	九、一八五	四二・三
未指定地	二、四六九	一一・四
計	二一、七二一	

次に當初の諮問原案中の指定理由書並びに其の後の變更理由書を掲記し参考に供する。なほ地域指定並びに變更の經過を總括すれば次の通り。

經過	告示又は公告年月日	認可年月日	施行年月日
大阪都市計畫地域指定	大正一四、四、六 内務省告示 第六六號	大正一四、四、六	大正一四、五、一
第一回變更	昭和五、六、七	昭和五、四、一九	昭和五、七、一

第二回同	同	六、一〇、八	同	六、一〇、三	同	六、一一、一
第三回同	同	七、七、二七	同	七、七、二〇	同	七、八、一〇
第四回同	同	內務省告示第三二五號	同	一一、五、一八	同	一一、六、一〇
第五回同	同	內務省告示第九七號	同	一二、二、二三	同	一二、三、一八

一四

地域指定理由書

地域ノ設定ハ現代都市計畫ノ基本的事項ニシテ土地ノ發達ノ性質之ニ依リテ定マリ百般ノ施設ノ計畫之ニ依リテ其則ル所ヲ知ル、曩ニ大阪都市計畫區域ノ決定ヲ見タルヲ以テ茲ニ各種地域ノ指定ヲ爲サムトス

地域指定ノ要件ハ各種地域ノ位置ヲシテ其ノ性質ニ適應セシムルト共ニ各種地域面積ノ配分亦其ノ宜キヲ得ルニ在リ、各種地域力其ノ位置ニ對シテ要望スル所ノ特徴ハ住居地域ニ於テハ安靜快適ニ在リ、商業地域ニ於テハ繁榮利便ニ在リ、工業地域ニ於テハ生産能率ノ増進ニ在リ、故ニ其ノ位置ノ選定ハ土地發達ノ現狀及沿革、地勢、氣象、水陸通運機關ノ狀勢其他各般ノ天然的並人爲的條件ヲ綜合斟酌シテ最多ク各種地域力要望スル所ノ特徴ヲ満足セシムルヲ期スヘシ

今大阪ノ狀態ヲ大觀スルニ市ノ東南部大阪城附近ヨリ天王寺、阿倍野ニ至ル一帶ノ丘地ハ所謂上町ノ高臺ニシテ是ヨリ東南大和川以北一圓ノ疆域並ニ北部千里村ヨリ曾根ヲ經テ服部方面ニ至ル一帶ノ地域及城東村左專道附近ノ地ハ概ネ土地高燥風物快適ニシテ土地ノ現狀亦主トシテ住宅ノ用ニ供セラルルヲ以テ之ヲ住居地域ト定ムヘシ

市ノ中央船場島ノ内ヲ中心トスル一帶ノ地即チ北ハ天滿、曾根崎、堂島、福島ノ大部西ハ本田九條、堀江南ハ難波ノ一部及新世界ヲ抱括スル疆域ハ土地平坦街衢整然トシテ交通ノ便最モ整ヒ土地發展ノ現狀ヨリスルモ之ヲ商業地域ト定ムヘシ

工業地域ハ之ヲ四圍地ニ相ス、即チ北方ノ一圍地ハ神崎川ノ沿岸一帶ノ平地ニシテ土地ノ現狀既ニ工場ノ用地トシテ開發セラレタル所多ク將來ニ於ケル水陸通運ノ施設モ亦之ヲ整備スルニ難カラス、而シテ其ノ位置ハ略々住居地域及商業地域ニ對シ煤煙惡氣ノ散布ヲ免レシムルヲ得ヘシ他ノ三圍地ハ寢屋川沿岸ノ下ノ辻放出ヨリ國有鐵道城東線ニ至ル一帶ノ地、城北村ノ西部ヨリ澁川ヲ超エ中津川沿岸ヲ經テ安治川下流ノ沿岸ニ連ル一帶ノ低地及大阪灣ニ面スル尻無川、木津川下流ノ流域一圓ノ地ニシテ現ニ工場地トシテ開發セラレツアルノミナラス其ノ地勢亦水陸通運ノ施設ヲ爲スニ適ス

地域ノ位置ノ撰定ニ關スル如上ノ大體方針ハ地域制ノ原則ニ照シテ大過ナキヲ信スト雖モ之ヲ都市ノ實情ニ適應セシムルカ爲ニハ其設定ニ尙幾多ノ工夫ヲ要スルモノアリ、即チ、住居地域ニ就キテハ前記ノ外商業地域或ハ工業地域ノ中ニ介在スルモノアリト雖モ土地開發ノ現狀又ハ將來ノ推定力之ヲ住居地域トスルヲ以テ其ノ居住者ノ安寧ヲ保護シ快適利便ヲ進ムルニ適スト思惟セラレ、一圍地即チ北方工業地域ニ接スル新澁川右岸豊里村ヨリ稗島村東端ニ至ル一帶ノ地、春日出、福島、西野田、木庄、堀川、天滿ノ一部及澁川ヲ超エテ綱島、都島一圓ノ地ハ之ヲ住居地域ト爲セリ、商業地域ニ就キテモ前記ノ外住居地域及未指定地域内ニ存在スル主要ナル街路ノ兩側一帶ノ建築物ノ敷地並既ニ局地的商業ノ中心ヲ爲ス小圍地即チ北方ニ於ケル十三附近南方ニ於ケル住吉及平野郷西方ニ於ケル築港ノ中樞部分ノ如キハ之ヲ商業地域トシテ配在セシムルコトニ依リ、日常ノ利便享樂ニ備ヘ且土地利用上實情ニ適セシムルモノナリ、工業地域内ニ於テモ特ニ主要ナル商業街路ニ就キテハ亦斯クノ如クニシテ沿線商業ノ繁榮ヲ保護シ得ヘシ

市街地建物法ニ依レハ其ノ適用區域内ニ地域トシテ指定セラレサル部分ヲ殘存シ得ヘシ、之ヲ假リニ未指定地域ト名ツケレハ此ノ地域ニ於テハ工場ニシテ法規ニ依リ工業地域ニ非ラサレハ建築シ得サル工場ノ外ハ凡テノ種類ノ建築物ノ存在スルヲ妨ケサルモノナリ、即チ規模稍小ナル工場又ハ衛生上、保安上有害危險ノ程度甚シカラサルモノハ此ノ地域ニ存在シ得ヘキモノニシテ其ノ性質略々歐米都市地域制ノ所謂輕工業地域ニ類似ス、各種地域ノ間ニ此未指定地域ヲ適宜配置スルコトニ依リテ都市ノ實情ニ順應スル場合ナキニ非ス、即チ市ノ北方天滿、豊崎、北野等ノ一部西方西野田、西九條ノ大部及境川ヨリ泉尾ヲ經テ南方難波ニ亘ル一帶ハ從來既ニ諸工業ノ發達著シキモノアリ、又現在中小工場ノ集團地タル東方鶴橋町、中本町方面ニ於ケル平野川、猫間川ノ流域、平野郷町ノ東

北部及東部守口町、清水村、古市村、榎並町ヲ含ム一圓ノ地、榎本村、城東村、神路村等ノ大分ヲ占ムル地域、西部恩貴島町一帯ノ地ハ共ニ概ネ土地低濕ニシテ住居地域ニ適セサルモノアリト雖モ其ノ位置市ノ中心部ニ連接スルモノ又ハ市ノ東郊ヲ領シテ住居地域、商業地域ノ間ニ介在スルモノアリテ大工場ノ簇出ヲ容サス、又土地ノ開發ノ現狀及將來ノ豫測ヨリ見テ煤煙、臭氣ヲ發散スルカ如キ地區トスルヲ容サザルモノアルヲ以テ之等ヲ未指定地域ニ保留スルハ地勢及現狀ニ適應スルモノナリト思考ス、又工業地域ト住居地域ノ接觸スル部分ニシテ現在住宅商店工場等混合ノ狀態ヲ呈スル一帯ノ土地モ亦之ヲ未指定地域ニ保留スルコトニ依リテ工業地域ノ及ホス影響ヲ緩和シ土地ノ現狀ニ適從スル所以ナリト思考スルヲ以テ南方今宮町附近ヨリ玉出町、粉濱村ヲ經テ敷津村ニ至ル三間川沿岸一帯ノ地ハ此ノ意味ニ於テ未指定地域トセリ、又北方吹田町ヨリ豊津村ヲ經テ小曾根村ニ至ル一帯ノ地及庄内村ノ一部並西方市岡町ヨリ八幡屋町ニ至ル一帯ノ土地ハ未タ建築敷地トシテ利用多カラサルモ住居地域ト工業地域ノ中間ニ介在シ商店、工場等ノ共存ヲ便トスヘキ歸趨ニ鑑ミ等シク之ヲ未指定地域ト定メタリ

次ニ各地域面積ノ配分ニ關シテハ前述ノ如クニシテ撰定セラレタル各地域ノ面積ヲ比較スルニ概略左ノ如シ

地域別	面積	全面積ニ對スル百分比
住居地域	約二二〇〇〇、〇〇〇坪	三四・一
商業地域	約七、一一〇、〇〇〇坪	一一・〇
工業地域	約一九、五〇〇、〇〇〇坪	三〇・二
未指定地域	約一五、九五〇、〇〇〇坪	二四・七
計	六四、五六〇、〇〇〇坪	

備考 前表ハ新澁川ノ河川敷地ノ面積ヲ除キタル部分ニ付キテ算出セルモノナリ

吾國地域制ノ建築制限ノ性質ハ頗ル寛容的ニシテ概言スレハ住宅ハ如何ナル地域ニ存在スルモ妨ケス、商店事務所ノ如キモ亦然

リ、唯工場ノ類ノミカ其ノ規模又ハ作業ノ性質ニ應シ或ルモノハ工業地域ニ限ラルルモ或ルモノハ未指定地域ニモ存在シ得ヘク或ルモノハ更ニ商業地域ニモ存在シ得ヘク家内工業ノ如キハ住居地域ト雖モ存在スルヲ妨ケス、故ニ各地域ハ事實上各種建築物ノ混合所在地タルヲ妨ケス、此等ノ建築物カ如何ナル比例ニ於テ各地域ヲ飽和スヘキヤ推測頗ル困難ニシテ從ツテ各地域ノ適確ナル所要面積ヲ算出スルカ如キハ到底不可能事ニ屬スト雖モ現ニ市街地ニ於ケル建築物用途ノ狀態ニ照シ一面大工業都市トシテノ使命ニ鑑ミ上述ノ如ク各種地域ノ配分ヲ決定セントスルモノナリ

各種地域ニ於ケル建築物充實狀態ニ關スル推定

大阪都市計畫區域内ニ於テ從來ノ人口増加ノ趨勢ニ依リ將來ヲ豫想セハ三十年後ニ於ケル人口ハ約三百九十萬人ニ達シ其ノ市内ニ於ケル飽和密度ヲ一人當リ十坪ト豫定セハ郊外ノ密度一人當リ約二十二坪トナリ將來ノ區域内ノ人口密度トシテ稍適當ナルモノト思考セラル、故ニ茲ニ地域設定ニ當リ約三十年ノ將來ヲ其ノ考察ノ目途トセントス

先ツ工業地域ニ付テ考察スルニ我國工場統計ノ稍整備セルハ工場法施行以來ニシテ其ノ間僅カニ數年ニ過キサルヲ以テ之ヲ大正元年以來一般工場増加ノ趨勢ニ照應觀察スレハ別表ノ如クニシテ統計正確ヲ保シ難シト雖モ其ノ大勢ヲ推定スルニ足ルモノアリ、即チ過去十年間ニ於ケル趨勢ヲ以テ今後モ等シク増加スルモノト假定スレハ大正四十一年ニ於テ工場法及大阪府工場取締規則適用工場數ハ約三萬四千八百五十二達スヘシ、而シテ之等ノ工場ノ内市街地建築物法ニ依ル職工數及動力其ノ他ノ制限ヨリ工業地域ニ非サレハ建築シ得サル大工場（施行令第三條ニ掲クル工場ニシテ假ニ大工場ト稱ス以下同斷）ノ數ハ大正十一年六月現在ニ於テ其ノ約十三%ニシテ其ノ敷地面積ノ平均約一千二百坪ナリ、將來ニ於テモ斯クノ如キ比率ヲ有スルモノトシテ其ノ敷地ノ平均面積亦同様ナリト假定セハ大正四十一年ニ於ケル大工場數ハ約四、五三〇ニ達シ其ノ敷地面積ノ總計ハ約五、四三六、〇〇〇坪ヲ要ス、之レ將來工場地域ニ必ス包容スヘキ大工場ニ就キテノ推測ナリ然レトモ我邦地域制ノ規定ニ於テ工業地域ハ事實上ノ無制限地域ニシテ此ノ他ニ中小

工場及住宅商店等如何ナル種類ノ建築物ヲ含有スルモ妨ケナキヲ以テ將來吾工業地域カ如何ナル程度迄大工場ヲ以テ飽和スヘキカハ猶將來ニ於ケル産業組織ノ變化及水陸運輸等工業地トシテ必要ナル各種施設ノ充實スルト否トニ因リテ支配セラルヘキモ假ニ此ノ種ノ大工場カ工業地域内總面積ノ二十五%ヲ占有シテ其ノ飽和ノ域ニ到達スルモノトセハ全工業地域ノ所要面積約二一、七四四、〇〇〇坪トナリ稍吾人ノ豫定セル工業地域全面積ノ廣サニ類似スルヲ知ル、因ニ記ス、現今大阪市及其ノ近郊ニ於ケル工業地タル區町村ノ總面積ニ對スル其ノ一般工場敷地總面積ノ比例ノ大ナルモノハ下福島、荻分、松島、西九條、春日出ノ各學區及傳法町、豊崎町、中津町、千船町、城東村等ニシテ一割乃至四割ニ達ス

次ニ商業地域ニ就キテハ其比較ノ標準ト爲スヘキ建築物ノ用途多種ニ亘リ而カモ其ノ主體タルヘキ商店ハ住宅ト兼用セララルモノ多クシテ今後三十年ノ將來ニ於テモ各種建築物用途ノ間ニ截然タル區別ヲ附スルカ如キハ豫想シ得ス、從ツテ商業地域面積ノ將來ノ包容力ヲ推定スヘキ基準ノ撰定ハ困難ナルヲ以テ茲ニ各種地域ニ對シ人口並ニ住宅ノ包容力ヲ推算シテ以テ商業地域、住居地域ノ規模ヲ考察シ併セテ工業地域、未指定地域ニ於ケル人口並ニ住宅分布ノ狀況ト其ノ包容力ニ付キテ考察セムトス

前記都市計畫區域内ニ於ケル包容人口ノ算定ニ於テ市内ニ於ケル飽和密度ヲ一人當リ十坪トシ郊外ノ密度ヲ一人當リ二十二坪ト豫定シタルカ今茲ニ各種地域ノ設定ヲ見ルモ斯カル密度ノ求心的差異ニ就キテハ大體異動ナカルヘキヲ推測スルモ唯各種地域別ニ據リ多少密度ノ差異ヲ見ルヘキハ又當然ナリ、今假リニ市内ニ於テ商業地域ノ人口飽和密度ヲ八坪トシ(現在船場、島ノ内、堀江等舊市中心部ノ平均一人當リ約八坪ナリ)工業地域ノ密度ヲ十坪トシ(現在西九條、西野田ノ各學區ノ平均一人當リ約九坪七合ナリ)未指定ノ部分モ之ニ準スルモノトセハ市内ニ於ケル住居地域ノ飽和密度ハ市内全部ノ人口飽和ノ域ニ達セル時ノ豫想總數約一、七五〇、〇〇〇人ナル推定ニ基ケハ一人當リ約十六坪六合トナル(現在ノ大阪市ノ内櫻宮學區ノ密度十六坪、天王寺學區ノ密度十二坪二合ナリ)又郊外ニ於テハ其ノ商業地域ノ人口密度ヲ其ノ將來ノ發展ヲ豫想シテ市内同様一人當リ八坪トシ工業地域並ニ未指定ノ部分ハ之ヲ傳法町津守村等ノ現在密度ニ徴シテ二十坪ト假定セハ郊外ニ於ケル住居地域ノ密度ハ郊外全部ノ大正四十一年ニ於ケル豫想人口總數約

二、一五〇、〇〇〇人ナル推算ニ基ケハ一人當リ約二十九坪九合トナル(現在ノ天王寺村ノ密度四十一坪九合ナリ)次ニ地域設定後ニ於ケル各種地域別住宅分布ノ豫想ヲ試ミルニ大阪ニ於ケル住宅ニ關スル調査統計ハ正確ヲ保スヘキモノナケレトモ猶未タ住宅拂底ノ聲勢カリシ大正三年ニ於ケル大阪市内住宅延坪ハ人口一人當リ約三・五坪ニシテ之カ地域別ノ差異ハ其ノ推定更ニ困難ナリト雖モ之ヲ大正九年ノ現狀ニ於ケル住吉村等ノ一人當リ住宅延坪ト安立町、傳法町等ノ夫レトノ比較ニ準據シテ住居地域ノ住宅延坪平均ヲ四坪トシ其ノ他ノ地域ノ住宅延坪平均ヲ三坪ト見做スモ大過ナカルヘシ、此ノ標準ヲ以テスレハ都市計畫區域内地域指定後ニ於ケル各種地域ニ就キテノ住宅延坪總計並ニ戶數總計ノ豫想凡ソ左表ノ如シ

		面積 (坪)		居住人口		住宅總延坪		豫想戶數總計 但一戶當五人トス	
市内	住居地域	三、四八〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	八四〇、〇〇〇	四二、〇〇〇				
	商業地域	五、七五〇、〇〇〇	七二〇、〇〇〇	二、一六〇、〇〇〇	一四四、〇〇〇				
	工業地域	五、五三〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	一、六五〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇				
	未指定地域	二、七二〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	八一〇、〇〇〇	五四、〇〇〇				
	計	一七、四八〇、〇〇〇	一、七五〇、〇〇〇	五、四六〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇				
市外	住居地域	一八、五二〇、〇〇〇	六二〇、〇〇〇	二、四八〇、〇〇〇	一二四、〇〇〇				
	商業地域	一、二六〇、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	五一〇、〇〇〇	三四、〇〇〇				
	工業地域	一三、九七〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	二、一〇〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇				
	未指定地域	一三、二三〇、〇〇〇	六六〇、〇〇〇	一、九八〇、〇〇〇	一三二、〇〇〇				
	計	四七、〇八〇、〇〇〇	二、一五〇、〇〇〇	七、〇七〇、〇〇〇	四三〇、〇〇〇				

別表 大阪ニ於ケル工場法及大阪府工場取締規則適用工場敷累年比較

年次	第一	第二	第三
大正元年	九、四一九		△五、五五七
同 二年	一〇、一四八		△五、九八七
同 三年	一二、九一一		△七、六一七
同 四年	一二、三三九		△七、二八〇
同 五年	一五、〇一六		△八、八五九
同 六年	一九、〇三一	一一、〇八五	一一、〇八五
同 七年	一八、八五五	一一、八二六	一一、八二六
同 八年	二一、三九五	一二、〇五一	一二、〇五一
同 九年		一二、二〇二	一二、二〇二
同 十年		九、七三六	九、七三六
同四十一年			三四、八五〇

(摘要) 工場法ノ適用ハ大正五年ヲ以テ開始セラレタルモノニシテ上表第二ハ工場法及大阪府工場取締規則適用ノ工場ノ大阪都市計畫區域内所在總數ナリ、第一ハ市町村統計臺帳ニ依ルモノニシテ工場ノ性質工場法及大阪府工場取締規則適用工場ニ該當スルモノニ非ラサルモ工場法適用以前ニ於ケル大阪都市計畫區域内工場敷累年増加ノ趨勢ヲ示スモノト見ルコトヲ得、第三ハ第一及第二ヲ大正六年乃至同八年ニ於ケル比較ニ照應換算シテ工場法適用以前ニ於ケル同法及大阪府工場取締規則適用工場ノ推定ヲ試ミタルモノナリ、第三ニ於ケル△印ハ實數ニ非サルハ勿論ナリ第三ノ最後ニ掲ケタル大正四十一年ノ數字ハ第三ノ累年工場敷ノ増加ヲ基本トシ最

少自乘法ニ依リ求メタル將來ノ工場敷ノ推定ナリ

地域變更理由書 (第一回變更)

大阪都市計畫區域内ニ於ケル市街地建築物法ニ依ル地域ハ曩ニ大正十四年三月其ノ決定ヲ見タルモ其ノ後東成郡及西成郡ニ屬スル四十四ヶ町村ガ市街地ニ編入セラレタル爲區界、町名、町界等ノ變更アリ、同十五年六月郊外トノ連絡ヲ圖ル爲大阪府知事ノ執行ニ係ル都市計畫街路事業、昭和二年二月高速度軌道ノ計畫等ノ決定ヲ見、更ニ昭和三年五月新市域ニ對スル都市計畫ノ施設トシテ街路、運河、下水道、公園、墓地等ノ計畫確定スル等幾多ノ土地開發ニ則スル方策ノ實現ヲ見タリ茲ニ於テ是等ノ施設計畫ニ順應スベク既定用途地域ノ一部ヲ變更スルノ必要ヲ生シタリ

即チ、赤川町、生江町、中宮町、江野町、南島町、森小路町ノ一部、千林、今市、今福、鶴見ノ各町ヲ含ム一圓、寢屋川沿岸放出町ノ一部、今津町ノ一部ノ未指定ノ部分及西宮恩貴島町、西島町ノ一部ハ都市計畫街路及運河ノ決定ニ伴ヒ將來交通運輸ノ機關備ハリ、工場地トシテ開發スルヲ適當ト認ムルニ至レルヲ以テ工業地域ニ變更シ又各種地域相互ノ境界ニ接近シテ都市計畫街路及運河ノ計畫セラレタルモノハ其ノ街路運河ヲ以テ境界トナスタメ些少ノ整理變更ヲ爲シ又南豊島村ノ一部ハ火葬場等ノ計畫ニ資スル爲是ヲ未指定地ニ變更シ其ノ他各方面ニ亘リ住居地域、其ノ他ノ地域内ニ於テ新タニ決定セル主要街路ニ沿フ建築敷地ヲ商業地域ニ變更シテ將來ノ發展ニ備ヘントス、今變更シタル各種地域ノ面積ノ割合ヲ舊地域ニ對比スレハ概略左ノ如シ

地域別	面積 (坪)	全面積ニ對スル百分比	曩ニ指定セラレタルモノノ面積 (坪)	全面積ニ對スル百分比	百分比ノ比較
住居地域	約二〇、一〇〇、〇〇〇	三〇・九	約二一、五〇〇、〇〇〇	三三・三	二・四減
商業地域	約九、二〇〇、〇〇〇	一四・一	約七、一〇〇、〇〇〇	一一・〇	三・一増
工業地域	約二四、〇四〇、〇〇〇	三七・〇	約一九、五〇〇、〇〇〇	三〇・二	六・八増

未指定ノ部分	約一、六八〇、〇〇〇	一八・〇	約一六、四五〇、〇〇〇	二五・五	七・五減
計	六五、〇二〇、〇〇〇		六四、五六〇、〇〇〇		

(備考) 前表面積ノ彙ニ指定セラレタルモノト相違アルハ變更地域ノ面積ヲ昭和三年六月三十日大阪府告示ノ府下町村面積表ニヨリ算出セルニ依ル

地域變更理由書 (第二回變更)

大阪都市計畫區域内ニ於ケル市街地建築物法ニ依ル地域ハ大正十四年三月其ノ決定ヲ見其ノ後昭和五年四月既定地域ノ一部ヲ變更シタルモ土地ノ現狀ト將來發展ノ趨勢ヨリシテ更ニ地域ノ一部ヲ變更スルノ必要生シタリ、即チ、野江町、蒲生町ノ一部ノ未指定地ハ東南一帯工業地域ニ接シ殊ニ南ハ餘江川及寢屋川運河ヲ控ヘ之カ利用上ヨリシテ更ニ北方ニ工業地域ヲ擴張スルヲ適當ト認メラル又東野田町、澤上江町、善源寺町ノ一部住居地域ハ鐵道線縱横ニ通シ附近一帯喧噪ヲ極ムルニ至レルヲ以テ之等一帯ヲ包含シテ工業地域ニ變更シ之ニ伴ヒ路線式商業地域ノ一部ヲモ同地域ニ變更シテ將來ノ合理的ナル發展ヲ期セムトス

地域別	變更後面積 (坪)	全面積ニ對スル百分比	變更前面積 (坪)	全面積ニ對スル百分比	百分比ノ比較
住居地域	約二〇、〇一〇、〇〇〇	三〇・八	約二〇、〇一〇、〇〇〇	三〇・九	〇・一減
商業地域	約九、一九〇、〇〇〇	一四・一	約九、二〇〇、〇〇〇	一四・一	—
工業地域	約二四、二四〇、〇〇〇	三七・三	約二四、〇四〇、〇〇〇	三七・〇	〇・三増
未指定地	約一、五八〇、〇〇〇	一七・八	約一、六八〇、〇〇〇	一八・〇	〇・二減
計	六五、〇二〇、〇〇〇		六五、〇二〇、〇〇〇		

地域變更理由書 (第三回變更)

大正十四年三月變更シタル大阪都市計畫地域ハ今回大阪港内公有水面埋立地ノ市域編入ニ伴ヒ之ヲ工業地域ニ指定スルト共ニ西市岡町附近ノ發展ノ狀勢ニ鑑ミ現在住居地域ノ一部ヲ商業地域ニ變更シ併セテ都市計畫街路ノ一部變更ノ結果ト土地區劃整理ノ完成ニ關聯シ地域界ノ變更ヲ必要トスルニ至リタルモノナリ

地域別	變更後面積 (坪)	全面積ニ對スル百分比	變更前面積 (坪)	全面積ニ對スル百分比
商業地域	九、二三〇、〇〇〇	一四・一	九、一九〇、〇〇〇	一四・一
工業地域	二四、五五〇、〇〇〇	三七・六	二四、二四〇、〇〇〇	三七・三
住居地域	一九、九四〇、〇〇〇	三〇・五	二〇、〇一〇、〇〇〇	三〇・八
未指定地	一一、五九〇、〇〇〇	一七・八	一一、五八〇、〇〇〇	一七・八
計	六五、三一一〇、〇〇〇		六五、〇二〇、〇〇〇	

地域追加變更理由書 (第四回變更)

大阪都市計畫地域ハ大正十四年四月決定以來三回ニ亘リ局部的變更ヲ加ヘタルモ都市的諸施設ノ充實セル現狀ト施行ノ實績ニ鑑ミ實情ニ適應セサル憾アル部分ヲ變更シ以テ大阪ノ圓滑ナル發展ヲ期セムトス今變更セムトスル部分ニ付其ノ理由ヲ説明セバ次ノ如シ

未指定地ニ屬スル北部ノ吹田町、豊津村、小曾根村ノ一部ハ千里山麓ニ位シ土地ノ現狀住居ノ用ニ供セラルルモノ多ク、又東部守口、今市、江野、橋寺、豊里ノ一帯ハ住宅地トシテ發展ノ傾向顯著ナルヲ以テ何レモ之ヲ住居地域ニ變更シ、中央卸賣市場ヲ中心

トスル下福島ノ一團地及大阪驛附近ハ既ニ商業地トシテ發展シツアルヲ以テ之ヲ商業地域ニ變更スルヲ適當トスヘク、大道町及吹田町ノ一部ハ神崎川流域ノ工業地域ニ接續シ其ノ地勢工業ニ適シ、中本町、大今里町、深江、中濱、天王田町一帯ニハ現ニ各種工場集中ノ傾向ニ在リ將來都市計畫運河ノ完成ヲ見ルニ於テハ南部元今宮町ヨリ玉出、粉濱、櫻井町ニ至ル十三間堀川一帯ト共ニ好個ノ工業地タルヘク豫想セラルルヲ以テ之ヲ工業地域ニ變更シ、又本庄、中津、大仁町ヲ含ム一帯ハ大阪驛及中津運河ニ近ク木津川運河、安治川、六軒屋川ニ圍マルル西九條ノ一團地ト共ニ既ニ諸工場密集セルヲ以テ之ヲ工業地域ニ變更セムトス

住居地域ニ屬スル北部、濱崎、鶴野、茶屋、芝田、小深、道本ノ各町ヲ含ム一團地ハ大阪驛ニ近接シ又中江、龜甲、川上町ノ一團地ハ交通ノ便ニ富ムヲ以テ商業地トシテ發展ノ傾向著シキモノアル谷町附近一帯及歡樂地トシテ繁榮シツアル南部山王町ノ一部ト共ニ何レモ之ヲ商業地域ニ變更セムトス

工業地域及所謂未指定地ニ屬スル路線の商業地域(大正區、新阪堺電鐵沿線、中本、西九條、傳法方面)ハ之ヲ削除シテ工業的發展ニ便ナラシメ一方住居地域ニ於テハ必要ニ應ジ之ヲ數線追加シ更ニ地方的集團商業地域ヲ吹田、大和田、森小路、都島、大今里、田邊、玉出、四貫島ノ八箇所ニ設ケテ日常生活ノ利便ト慰樂ニ備ヘ其ノ外數箇所ニ於テ地域ノ境界ヲ明確ナラシムル爲局部的ニ些少ノ變更ヲ加ヘタリ

尙曩ニ大阪市ニ編入アリタル住吉區柴谷町釜口町及此花區櫻島町島屋町地先公有水面埋立地ヲ工業地域ニ追加指定シ、境界ノ整理ニ因リ中河内郡布施町ヨリ大阪市及巽村ニ編入アリタル區域ハ之ヲ所謂未指定地ト爲セリ

今追加及變更前後ニ於ケル各種地域ノ面積ノ割合ヲ對比スレハ左ノ如シ

地域種別	變更後面積 (ヘクタール)		變更前面積 (ヘクタール)		百分比 増減
	面積	百分比	面積	百分比	
工業地域	九、一七七	四二・二	八、一一六	三七・六	同
住居地域	六、七二六	三一・〇	六、五九二	三〇・五	増
商業地域	三、三四五	一五・四	三、〇五四	一四・一	同
計	二一、七七一	一〇〇・〇	二一、五九四	一〇〇・〇	一・三

工業地域	九、一七七	四二・二	八、一一六	三七・六	同
住居地域	六、七二六	三一・〇	六、五九二	三〇・五	増
商業地域	三、三四五	一五・四	三、〇五四	一四・一	同
計	二一、七七一	一〇〇・〇	二一、五九四	一〇〇・〇	一・三

(備考) 變更後ニ於ケル總面積ノ増加ハ市域ニ編入セラレタル公有水面埋立地ノ面積(一二三ヘクタール)ナリ

地域追加變更理由書 (第五回變更)

昭和十一年四月ヨリ新ニ大阪市ニ編入セラレタル部分即チ大阪港内公有水面埋立地ニ對シ之ヲ工業地域ニ指定セムトスルト共ニ過般變更ヲ見タル大阪都市計畫街路一等大路第三類第五十八號線(足代線)ノ延長部分ノ兩側ヲ路線の商業地域ニ變更セムトスルモノニシテ又大阪市城東土地區劃整理組合ノ事業施行ニ關聯シ地域ノ境界ヲ一部變更セムトスルモノナリ

今追加變更後ニ於ケル各種地域ノ面積ノ割合ヲ對比スレハ概略左ノ如シ

地域種別	變更後面積 (ヘクタール)		變更前面積 (ヘクタール)		百分比 増減
	面積	百分比	面積	百分比	
住居地域	六、七二一	三〇・九	六、七二六	三一・〇	減
商業地域	三、三四六	一五・四	三、三四四	一五・四	同
工業地域	九、一八五	四二・三	九、一七七	四二・二	増
未指定地	二、四六九	一一・四	二、四七〇	一一・四	同
計	二一、七二一	一〇〇・〇	二一、七一一	一〇〇・〇	一

(備考) 變更後ニ於ケル總面積ノ増加ハ市域ニ編入セラレタル公有水面埋立地ノ面積(四ヘクタール)ナリ

三 大阪都市計畫防火地區

都市の實體を形成して居るのは建築物であり、其の罹災中最も悲惨な状態を誘導する火災は都市保安上に於ける最大脅威とも云ふべきである。一朝にして都市の繁榮を破壊し、巨萬の財寶を烏有に歸さしめる事又尠しとしない。殊に本邦に於ける都市の建築物は其の殆んど總てが木造で、耐火的構造のものは未だ多くない現状に徴するとき、都市に於ける火災の惨狀は蓋し思ひ半に過ぎるものがある。従つて火災の皆無を期することを理想とし、火災に因る損傷を最少限度に止むる爲、各般の手段を講ずることは都市經營上の一大眼目であらねばならぬ。

市街地建築物法第十三條は防火地區の制度を認め、該地内に於ける防火設備又は建築物の防火構造に關し規定し、更に同法施行規則第一百八條以下に於て細密なる取締規則を設けて居る。即ち、防火地區は之を甲乙の二種に分ち、甲種防火地區は各種の事情を斟酌して最も樞要なる地域に施行し、其の地區内の建築物又は其他の施設は總て特に嚴重なる耐火構造を要求し、乙種防火地區は前者に比し稍々緩和的防火構造たらしめて居る。市街地は凡て甲種に指定するを理想とするが、經濟上其他の觀點から乙種も亦必要であることは言を俟たない所である。

大阪都市計畫防火地區は大正十一年十月二十三日都市計畫大阪地方委員會で審議に附せられたるに始まる。尤も之より以前明治二十月三月には大阪府區部會で工場の隔離、地區制度の設定及び花街の整理等に關する概案の決議があり、其後も市區改正の發議毎に地區制定の論が識者間に唱へられ又、降つて明治四十二年には防火壁の築設、防火材

料等に關し大阪府建築取締規則の制定があつたが、都市計畫法並びに市街地建築物法の實施を見るに到り防火問題は愈々重視さるゝに至り、都市計畫大阪地方委員會の綿密なる審査研究となつたのである。同會では大正十一年十月成案を得、内務大臣に内申したので、同月内務大臣諮問案として之が正式に委員會に附議されることとなつた。爾來同案は常務委員會に於て更に考究を重ね本市の諸種事情に鑑み、幾分修正の上、大正十二年五月八日の委員會に提出、同會は此の常務委員會の修正案になほ些少の修正を加へて議決した。斯くて、同年六月二十二日内閣の認可を得たる上、七月十三日内務省告示第二二七號を以て同年十月一日より實施の旨公示された。本地區は決定當時において甲種集團式のもの約十八萬六千平方米、路線式のもの約三十一萬八千平方米、乙種路線式のもの約十五萬四千平方米あり合計六十五萬九千平方米強、市面積の約〇・三五%であつた。然る所其の後の本市の異常なる躍進は各種文化施設の新設となり、又變更ともなるに及び、防火地區も従前の儘にては本市の現勢に則せざるのみならず、地區制本來の使命を完うする上に於ても遺憾の點少なからざるに至つた。此に於て昭和十一年四月之れが追加變更を爲し、従前の甲乙二種制を廢し、全部を絶對的耐火構造を要求する甲種防火地區とすると共に、更に指定地區を追加したのであつた。地區面積は従前の約七倍たる四百二十五萬八千平方米（約百二十八萬八千坪）となり、市面積の二・二%となつた。大阪都市計畫防火地區指定理由書並びに其の後の變更理由書を掲ぐるに左の通りである。

防火地區指定理由書

二八

火災ハ都市保安上ニ於ケル最大ノ脅威ニシテ亦震災風災其他非常ノ際ニ於ケル各種害禍ノ歸省スル所ナリ、之ヲ以テ都市ノ總テノ構造物ハ耐火構造タラシムルヲ現代都市計畫ノ原則トス、然レドモ本邦都市ノ如キ木造都市ニ於テハ經濟上、習慣上猝ニ此ノ原則ニ依リ難キモノアリ、故ニ先ヅ法規ヲ以テ建築物ニ對シ防火の構造タルベキヲ規定スルハ火災豫防上特ニ重要ナル地區ニ止メ其他ハ暫ク之ヲ放任スルノ已ムヲ得サルモノアリ、之レ市街地建築物法第十三條ニ於テ防火地區ニ關スル規定ノ存スル所以ナリ、而シテ同法施行規則ニ於テ防火地區ノ種類ヲ甲乙兩種ニ分チ各地區内ニ建築スル建築物構造ノ防火の程度ニ等級ヲ附シ以テ地區ノ實況ニ應シ適當ナル種類ニ指定シテ、其ノ效果ヲ擧グルニ便易ナラシメタリ、(別紙參考規定參照)防火地區ノ指定ニ關シテ特ニ考慮スベキ事項ハ地勢、風向、現ニ存在シ又ハ計畫決定セル道路、河川、自由空地等物ノ位置、過去ニ於ケル火災ノ歴史、現存スル耐火の建築物ノ分布、現在ニ於ケル土地ノ用途及繁榮ノ程度並ニ將來ノ發達ニ對スル考察等其ノ主要ナルモノニシテ本案ハ亦之等複雑ナル諸因素ヲ比較綜合シテ慎重攻究セルノ結果ニ外ナラズ指定セムトスル地區ノ位置ハ議案ニ示ス如クニシテ之ヲ大略三類ニ分チ得ベシ

(一) ハ甲種防火地區トシテ一團ノ區域ヲ指定スルモノニシテ北區中ノ島ノ大部分、堂島ノ堀川以西一帯ニ亘リ將來大阪市中ノ中樞地タルベキ區域ニシテ燃焼性建築物ノ存在スベカラザルヤ論ナシ

(二) ハ甲種防火地區トシテ主要街路兩側ノ地帶ヲ指定スルモノニシテ主トシテ市内主要街路ニ沿接ス蓋シ股賑ナル街路兩側ノ一帯ノ地區ハ亦生命財産ノ密集スル所ニシテ其ノ建築物ヲ耐火のナラシムルハ貴重ナル生命財産ヲ保全スルト同時ニ所謂防火線路トシテ附近一圓ノ區域ヲ庇護シ併セテ非常時ニ於ケル消防、避難、交通ノ安全ヲ期スルモノニシテ其ノ路線ノ撰定ニ關シテハ既述ノ諸條件ヲ綜合考慮シテ設定セルモノナリ

(三) ハ乙種防火地區トシテ市内各所ノ主要街路兩側ノ地帶ヲ指定スルモノニシテ其ノ路線撰定ノ意義亦甲種防火地區ニ於ケルト同様ナリト雖唯土地發達ノ現狀未ダ甲種防火地區トシテ指定シ難キモノアリ暫ク乙種防火地區トナスヲ以テ指定ノ效果ヲ得ルニ便

宜トスルモノアリ

要スルニ指定地區ノ面積僅少ニシテ且ツ多クノ乙種防火地區ヲ包含スルハ都市計畫上遺憾トスル所多シト雖モ都市ノ現狀ニ鑑ミテ暫ク指定ヲ此ノ程度ニ止メ將來ニ於ケル經濟的發展並ニ習慣ノ改善ニ應ジ漸次其ノ地區ノ擴張及種類ノ向上ヲ期スルモノナリ

防火地區追加變更理由書

都市ノ災害ニ對スル防備ハ建築物ヲ耐震耐火構造トナスヲ最良策トスルコトハ關東ノ大震火災及函館ノ大火災ノ例ニ徴シ論ナキトコロナリ然ルニ大阪都市計畫防火地區ノ指定ハ大正十二年七月ニシテ關東大震火災前ニカカリ其ノ面積甚ダ狭少ニシテ甲種、乙種ヲ併セテ總面積約六六「ヘクタール」ニシテ東京ノ防火地區面積ニ對シ約九分の一ナリ斯ノ如ク小面積ヲ指定セル理由ハ將來都市計畫トシテ街路ノ新設又ハ擴張ヲ爲スベキ計畫ノ確定セサル以前ニ防火地區ヲ指定スルハ適當ナラサルヲ以テ之ガ計畫ノ確定ヲ待ツテ漸次指定スルヲ良策ト認メタルニ由ルモノナリ、繼テ防火地區指定後現在ニ至ル約十二年間ニ於ケル大阪都市計畫ノ各種施設ヲ見ルニ大正十四年四月用途地域ノ決定ヲ見街路計畫ニ於テハ郊外地ノ發展ト災害時ニ於ケル避難交通トヲ考慮シ大正十三年十一月都市計畫事業街路ニ大變更ヲ加ヘ同十五年六月郊外トノ連絡ヲ圖ル爲十放射路線ヲ都市計畫事業トシテ決定シ同年三月高速度交通機關計畫ノ決定ヲ見更ニ昭和三年五月新市域ニ對スル綜合計畫トシテ街路、運河、下水道、公園、墓地ノ計畫及大阪驛附近地ノ整理事業等幾多ノ計畫又ハ事業ノ決定ヲ見ルニ至リタルヲ以テ茲ニ關東大震火災及函館大火災ノ經驗ヲ基礎トシテ更ニ土地利用ノ現狀及繁榮ノ程度並ニ將來ノ發展ノ傾向等ヲ斟酌シ其ノ必要急ナルモノヲ撰ビテ之ヲ追加スルト共ニ既定防火地區ノ一部ニ補修ヲ加ヘ以テ都市中樞部ノ防護ト避難ノ安全ヲ期セムトスルモノナリ

以上ノ理由ニ依リ選定シタル地區ノ總面積ハ約四二六「ヘクタール」(鐵道、軌道ノ敷地及水面ヲ除ク)ナリ

二九

四 大阪都市計畫風致地區

諺に謂ふ「京に田舎あり」と異なり、「都市に田舎」あるは近代都市の理想であり、將來の都市の姿であらねばならぬ。即ち、自然美を維持し、天然の景趣を保存することこそ都市計畫上極めて必要な事である。

都市計畫法第十條には此の點に關する規定があり、同法施行令第十三條及び第十四條に於て一定の地區を指定し該地區内に於ける工作物の新築、改築増築、若は除去土地の形質の變更、竹木土石の類の採取其他風致維持に影響を及ぼす行爲は地方長官をして内務大臣の認可の下に禁止又は制限するを得ることとしてゐる。

我國に於て風致地區の指定せられたのは大正十五年十月東京都市計畫として明治神宮表參道及裏參道沿道の土地の指定を以て其の嚆矢とし次いで、京都、八王寺、熊本、高松、横須賀、堺、富山等の各都市に於て其の指定を見た。

我が大阪市に於ても、逐年郊外地の發展に伴ひ、從來の田園遊圃が近代的工場の進出に厄せられて漸次其の風致を害ひつゝある情勢に鑑み、夙に都市計畫大阪地方委員會に於て、之が調査を進め、千里山外二十四箇所の地を選定して得たる成案を以て風致地區指定方を内務大臣に内申した。同案を基とする内務大臣の諮問は昭和七年四月二十八日都市計畫大阪地方委員會に附議せられ、十月十三日の委員會に於て十三名の特別委員に付託され、越えて昭和八年三月廿四日の委員會に於て議決、同年四月十日内閣の認可を得た。其の地區は地勢の關係上各所に散在し、其の數二十五箇所、面積凡そ六百萬坪（一、九五三ヘクタール）に垂んとする。

尙之が指定理由書は左の通りである。

風致地區指定理由書

大阪都市計畫區域内ニ於ケル景勝地ヲ見ルニ、市街地ノ發展ニ伴ヒ動モスレバ毀損セラレル虞アリ、今ニシテ之ガ維持保存ノ途ヲ講ゼザレバ遂ニ潰滅ニ歸スル虞ナシトセズ、是ニ於テカ所謂千里山一帯及大和川ヲ含ム沿岸一帯ノ地、其ノ他平地部ニ點在スル公園及神社佛閣ノ境内地其ノ他ニシテ風致ノ存スト認メラルル別紙圖面表示ノ區域約二千ヘクタール（約六百萬坪）ヲ風致地區ニ指定シ、風致維持ニ影響ヲ及ボス虞アル行爲ニ關シ相當制限ヲ加ヘムトスルモノナリ

次いで、昭和八年八月三十日には風致地區規則（大阪府令）が公布せられ、即日施行を見ることとなるに及び風致保持は茲に其の完璧を期し得ることとなつた。

風 致 地 區 規 則

（昭和八年八月三十日
大阪府令第八八號）

第一條 風致地區内ニ於テハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

- 一 樹竹林ノ皆伐
 - 二 巨木ノ伐採
 - 三 池沼河水ノ汚染
 - 四 前各號ノ外風致ヲ害スル行爲
- 第二條 風致地區内ニ於テ左ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ當廳ノ認可ヲ受クベシ但シ別ニ告示シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 建物其ノ他工作物ノ新築、改築、増築、除却又ハ移轉

二 土地ノ掘鑿、盛土、水面ノ埋立又ハ道路、溝渠等ノ廢置其ノ他土地ノ形質ノ變更

三 竹木土石ノ類ノ採取

四 前各號ノ外風致維持ニ影響ヲ及ボス虞アル行爲

第三條 前條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ設計書又ハ施行方法書ヲ添附シ申請書正副二通ヲ提出スベシ

一 申請者ノ住所氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ住所氏名）

二 行爲地ノ所在地目及面積

三 認可ヲ受ケントスル行爲及其ノ目的

四 着手並ニ完了ノ豫定期日

五 其ノ他參考事項

前項ノ設計書又ハ施行方法書ニハ左ノ圖面ヲ添附スベシ

一 附近地ノ見取圖

二 平面圖（位置ヲ含ム）、立面圖、意匠配色圖等設計又ハ施行方法ノ表示ニ必要ナル圖面

第四條 第二條ノ認可ヲ受ケタル行爲ヲ完了シ又ハ中止シタルトキハ五日以内ニ其ノ旨届出ヅベシ

第五條 第二條各號ノ行爲ニシテ他ノ法令ニ依リ當應ニ願届ヲ要スルモノニ付テハ其ノ願届書ニ本令ノ願届ヲ併記スルコトヲ得

第六條 第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

附 則

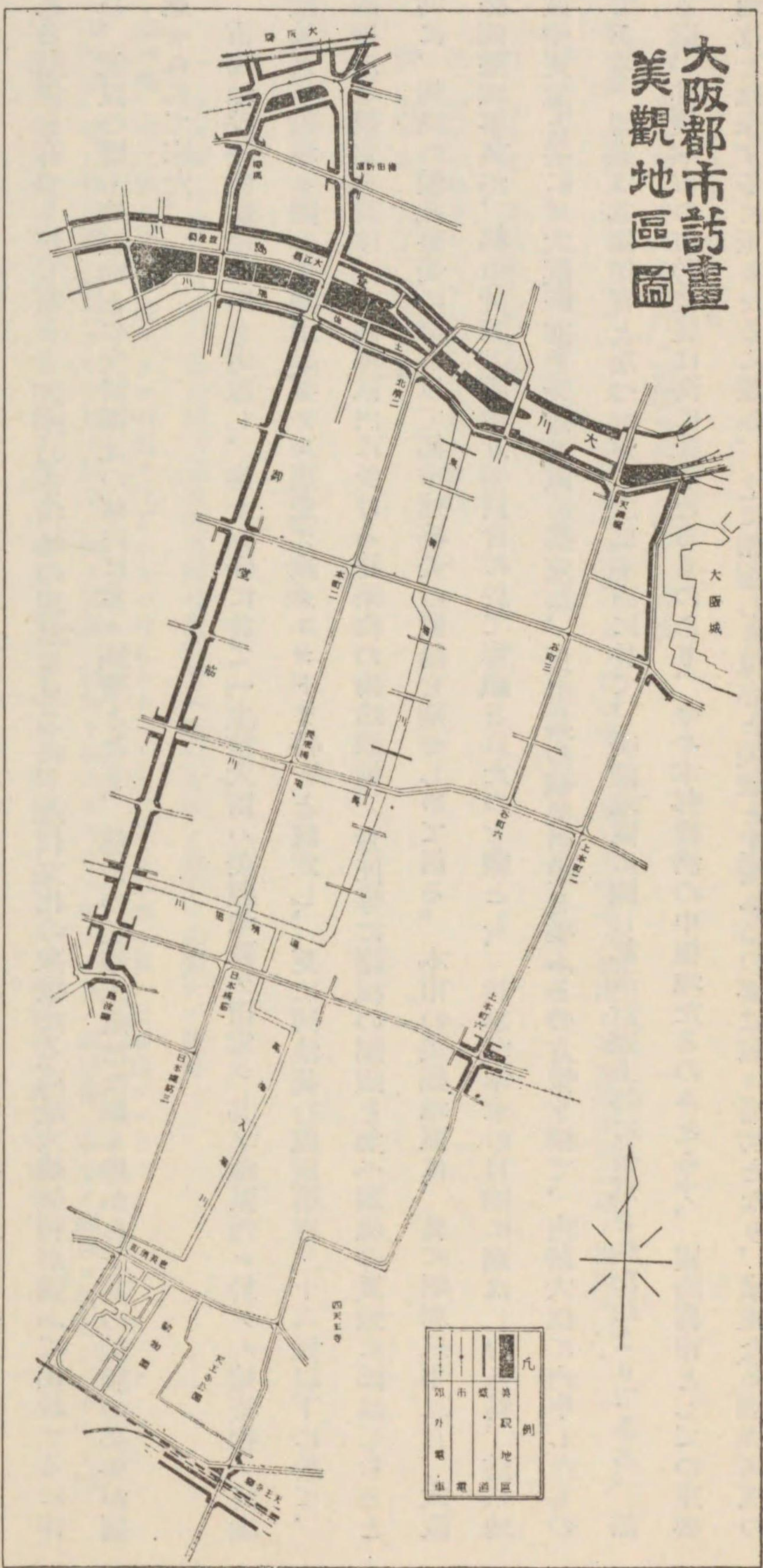
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五 大阪都市計畫美觀地區

都市美は一面輪奐の美である。其の美醜は獨り都市美觀上のみならず、都市の品位保持の上から云ふも極めて重大なる關係を有つものである。近時の市街地の現状を見るに、近代文化の象徴たる高層大建築物が競ふて出現するに伴ひ、既設の矮小建築物との交錯楯比の傾向は愈々顯著となり、都市の美觀上遺憾な點も尠からず其の統制の必要が痛感せられて來た。

市街地建築物法は此點を考慮し、第十五條に於て「主務大臣ハ美觀地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ノ構造設備又ハ敷地ニ關シ美觀上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得」と規定し、更に同法施行規則第三百三十六條以下に於て、詳細なる規定を設け、美觀地區内に於ける建築物の構造設備、意匠等に諸種の制限を加へ環境の風致に添はしむると共に、街衢の體裁整美に努め以て都市建築美の發揚を期せしめて居る。本市の美觀地區は、曩に昭和三年三月、大阪驛前整理事業が、都市計畫大阪地方委員會に於て審議されたのを機とし、該事業本來の目的に副はしむる爲、防火地區變更案と共に、大阪驛前を美觀地區に指定し、以て其の輪奐の美を整ふるの方策を樹て、内務大臣に内申したものである。同案は其儘保留となつたが、之は本市に於て、美觀地區に關し都市計畫上特に留意された始まりである。然る處、其後本市の市勢發展は洵に顯著なるものあり、今や本邦經濟の中樞地たるのみならず、國際都市としての重要地位を確保するに至りたるに鑑み、之に相應しき偉容と美觀とを備ふるの要は愈々痛切となり、慎重なる調査考究の

大阪都市計畫
美觀地區圖



結果成案を得て再び内申した。内務當局に於ても鋭意審査の上原案を作成し、昭和九年五月二十六日都市計畫大阪地方委員會に諮問したので、同委員會は十一月二十八日開議、原案通り異議なく可決して其の旨を答申した。此處に於

いて同年十二月七日内閣の認可を得るに至つたのであつて、其の内容は中之島附近、大阪城附近並びに主要幹線道路の兩側及び主要郊外電鐵驛附近等總地積一二五・六二ヘクタールである。次に指定理由書を擧ぐるに左の通りである。

美觀地區指定理由書

大阪市ハ商工都市トシテ我國産業、經濟ノ一大中心ヲナシ昭和五年國勢調査ニ於テ人口約二百五十萬ヲ有シ世界都市中屈指ノ大都市タリト雖モ鐵道都市構築上ヨリ之ヲ觀ルトキハ猶幾多ノ施設改善ヲ要スルモノアルヲ以テ各種都市施設ノ計畫並ニ之ガ事業實施ニ付キ着々其ノ歩ヲ進メツツアルモ都市ノ美觀問題ニ付テハ未ダ具體的計畫ナキヲ以テ茲ニ中之島ヲ中心トスル土佐堀川、堂島川沿岸一帯、大阪城附近、主要各驛附近及重要幹線ノ兩側又ハ片側ヲ選定シ市街地建築物法第十五條ニ依ル美觀地區ニ指定シ建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關スル統制ヲ爲シ都市整備ノ實ヲ舉ゲ以テ健全ナル都市發展ヲ期セントス、而シテ今指定セムトスル區域ニ付按スルニ中之島ヲ挟ム堂島川及土佐堀川沿岸一帯ハ大阪市廳舎ヲ中心トシテ既ニ公共建築物ノ集團地タリ、大阪城西及南側ハ大阪府廳舎其ノ他主要建築物現存シ大阪中央放送局其ノ他ノ新築ト相俟チテ大阪城ノ外濠ニ面スル風光典雅ナル地區ヲ現出スルニ至ルベク、大阪驛、南海鐵道難波驛、京阪天滿橋驛、大軌上本町驛及阿部野橋驛附近ハ市内外交通ノ要衝ニ當リ美觀ノ増進ハ最モ緊要ナリト謂フベク、廣路御堂筋線ハ南北交通ノ重要幹線ニシテ都市計畫事業未ダ完成セザル爲街衢建築物ノ違容整ハザルモ將來高層建築地帶タルニ至ルベキハ明カナルベク、又梅田、渡邊橋間ノ道路ニ沿フ一帯ノ地ハ前記御堂筋線ニ沿フ一帯ノ地ニ次グ主要區域ナリト認ム以上ノ理由ニ依リ今回美觀地區トシテ指定セムトスル區域ノ總地積ハ約一二五・六二ヘクタール(水面ヲ除ク)ナリトス

尙ほ、大阪驛附近に就いては、昭和十一年一月十三日大阪府令を以て高度制限が行はるゝこととなり、附近地美觀増進は近き將來に於て其の完璧を期し得るに至つた。

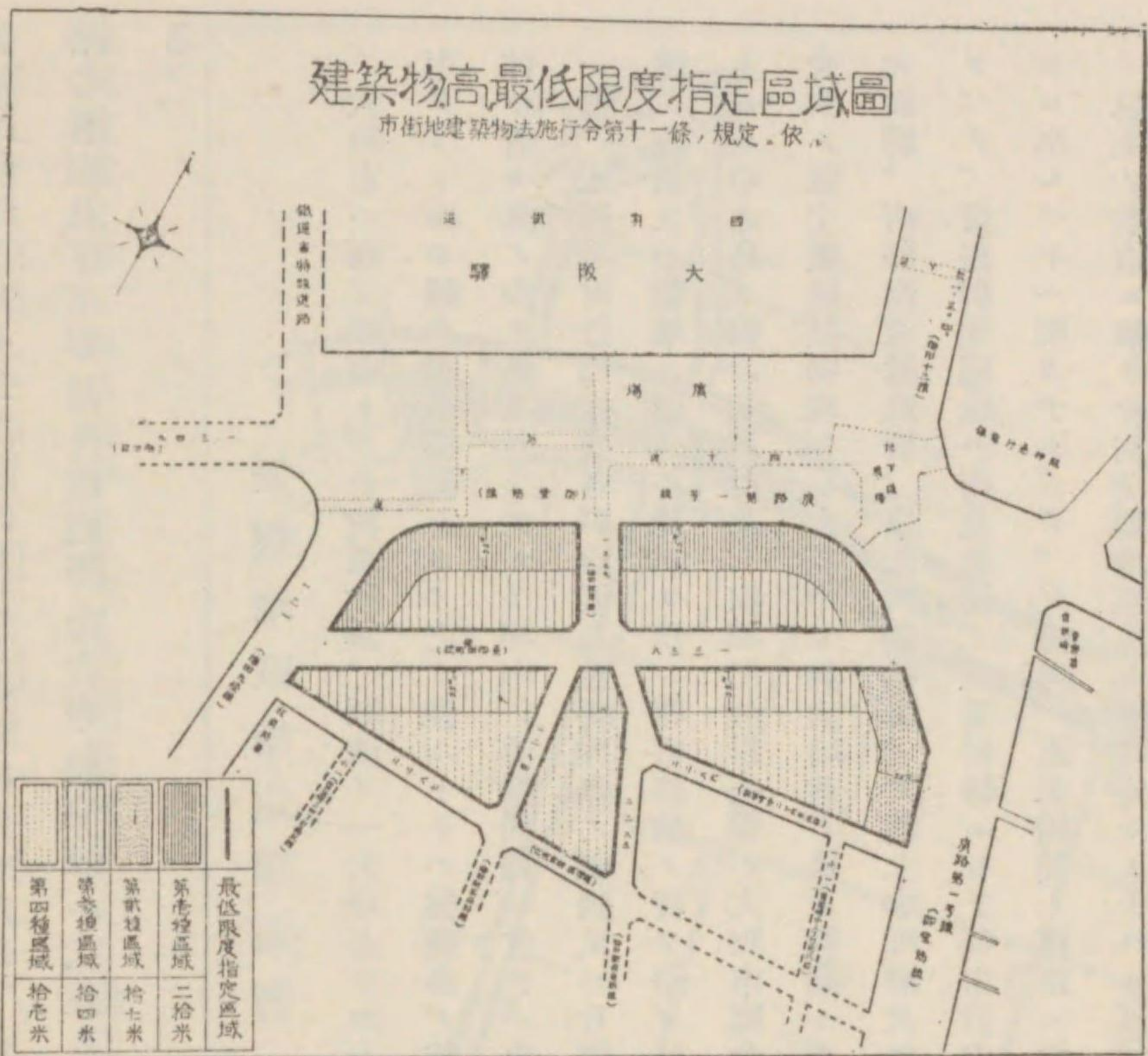


都市計畫大阪地方委員會ノ議ヲ經テ市街地建築物法施行令第十一條ノ規定ニ依ル區域並ニ其ノ區域内ニ於ケル建築物ノ高ノ最低限度

ニ關スル件左ノ通定ム其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備ヘ置キ縦覽ニ供ス

昭和十一年一月十三日

大阪府知事 安井英二



市街地建築物法施行令第十一條ノ規定ニ依ル區域並ニ其ノ區域内ニ於ケル建築物ノ高ノ最低限度ニ關スル件

第一條 市街地建築物法施行令第十一條ノ規定ニ依ル建築物ノ高ノ最低限度ノ區域ヲ左記圖面表示ノ通指定ス

第二條 前條ノ區域内ニ於ケル建築物ノ高ハ第一種區域ニ在リテハ二十メートル、第二種區域ニ在リテハ十七メートル、第三種區域ニ在リテハ十四メートル、第四種區域ニ在リテハ十一メートル以上ト爲スベシ但シ支關出入口ノ類及直接道路又ハ廣場ニ面セザル建物若ハ其ノ部分ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 本令ニ於テ建物ノ高トハ建物ノ敷地ガ道路ニ接スル部分ニ於ケル道路面ヨリ建物ノ外壁上端迄ノ高ヲ謂フ但シ外壁上端ニ扶壁又

ハ軒蛇腹アルトキハ外壁上端ヨリ一・五メートル以内ハ高ニ之ヲ算入スルコトヲ妨ゲズ

前項ノ道路面ニ高低ノ差アルトキハ低キニ依ル

第四條 假設建物ニシテ特別ノ事由アリト認ムルモノニ對シテハ第二條ノ規定ニ拘ラズ存續期限ヲ付シ特ニ建築ヲ許可スルコトアルベシ

六 大阪市區改正設計

本市は明治三十年第一次市域擴張によつて接續町村の編入を行つたが、此の新區域は街衢整はず、亂雜を極め、之れが整備の急を痛感せられつゝあつた。加之異常なる都市發展による交通量の増大は中央部街路の狹隘を痛感せしめ、茲に周圍部の整然たる街路網の確立と共に中央部街路の擴張とを愈焦眉の急とするに至り、在來の彌縫的改善を捨て、確固たる根幹的基礎調査の下に本市百年の大計を樹立することゝなつた。

即ち、大正六年四月都市改良調査會を設立すると共に専ら之れが調査を爲さしめ、大正七年法律第三十六號及び勅令第百八十四號を以て東京市區改正條例及び其の附屬法令が大阪市に準用せられるに及び更に一層慎重に本市内外に亘る都市改良計畫の大宗を調整し、先づ其の第一歩として市區改正の根幹を爲すべき道路網計畫を樹立した。本計畫は大正八年十二月十三日大阪市區改正委員會（現行都市計畫地方委員會の前身）に付議せられ、同委員會に於ては特別委員を擧げて之れに調査を付託し、特別委員會に於ては一部修正を爲し、同年十二月十七日の會議において該修正案を可決内申し、茲に同年十二月二十三日内閣の認可を経た。之即ち、大阪市區改正設計で本市に於て決定せられ

た第一次の計畫と稱することが出来る。此の計畫、即ち市區改正設計の中、第一次都市計畫事業中に決定された部分と別途計畫の定められた部分並びに計畫存置の要なきに至りたる部分等は、何れも昭和三年五月所謂綜合的大阪都市計畫の決定せられた際、整理變更せられたから、現存する設計は當初の儘ではない。今其の當初計畫と現存計畫とを記するに左の通りである。

大阪市區改正設計概要

計畫内容	當初計畫	現存計畫
(1) 街路の新設及擴張	四七路線	一四路線
同 延長	約六九、八六八間(一二七、〇二二米)	約一二、〇〇〇間(約二一、八一一米)
同 幅員	八間乃至二四間	八間乃至一二間
(2) 路幅整理	凡 六七、〇〇坪	—
(3) 尙ほ二等大路以上(幅員六間以上)及其他必要なる街路には鋪裝工事を行ふ	(在來の街路にして既定の幅員に満たざるものを整理し既定幅員とする計畫)	—

七 綜合大阪都市計畫

大正十四年四月一日本市は近接東成西成兩郡全部四十四ヶ町村を合併して市の區域とすると共に爾來年餘都市計畫區域の全部に亘り道路、公園、運河、下水道及び墓地等に關し根本的都市計畫の調査を爲し、大正十五年夏略之を完

了した。於茲内務、鐵道、逓信、大藏、陸軍各省、大阪府及び本市關例者の協議會を開き、其の意見を聽いて多少の補正を加へ、以て調査の完全を期した。斯くして本計畫案は昭和三年二月一日都市計畫大阪地方委員會に付議せらるゝに至り、同會に於ては特別委員を指名し審重なる討查を爲したる結果、多少の修正を加へ、同年四月十九日再開の委員會に於て可決確定の運びとなり、同年五月二十九日内閣の認可を得た。之即ち、所謂綜合大阪都市計畫であつて、市區改正設計を第一次の計畫と見るものは、之を第二次計畫と俗稱してゐる。

前記の如く、獨り街路のみならず、運河、下水道、公園及び墓地等に及ぶ綜合的計畫で、爾後市勢の進運に伴ひ各種施設の決定あり、之に關聯して局部的に内容の變更並びに追加を経て今日に至つてゐるのであつて、當初計畫及び現在計畫を總括すれば大體左表の通りになつて居る。

大阪都市計畫概要

計畫内容	昭和三年五月 決定當初計畫	現行計畫
(1) 街路の新設及擴張	昭和三三 決定當初計畫	現行計畫
同 延長	一〇一路線	一一六路線
同 幅員	二九〇軒	約三〇〇軒
同 幅員	一一米乃至四〇米	一一米乃至四〇米
(2) 運河の新設及擴張	一五線	一五線
同 延長	四二・八六軒	四二・八六軒
同 幅員	一八米乃至四七米	一八米乃至六〇米

(3) 公園の新設及擴築	五八箇所 (大公園三三ヶ所 小公園一三ヶ所 公園道一二ヶ所)	五八箇所 (大公園三三ヶ所 小公園一三ヶ所 公園道一二ヶ所)
同 面積	四・六四平方糎(公園道ヲ除ク)	四・五九平方糎(公園道ヲ除ク)
(4) 墓地新設	二ヶ所	二ヶ所
同 面積	〇・三六五平方糎	〇・三六五平方糎
(5) 下水處理	五處理區 面積一五四・九五平方糎	五處理區 面積一五四・九五平方糎
處 理 場	五ヶ所	八ヶ所
抽 水 場	八ヶ所	一一ヶ所
(6) 土地區劃整理	一地區(四七、二〇〇平方米)	

本計畫が昭和三年に決定されたときの決定理由書を記し參考に供する。

大阪都市計畫決定理由書

大阪都市計畫ハ大正八年十二月大阪市區改正設計トシテ街路四十七線ノ新設擴築並在來街路中既定幅員ニ滿タサルモノノ整理ヲ決定シタルモノニ始マル、都市計畫法ノ適用ヲ見ルニ及ビ大正十年三月及同年七月市區改正設計中市域内ニ於ケル街路二十五線、路幅整理(面積約六萬七千坪)及既設街路ノ鋪裝(面積約二十五萬坪)ヲ都市計畫事業トシテ確定シ之ヲ大正十年度ヨリ同十六年度ニ至ル七箇年ニ分割執行スルコトトシタリ、其ノ總工費一億四千二十萬圓トス、又市ノ外縁部ノ急激ニシテ不衛生的ナル發達ニ處スル方策トシテ下水道改良ノ急務ニ付スベガラザルモノアルヲ認メ大正十一年西野田、市岡及泉尾三軒家排水區(總工費四、六〇〇、〇〇〇圓、大正十一年度以降三箇年ニ執行スルモノ)、大正十三年四貫島春日出、善源寺東野田及西野田(一部)排水區(四、三〇〇、〇〇〇圓、大正十三年度以降三箇年ニ執行スルモノ)ノ下水道事業ヲ決定シタリ、其ノ後大正十二年ニ至リ關東地方ニ於ケル大震災災ノ深刻ナル教訓ニ鑑ミ取敢エズ既定街路計畫中緊急實施ヲ要スルモノ十七線ヲ加ヘテ總テ四十二路線トシ更ニ既設橋梁中主要ナル八十二橋ノ改築事業ヲ決定シ尙財政上ノ關係ヲ考慮シ既設街路ノ鋪裝面積ハ之ヲ十八萬坪ニ減少シタリ、之ニ要スル總工費約二億二千五百九十萬圓ニシテ昭和八年度迄ニ完成スルコトト定メタリ、次デ大正十四年三月地域制ノ決定ヲ見同十五年六月街路事業トシテ放射路線十線ノ追加ヲ見タリト雖モ之等ハ多クハ既成市街地ニ於ケル局部的施設ニシテ大阪市外五十五箇町村ヲ包含スル都市計畫區域内ノ急激且無秩序ナル發展ニ備フル方計トシテ未ダ完カラザルモノアリ、而カモ大阪市内ノ急激ナル膨脹ハ市域ノ擴張ヲ促進シ大正十四年四月東西兩成郡ニ屬スル四十四箇町村ハ市域ニ編入セラレタルヲ以テ之ガ綜合的計畫ヲ確立スルハ其ノ急務タルニ至レリ而シテ本年二月交通機關整備ノ一途トシテ高速度交通機關計畫(路線數四、延長約三十四哩)ノ決定ヲ見タルモノ今ヤ街路、運河、公園、墓地及下水道ノ調査モ亦完了シタルヲ以テ茲ニ之ヲ都市計畫トシテ確立セントスルモノナリ

今左ニ各施設ニ付其ノ計畫ノ大要ヲ述ブベシ

街 路

大阪都市計畫區域内ニ於ケル道路ハ其ノ分布、利用ノ狀況舊市域ト其ノ他ノ地域ト相同ジカラズ、舊市域ニ於テハ街衢比較的整ヒ道路直通シ路線ノ配置大體ニ於テ適當ナリト雖モ其ノ構築舊時ニ屬シ路幅著シク狹隘ニシテ近代交通ノ用ニ堪ヘザルモノ多ク商工業ノ能率ヲ減殺スル處尠カラズ、之ガ對策トシテ曩ニ都市計畫事業街路ヲ決定シ年度割ノ定ムル處ニ依リ漸次執行セラレツツアルヲ以テ完成ノ曉ニハ既設ノモノト合セテ延長約百四十軒(七六、八〇〇間)ノ幹線街路ヲ有スルコトトナリ從來ノ面目ヲ一新スルニ至ルベシト雖モ他ノ諸施設トノ關係及路線ノ配置等ヲ考察スルトキハ未ダ完全ナリト謂フヲ得ズ、又舊市域以外ノ地域ニ在リテハ近年開設セラレタル阪神國道ヲ除キ少數ノ放射線アリト雖モ何レモ幅員狹小ニシテ幹線道路タルノ用途ニ適應スルモノナク曩ニ決定ヲ見タル街路事業ノ完成シタル場合ニ於テモ尙幹線道路ノ總延長ニ於テ舊市ノ四分ノ一ニ滿タザル狀態ナリ、從テ若シ之ヲ現狀ノ儘ニ放

任スルトキハ郊外ハ將來不秩序且不衛生的ナル街衢ヲ形成シ一旦疫病又ハ大震災ノ厄ニ遭ハバ其ノ慘害計ルベカラザルモノアルベキハ之ヲ想察スルニ難カラズ、是ニ於テカ大阪都市計畫區域内ニ於ケル街路計畫ヲ確立スルハ現下ノ急務ナルヲ以テ即チ茲ニ舊市域ニ在リテハ既定計畫ヲ補足スル爲一二ノ幹線ト補助路線トヲ追加シ郊外ニ在リテハ既設道路ノ系統及幅員ヲ整正スルト共ニ大體一哩ノ間隔ヲ以テ幹線街路ヲ配置シ而シテ土地區劃整理及建築線ノ基準ヲ示シメ尙舊市域ニ接續スル新市街ノ過密状態ヲ矯正スル爲若干ノ補助路線ヲ配置シタリ其ノ路線數百一、延長約二十九萬三千二百米ナリトス

運河

市内ニ於ケル河川、運河ハ其ノ延長九萬五千米面積千七百五十二ヘクタール（五百三十萬坪）ニ上リ全市域ノ約一割ヲ占ムト雖モ其ノ大部分ハ單ニ惡水排除ノ用ニ供セラルルニ止リ眞ニ運輸機關トシテ利用セラルルモノ僅カニ延長八萬九千米面積約五百六十二ヘクタール（百七十萬坪）アルニ過ギザル現況ナリ、殊ニ將來工業地トシテ發展ヲ豫想セラルル舊市ノ外緣部ニ在リテハ水運ノ用ニ供セラルルモノナキヲ以テ市ノ中樞部ニ於ケル河川、運河トノ連絡系統ヲ整正スルト共ニ新市域ニ於ケル運河計畫ヲモ樹立シテ排水及水運ノ利便ニ備ヘ本市産業ノ發展ニ資セントスルモノナリ

下水道

下水道ノ敷設改良ハ都市住民ノ保健衛生上等閑ニ付スベカラザルハ贅言ヲ要セザル處ナリ、而シテ大阪市ノ現況ヲ見ルニ東部上町方面一帶ノ丘陵地ヲ除クノ外地勢概シテ平坦ニシテ大小ノ河川、運河其ノ間ヲ縱横ニ貫通シ水流動モスレバ停滯シテ惡臭ヲ放チ傳染病流行ノ源泉ヲ爲スガ如キ状態ナルヲ以テ明治二十六年市會ノ議ヲ經テ翌二十七年年度以降五ヶ年度ノ繼續事業トシテ一般ノ溝渠ノ改良ト舊市域ノ一部ニ於ケル下水道改良トニ着手シ爾來數次ニ亘リ其ノ他ノ市域ノ改良ヲ施シタリ次デ大正十一年及大正十三年ノ兩度ニ於テ舊市域ノ一部ニ於ケル下水道改良ヲ都市計畫事業トシテ執行ニ着手シ前者ハ既ニ工事ヲ完了シ後者ハ昭和二年年度ニ於テ之ガ竣成ヲ見ルニ至ルベシ、此ノ如クニシテ西部海岸ニ面スル地域ヲ除クノ外略々改良敷設ノ普及ヲ見タルモ其ノ施設ハ單ニ污水及雨水ノ

排除ヲ目的トシ沈砂及除塵ヲ行ヒタル儘附近ノ河川、溝渠ニ排出スルモノナルヲ以テ其ノ汚濁、惡臭ハ依然トシテ除去セラルルニ至ラズ、又大正十四年四月市域ニ編入セラレタル部分ニ對シテハ未ダ何等改良計畫ノ決定シタルモノナク殊ニ舊市ニ隣接スル市街地ノ現狀ハ下水溝渠ノ壞廢セルモノ多ク且地勢一般ニ低濕ニシテ晴天時ニ於テモ尙下水停滯シ一旦降雨ニ際シテハ道路、家屋ニ浸水シ其ノ慘狀言語ニ絶スルモノアルヲ以テ之ニ對スル下水道改良ハ焦眉ノ急務ナリトス、而シテ急速ナル市街化ノ擴大ト工場ノ増加トハ愈々河水ノ濁濁ヲ顯著ナラシメ市民ノ屎尿ノ處分ハ益々困難ナル事情ニ至ルベク之等ハ之レモ下水處理設備ノ完成ニ俟タザルベカラズ如上ノ見地ヨリ茲ニ完備セル下水道計畫ヲ確立セントスルモノニシテ即チ全市域ヲ地勢上五處理區ニ分チ各一ヶ所ノ處理場ヲ設置シ之ニ抽水所及下水道幹線ノ適當ナル配置ヲ爲シ最新處理法ニ依リテ之ヲ處理セントスルモノナリ

公園

大阪都市計畫區域ハ其ノ面積約八十五平方哩（約六千六百七十五萬坪）ニシテ之ニ包容スベキ人口ヲ現在ノ分布状態ヨリ觀察シ將來一平方哩ニ付舊市域ヲ九萬人、郊外地ヲ四萬人トスルキハ將來全區域ニ約四百五十萬ノ人口ヲ包容スルヲ得ベク今市民一人當リ公園面積一坪トセバ全區域内ニ四百五十萬坪ノ公園ヲ必要トス、然ルニ現在ニ於ケル公園ヲ見ルニ天王寺公園五萬坪、中之島公園二萬坪、住吉公園四萬坪ヲ主トシ其ノ他十餘ノ小公園ヲ併セテ僅カニ二十萬坪ヲ算スルニ過ギズ、而カモ大阪市ノ人口増加ハ年ヲ追ウテ甚シキモノアルヲ以テ其ノ市民ノ衛生保安及教化ニ及ボス弊害ハ愈々甚シカラントスルノ虞アリ、之即チ市ノ内外ニ亘リテ公園計畫ヲ樹立シ將來機會アル毎ニ之ガ實現ヲ策スルノ要アル所以ナリ、本公園系統ノ配置ニ付テハ天然ノ風致、土地ノ現況、各種ノ施設ノ計畫等諸種ノ事情ヲ考察シテ選定シタルモノニシテ面積三千坪ヲ超ユルモノ三十三（面積約百七十萬坪）、三千坪未満ノモノ十三（面積約二萬坪）、都市計畫區域ノ面積ノ廣大ナルニ比シ未ダ以テ充分ナリトナスベカラズト雖モ新澁川沿岸ノ綠地其ノ他ノ自然的空地及今後土地區劃整理ノ施行ニ伴ヒ設置セラルベキ小公園ト共ニ市民ノ生活ニ寄與スル所蓋シ大ナルモノアルベキヲ信ズ

市内ノ墓地ハ其ノ數二百七十餘箇所、面積九萬三千三百八十坪ヲ算シ本市ノ人口ニ比シ必ズシモ狹隘ナラザル觀アリト雖モ是等ノ墓地ハ無秩序ニ散在シ市街ノ風致若ハ土地利用ノ必用ヨリ見テ移轉改築ヲ要スルモノ尠シトセズ、而カモ天王寺、長柄ニ於ケルモノヲ除キテハ殆ンド墓標ノ覆フ所トナリ其ノ面積全體ノ九割六分強ヲ占ムル現況ナリ、續ツテ本市ノ人口ノ増加ト墓地使用ノ實績トニ徴スルニ現在墓地ノ空地三千四百四十四坪ハ辛ウジテ約七箇年ノ需用ニ應ズルニ止マル（一箇年使用面積人口一萬ニ付二坪トス）ヲ以テ之ヲ現狀ニ放任スルハ許サザル所ナリ

是ニ於テ大阪都市計畫トシテ墓地ノ位置ヲ市ノ郊外南北二箇所ニ選ビタリ、其ノ利用面積各五萬坪、而シテ其ノ境域内ニ通路及裝景地ニ充ツル區域ヲ除クモ實使用墓地面積各二萬五千坪ヲ得ベク現今ノ窮迫セル狀態ヲ緩和スルニ足ルベシ

八 大阪都市計畫高速交通機關

大阪市に於ける交通機關は、明治三十六年九月築港花園橋間に市營路面軌道第一號線の敷設せられたるを嚆矢とし爾來逐年軌道網の充實を圖つて來たが、交通は年と共に繁激の度を高め路面電車のみを以ては本市交通問題の根本的解決は到底望み得られない状態となつた。茲において本市は大正九年二月之が根本的調査を帝國鐵道協會及び土木學會に依頼したところ、本調査は大正十三年完了したので、之を都市計畫として決定すべく翌年内務、大藏、鐵道の各省、大阪府、及本市關係當局者の協議會において其の意見を聴き、其の決定案を以て大正十四年十一月二十六日付大阪市長から内務大臣に内申した。翌十五年一月十九日付を以て本計畫は都市計畫大阪地方委員會の審議に付せられ、

同年二月二十日原案の通可決、三月二十九日内閣の認可を得た。本計畫に係る路線數四總延長五四、杆四八、之が計畫決定理由書を記するに左の通りである。

高速交通機關決定理由書

本邦商工業ノ一大中心タル大阪市ニ於テ都市計畫ノ施設トシテ企畫スベキモノ枚擧ニ遑アラズト雖モ就中交通施設ハ其ノ基幹ヲ爲スモノナルガ故ニ速ニ之ガ計畫ヲ樹ツルノ要アリ、加之近時大阪市ニ於ケル交通量ノ増加ハ市勢ノ發展ニ伴ヒテ甚ク即チ現在市内ニ於テハ市營電車線五十二哩七分郊外電線七會社十路線及國有鐵道線六路線ヲ有シ而シテ市營電車一ケ年ノ乗車人員三億有餘人市ノ中樞部ニ於ケル一日ノ通過乗客ハ堺筋線ニ於テ十三萬人南北線ニ於テ十萬人玉造築港線及九條高津線ニ於テ何レモ六萬人ヲ算シ殊ニ朝夕ノ雜踏ハ名狀スベカラザルモノアルヲ以テ本市ノ都市計畫街路事業ノ進捗ニ伴ヒ將來増設延長ヲ見ルベキ電車線約三十哩ニ達スベシト雖モ過去ニ於ケル交通量ノ増加ノ趨勢ニ徴シ今後數年ヲ出デズシテ中樞部幹線ノ輸送力ハ其ノ極度ニ達シ路面電車ヲ以テシテハ到底將來ノ交通量ヲ輸送スル能ハザルニ至ルベシ、殊ニ本年四月市域ヲ擴張シテ東西兩成郡ヲ編入シタルヲ以テ到底從來ノ交通施設ヲ以テ足レリト爲スベカラザルコト明カナリ、是ニ於テカ高速交通機關ヲ敷設シテ以テ本市交通系統ノ根本的基準トナシ現ニ發展シツ、アル郊外ト都心部トノ交通連絡ヲ完全ナラシメ主要住宅地區ノ開發ニ資スルト共ニ舊市域ニ於ケル人口密度ノ過度ノ増大ヲ緩和シ以テ近代都市トシテノ機能ヲ發揮セシメ市民ヲシテ永久ニ利便ニシテ且能率アル都市生活ヲ享受セシムルノ要甚ダ緊切ナリト謂ハザルベカラズ、而シテ右高速交通機關路線ハ大體都市計畫路線中ノ大動脈上ニ配置シ市ノ中樞部ヨリ周圍部ニ向ヒ放射線式ニ之ヲ延長シ國有鐵道線近郊電氣鐵道線及路面電車線トノ連絡ヲ至便ナラシムルト共ニ現ニ郊外電線ノ普及シタル方面ヲ避ケテ比較的交通機關ノ分布セザル方面ニ布設スルコト、シ南北ニ直通スルモノ二線東西ニ貫通スルモノ一線（此ノ延長約三十三哩）ヲ選ビ茲ニ都市計畫トシテ之ヲ決定セムトス

三 事 業

一 第一次大阪都市計畫事業

本市各方面に於ける顯著なる進展に順應する爲め、曩に大阪市區改正設計の確定を見たのであるが、本計畫の全部に付年度割を決定し事業を執行することは、到底市財政の容さぬ所であつたから、大正九年六月大阪市長は此の中最も急施を要する路線を選び事業としての決定方を内務大臣に内申した。同案は同年十二月十三日付都市計畫大阪地方委員會に諮問され、翌十年一月十五日の委員會に於て年度割の一部を修正した外原案通り可決し、同年三月十九日内閣の認可を得た。之即ち所謂第一次都市計畫事業と稱するものゝ當初事業で、同年七月一日追加の阪神國道線(大阪府知事執行 大阪市費用)を加へ其の概要は左の通りであつた。

第一次大阪都市計畫事業(決定當時)ノ概要

- (1) 街路の新設擴張
二五路線
延 長 一九、七四四間(三五軒九)
同 幅員 八間乃至二四間
- (2) 既設街路の舗装
凡二五〇、〇〇〇坪(八二六、四〇〇平方米)

- (3) 路幅整理
凡六七、〇〇〇坪(二二一、五〇〇平方米)
- (4) 施行年度
自大正十年度(七ヶ年)
至同十六年度
- (5) 事業費
一四〇、二〇〇、〇〇〇圓

然るに、本事業が漸く緒に就き、之が執行の道程において偶々大正十二年九月の關東大震災勃發し其の慘害定に名状すべからざるものあるに鑑み、本市に於ても獨り舊市域内の街路の改良のみに止らず、市の中樞部より其の郊外に通ずる放射道路開設の急務なるを認め、市會は全會一致を以て既定計畫の更正を建議した。市長は變更計畫案を具し、大正十三年四月十二日付内務大臣に内申、關係當局に於ても鋭意審査の上成案を得、同年九月二日都市計畫大阪地方委員會に諮問を發した。委員會に於ては數次に亘り慎重審議の上、同年十月三十日一部希望條件を附し可決答申、同年十一月二十九日内閣の認可を得た。

本變更は相當廣範圍に亘り前述の第一次都市計畫事業の殆んど全面的更正とも見られるので本市に於ては之を「更正第一次都市計畫事業」と呼稱した。

斯くて、新規繼續豫算並びに執行年度割に基づき専ら施行に力を致して來たが、他の新規事業との振合上、或は財源の關係上、數次の大小更正を経て今日に至つて居る。其の變更經過は後編に於て詳述する如くであるが、昭和七年一月二十九日及昭和十一年十二月七日内閣の認可を得たる變更は何れも相當重要なもので其の變更經過を擧ぐるに左の通りである。

第一次都市計畫事業變更經過

事業内容	現行事業(昭一一、一二、七決)	第二次更正(昭七、一、二九決)	第一次更正(大正一三、一一、二九決)
(1) 街路の新設擴張	三九路線(幅員七間乃至二四間) (他二一路線ヲ加フ)	四〇路線 (他二一路線ヲ加フ)	四一路線 (他二一路線ヲ加フ)
(2) 路面舗装	約一八〇、〇〇〇坪(五九五、〇〇〇平方米)	約一八〇、〇〇〇坪	約一八〇、〇〇〇坪
(3) 路幅整理	約六七、〇〇〇坪(二二一、五〇〇平方米)	約六七、〇〇〇坪	約六七、〇〇〇坪
(4) 橋梁改築	八一橋	八一橋	八二橋
(5) 施行年度	自大正十年度十八ヶ年 至昭和十三年度	自大正十年度 至昭和十一年度	自大正十年度 至昭和二十二年度
(6) 事業費	一六三、〇〇〇、〇〇〇圓	一六五、九二四、〇〇〇圓	一八二、九三四、〇〇〇圓

二 寢屋川附近都市計畫事業

寢屋川の舊河口が淀川に合流してゐた地點は、東横堀川の流入口に近接してゐた爲、寢屋川から流出する悪水は直ちに枝川に流入して之を汚濁し、市民保健上寒心すべき状態にあつた。故に寢屋川を改修し、京橋下流を幅員三十間乃至四十五間(五四・五米乃至八一・八米)に整理し、流水の疏通を圖り、淀川の清水に合流せしめて枝川汚染の弊を除去し、併せて舊河川敷の一部を埋立て、附近民有地の一部を収用して京橋北詰から天満橋南詰に至る區間に幅員

十二間の街路を配置し、路線の兩側には建築敷地を造成する計畫を樹てた。本案は大正十四年七月内申、翌十五年十二月二十日付都市計畫大阪地方委員會に諮問され、同委員會に於ては昭和二年三月二十八日原案通り可決の旨答申し同四月十一日内閣の認可を得、同年度以降五年度に至る四ヶ年繼續事業として執行することとなつた。

其の後將棋島堤塘上にある工作物撤去遅延の爲め事業が豫定の通り進捗しなかつたので、施行年度割變更の必要を認め、昭和六年三月二十八日及び同七年三月二十九日の二回に亘り内閣の認可を経て變更し、昭和八年三月三十日竣功した。本事業の概要並びに決定理由書を掲ぐるに左の通りである。

- (1) 街路の新設擴張 一線 延長 二〇七間(四六七米)
- (2) 橋梁新設 一橋 延長 五二間(九四・五米)
- (3) 建築敷地造成 一二、六五〇坪(四一、八〇〇平方米)
- (4) 施行年度 自昭和二年度六ヶ年
至同七年度
- (5) 事業費(決算額) 二、二二〇、〇〇〇圓

寢屋川附近都市計畫事業決定理由書

寢屋川線ハ大阪市東北部ニ於ケル交通系統ヲ整理スル爲重要ナル街路タルヲ以テ大正十三年十一月二十九日内閣ノ認可ヲ經テ確定シタル大阪都市計畫街路事業ノ變更ニ際シテ考慮スル處アリシト雖モ本街路ノ改設ニハ前提トシテ河川法ノ適用ヲ受クル寢屋川ノ附替並埋立、陸軍省所管荷揚場ノ移轉、京阪電氣鐵道天満橋停留場改築等諸種ノ關聯スル問題ノ解決ヲ要スルモノアリシ爲茲在昔今日ニ至レルモノニシテ今ヤ漸ク是等ニ關スル手續ノ進捗ヲ見タルヲ以テ茲ニ之ヲ都市計畫事業トシテ決定シ左記ニ列舉スル各種ノ工事ヲ

綜合的ニ解決セムトスルモノナリ

五〇

一 街路ノ開設

街路ノ幅員ハ十二間トシ之ヲ歩道車道ニ區分シ其路面ヲ鋪裝シテ路面電車ヲ運轉スル爲車道ノ中央ニ複線軌道ヲ敷設スルモノトス

二 河川ノ附替

相生町五十七番地及其ノ附近ニ於テ新ニ幅員三十間乃至四十五間ノ水路ヲ開鑿シテ寢屋川及鯉江川ヲ西北ニ導キ直ニ澗川ニ合流セシムルモノトス而シテ新水路ノ開鑿ニ伴ヒ澗川護岸ノ一部ヲ撤去シ且ツ天滿橋南詰ヨリ上流へ約二十八間ノ澗川護岸ヲ約十間後退シテ改築ス

三 建築敷地造成並土地區劃整理

街路ノ新設及其ノ廢止ニ因リ在來土地ノ區劃ハ著シク變化シ到底適當ナル建築敷地タルコトヲ得サルヲ以テ河川ノ變更ニ因リ生スル廢川敷地ヲ埋立テ之ト廢堤防敷地及附近民有地ヲ併セ建築敷地ヲ造成シ土地ノ區劃整理ヲ行フ

四 低水敷護岸ノ築造及曳船道ノ新設

天滿橋下流ニ於テ將碁島堤防ヲ撤去シ對岸天滿市場地先ノ低水敷護岸角ヨリ約五十五間ノ幅員ヲ保チタル地點ヨリ天神橋南詰ノ低水敷護岸角ニ引キタル一線ヲ劃シテ天滿橋京橋三丁目四十七番地地先間ニ低水敷護岸ヲ築造シ天滿橋ノ下流ニ在リテハ前記埋立地ノ水際ニ幅員約五間ヲ有スル小段ヲ設ケテ之ニ充用シ傍ラ洪水敷ノ用ニ供ス而シテ同橋上流ニ在リテハ新川左岸入口ニ之ヲ設ケ其ノ幅員ヲ一間半トス

右事業完成ノ曉ニハ獨リ街路軌道ノ交通系統ヲ改善シ從來ノ面目ヲ一新スルノミナラス京阪電氣鐵道天滿橋停留場ヲ擴張シ現ニ日々構外ニ横溢スル乗客ヲ場内ニ收容シ延テ路上交通ノ整理ニ裨益スル所大ナルモノアルヘク之ニ要スル總工費三百二十七萬九千圓ヲ大正十六年度以降同十九年度ニ至ル四ヶ年ニ割リ大阪市長ニ執行セシムトスルモノナリ

三 大阪驛附近都市計畫事業

(附 大阪驛前土地區劃整理事業)

本市交通運輸の樞軸を爲す大阪驛は貨客の激増年と共に著しく、而も同驛を挟んで阪神、阪急二大電鐵の終端驛相對峙し、附近には廣路御堂筋線以下六條の街路集中し、更に本市高速度鐵道の地下停留場も驛東端近くに築設せられるに及び、之等交通機關整備の曉は同驛附近は實に本市内外交通の一大焦點と爲り更に混雜を來すべきは言を俟たざる所であつた。

以是國有鐵道大阪驛の改築に對應し、驛附近を整理するの緊要なるを認め、都市計畫事業として執行すべく夫々調査を進め大正十五年十一月九日內務、鐵道兩省、大阪府、市、其の他關係當局者の協議會を開き成案を得て内申したる處、同案は其後關係當局に於て一層慎重に審査され、昭和三年一月二十一日付都市計畫大阪地方委員會に諮問、同委員會に於ては同年四月十九日原案通り可決答申し、同年五月二十二日內閣の認可を得るに至つた。之即ち、當初の大阪驛附近都市計畫事業で、本事業は大阪驛附近に集中する既定都市計畫事業街路御堂筋線外二路線の一部を變更し、大阪驛前に約四千二百坪の廣場を設け、且之に敷條の地下道を布設して交通機關の連絡を圖り、新に東梅田町線外一線を計畫し、前者の兩側には建築敷地を造成せんとするものであつた。

(一) 街路の新設及擴張

五線 延長四一一間

- (2) 地下道新設 七線 延長二九四間
- (3) 廣場の新設 面積 約四・二〇〇坪
- (4) 建築敷地造成 面積 約七・二〇〇坪
- (5) 施行年度 自昭和三年度 至昭和八年度 六ヶ年
- (6) 事業費 九、八八四、〇〇〇圓

然るに、本執行方法は財政上の理由と其の後の交通状態の變遷等に因り一部變更の止むなきに至つたので、調査の上計畫並びに事業につき成案を得て内申し、之に對し關係當局に於ては慎重なる討査を爲し、昭和九年三月十二日付原案を都市計畫大阪地方委員會に付議し、三月二十三日原案可決、同三月三十一日内閣の認可を得た。これが現行の大阪驛附近の都市計畫事業である。

此の變更の結果として、當初事業に於て執行する豫定であつた驛前南方一廓の建築敷地造成は別に土地區劃整理の方法で執行することとし、大阪都市計畫に土地區劃整理之部として追加決定し、遅くとも一年後には適宜整理され得るの途を拓き、更に土地區劃整理地區内の都市計畫街路六路線をも都市計畫事業に追加し、驛前地下道の整理變更も行った。斯くて、事業を執行し來つたが、諸種の事情により既定年度内に完了の見込が立たなかつたのと、其後の交通状態により事業の一部に變更の餘儀なきに至つた部分もあつたので、之が變更方を内申し、昭和十一年十二月十一日及び翌十二年一月二十五日の都市計畫大阪地方委員會々議の議を経て同年二月九日内閣の認可を得た。現在執行中のものは此の事業執行方法によるものであつて其の内容概要は左の通りである。

大阪驛附近都市計畫事業

事業内容	現行事業
(1) 街路の新設及擴張	九路線 延長約一、六九五米
(2) 地下道新設	七線
(3) 廣場の新設	面積 約四、二〇〇坪(約一三、八八〇平方米)
(4) 施行年度	自昭和九年度 至昭和十四年度 六ヶ年
(5) 事業費	四、九一九、〇〇〇圓

大阪驛前土地區劃整理事業は大阪驛南方の既成市街地の整備を目的とするものである。元、大阪驛附近整理都市計畫事業に於て、建築敷地造成事業として執行される豫定であつたが、財政其の他諸種の事由から土地區劃整理として執行するに至つたことは前述の通りである。昭和九年三月三十一日都市計畫事業として内閣の認可を得、都市計畫法第十三條及び同法施行令第十五條に依る内務大臣の執行命令は昭和十年四月二十二日付大阪市を執行者として發令を見るに至り、本市は受命の日から三箇年以内に工事完了の豫定として着手した。本事業の内容は概略左の通りのものである。

大阪驛前土地區劃整理

- (1) 整理區域 一四、三〇〇坪(約四七、二〇〇平方米)
- (2) 高層建築物の建築に適應する劃地造成

- (3) 地區内都市計畫街路用地の開設
- (4) 其他土地區劃整理に必要な事項
- (5) 施行年度 自昭和十年度 至昭和十二年度 三ヶ年
- (6) 事業費 二、七〇〇、〇〇〇圓

四 第二次大阪都市計畫事業

大正十四年の市域擴張に伴ひ、綜合的都市計畫樹立の必要を認め、昭和三年五月所謂第二次都市計畫の決定を見たことは既述の如くである。爾來産業の發達、交通並に物資移動の激増に伴ひ、之に順應すべき諸般の施設は益々其の急施を必要とし、市勢の發展は單に都市計畫の決定のみを以て満足するを許さざるものがあつた。故に新舊兩市域に亘る交通機關の完備、新市域の開發及び工業地域に於ける施設、並に都心部密集地域に於ける保安衛生上の施設等に關し調査の結果、既定計畫中街路の新設及擴張三十八線、街路の鋪裝五十萬平方米、公園の新設及び擴張十七、運河の新設擴張四線、及び墓地の新設二個所を撰擇し、之を都市計畫事業として決定せられんことを昭和四年一月十八日内務大臣に内申した。然るに時恰も一般財界の不況及び之に伴ふ政府の緊縮政策の爲同事業は内務省に於て留保せらるゝに至つた。

乍然、新市方面の發展甚だしきものがあり、土地區劃整理事業は既に認可を得て進行の道程にあつた組合數も五十地區、此の面積九百萬坪に垂んとし、新市全部に亘り非常なる勢を以て發展しつつあつた。ただし、多くは建物のある宅地を除斥せる關係上、土地區劃整理として施行せる道路は完全なる連絡を缺く爲め之が連絡を圖るは常に整理施行地の効果を完全に發揮せしむるのみならず都市計畫としても之が完成は一日も緩にすべからざる筈に焦眉の急に迫られて居た。以是、曩の内申案に相當重大なる變更を加へ、財政を積へ既定都市計畫事業との關係を考査し、眞に緊急止むを得ざるもののみにつき、必要の最小限度に於て街路二十八線、路面の鋪裝五十七萬平方米、運河二線を新に選定して昭和七年一月九日内務大臣に内申した。本案は同年九月十六日付都市計畫大阪地方委員會の議に付せられ、十月十三日開會の委員會に於て原案通可決し、十月二十八日内閣の認可を得るに至り、同年十一月二十四日大阪市長の告示を見たものである。其後、夕陽ヶ丘猪飼野線及び阿部野木津川線等に一部變更を見て今日に至つてゐる。本事業の概要並びに理由書を擧ぐるに左の通りである。

第二次大阪都市計畫事業

- (1) 街路の新設及擴張 二八線 延長 四七、〇九八米(幅員一米乃至四〇米)
- (2) 路面鋪裝 面積 五七〇、〇〇〇平方米
- (3) 運河の新設及擴張 二線 延長 五、八八二米(幅員二二米乃至四〇米)
- (4) 執行年度 自昭和七年度 至昭和十四年度 八ヶ年
- (5) 事業費 四六、〇〇〇、〇〇〇圓

第二次都市計畫事業決定理由書

大阪市ハ大正十四年四月東西兩成郡ヲ合併シテ統制アル都市建設ノ前提トシテ新舊兩市域ノ連絡及郊外新市域ノ開發ヲ圖ル爲根本的計畫ヲ樹立セリ即チ曩ニ大阪都市計畫トシテ決定セラレタル街路一〇一線此ノ延長約二九三、〇〇〇米、運河一五線此ノ延長約四三、〇〇〇米、公園大小四六ヶ所此ノ面積約四六〇ヘクタール、公園道路延長約二〇、〇〇〇米、墓地二ヶ所此ノ面積約三七ヘクタール及下水處理ニ關スル綜合的計畫之ナリ

本市ハ現ニ施行シツツアル既定都市計畫事業アルヲ以テ巨額ノ費用ヲ要スル是等計畫ノ全部ヲ今直ニ事業トナスハ財政其ノ他ノ關係上到底許ササル處ナリ然レトモ最近新市方面ノ發展甚タ著シキモアリ加フルニ土地區劃整理事業ハ現ニ認可ヲ得テ進行ノ道程ニアルモノ地區數約五十此ノ面積約九百萬坪ニ垂ントシ新市全部ニ亘リ非常ノ勢ヲ以テ事業ノ進展ヲ見ツツアルモ多クハ建物アル宅地ヲ除斥セル關係上土地區劃整理トシテ施行セル道路ハ完全ナル連絡ヲ缺ク力故ニ之カ連絡ヲ圖ルハ膏ニ整理施行地ノ效果ヲ完全ニ發揮セシムルノミナラス都市計畫トシテモ亦之カ完成ハ一日ヲ緩ウスヘカラサル状態ニ在リ故ニ都市計畫事業トシテ街路、公園、運河等ノ施設ヲ爲スハ寔ニ焦眉ノ急ナリトス以是財政ヲ稽ヘ既定都市計畫事業トノ關係ヲ考査シ必要ノ最少限度ニ於テ街路、運河ニ付本事業ヲ選定シ昭和七年度ヨリ昭和十四年度ニ至ル八ヶ年間ニ繼續執行スルコトトシタリ以下選定ノ理由ヲ略述スヘシ

街 路

街路ノ新設及擴張ニ就テハ(一)既定都市計畫事業路線ト連絡關係アルモノ(二)高速度交通機關第一期事業ニ順應セシムルモノ(三)下水道處理事業上必要ナルモノ(四)土地區劃整理事業ノ施行ニ伴ヒ新市建設ノ根基ヲナスモノ(五)路面電車網ト關係アルモノ等ヲ考慮シ二十八線ヲ選擇セリ

街路鋪裝ハ既定事業ニ依リ面積三十一萬坪ヲ施行セラルヘシト雖交通ノ現状ヨリ尙急施ヲ要スルモノ面積凡五十七萬平方米ヲ施行スルコトトセリ

運 河

運河ハ工業地發展ノ施設トシテ必要缺クヘカラサルモノナレトモ財政ノ都合許ササルモノアルヲ以テ本事業トシテハ己ムヲ得ス堂島及城北ノ二運河ニ止メタリ即チ堂島運河ハ本市物資集散ノ樞軸ヲ爲ス國有鐵道東海道本線梅田驛ノ運輸狀況ニ鑑ミ同驛構内梅田入堀ト堂島川トノ連絡施設ハ一日モ忽ニスヘカラサルモノアルニ由リ又城北運河ハ最近著シク進捗シタル本市東北郊一圓ノ土地區劃整理ノ效果ヲ全カラシムル爲差置キ難キヲ以テ之ヲ事業トシテ選定セリ

五 第三次大阪都市計畫事業

本市に於ては既に第一次及び第二次の都市計畫事業に於て、街路、橋梁、及び運河等の新設擴張をなし、或は改築を決定し現在執行中であるが、止まる處なき市勢の膨脹進展は各種事業施設の現出と相俟つて益驚異的の趨勢を示し大都市生活安定への技術的方面よりする貢献を愈多量に要求してゆく。生産都市たる本市は昭和十一年十月推計人口三百餘萬人を算するに至り、従つて其の交通量の増大も思ひ中ばに出づるものがある。されば是等各種要望に鑑み、豫ねてから調査考究の中より眞に緊急止むを得ざるもののみにつき、必要の最少限度に於て、街路十二線、路面鋪裝百萬平方米、橋梁三十二橋及運河二線を選定し、之が執行を昭和十一年十二月十九日内務大臣に内申した。關係當局に於ては其後慎重に審査考究され、昭和十二年一月三十日付都市計畫大阪地方委員會に付議し、同委員會は二月九日

開會原案通り異議なく可決答申した。茲において同年三月二日愈内閣の認可を得るに至り、次いで三月二十日大阪市長は之れを告示をした。本事業は昭和十二年度から執行の豫定である。

本事業の概要並びに之れが決定理由書を擧ぐるに左の通りである。

第三次大阪都市計畫事業概要

- (1) 街路の新設擴張 十二路線(幅員一米乃至二七米)
同 延長 約一八、〇〇〇米
- (2) 街路鋪裝 面積 約一、〇〇〇、〇〇〇平方米
- (3) 橋梁改築 三二橋(幅員七米乃至二五米)
- (4) 運河の新設擴張 二線(幅員二二米乃至四七米)
- (5) 施行年度 自昭和十二年度
至昭和十八年度 } 七ヶ年
- (6) 事業費 約二六、〇九〇、〇〇〇圓

第三次都市計畫事業決定理由書

大阪都市計畫各種事業ノ進捗ニ伴ヒ之カ一層效用ヲ發揮スル爲ニモ又現在ノ交通狀況及保安上ノ見地ヨリ見ルモ現況ノ儘放置シ難キモノアルヲ認メラルルヲ以テ最モ急施ヲ要スト認メラルル森小路大和川線外十一路線ノ新設擴張、既設街路ノ鋪裝、現在橋梁ノ改築及川北、木場川ノ二運河ヲ選ヒ之ヲ都市計畫事業トシテ起工シ昭和十二年度以降七ヶ年ノ繼續事業トシテ之カ完成ヲ期セムトス

六 大阪都市計畫事業高速交通機關

本市に於ける高速度交通機關施設に關しては、曩に大正十五年三月二十九日都市計畫として内閣の認可を得たのであるが、其後の市勢の顯著なる進展は都心部に於ける人口の過剩と朝夕の交通雜踏を誘致し、周圍部への人口の分散を焦眉の急とし、單に計畫の決定のみを以て満足するを許さざるに至つたので、財政を稽へ急施を要するものを選び都市計畫事業として執行すべく、先づ昭和三年五月高速鐵道建設費繼續年期及支出方法を市會に提案し、同年九月一日議決を經、内務大臣宛内申した。爾來關係當局に於ては鋭意審査考究の上、越えて同四年五月四日付都市計畫大阪地方委員會の議に付し、同委員會に於ては、同月十八日の本委員會に於て原案通可決確定、其の旨答申することとなり、斯くて同案は六月十四日内閣の認可を得るに至つた。

次いで、本市に於て之れを執行する爲、同年十二月都市計畫法施行令第六條に依る特許を申請したる處、同月二十六日認可あり、仍て本市は臨時高速鐵道建設部を設け、昭和五年一月二十九日起工、爾後着々工事を進め、第一號線中、梅田難波間約四軒は既に營業中、他の區間についても引續き施工中に屬する。尤も諸種の事情に厄せられ豫定期間内の竣成は到底覺束なくなつたのと、時偶々其の後の市勢の發展による事業方針の一部變更を餘儀なくされた爲、昭和七年十二月二十八日並同十年十二月六日の二回に亘り内閣の認可を以て夫々變更を見るに至つた。

現在執行中の本事業の概要並に之れが當初決定理由書を擧ぐるに左の通りである。

(1) 路線	二線 延長 約一九千九四 (第一號線 一六千二二 第三號線 三千七二)
(2) 停車場	十七ヶ所
(3) 變電所	四ヶ所
(4) 車庫及工場	一ヶ所
(5) 執行年度	自昭和十四年度 十一ヶ年 至昭和十四年度
(6) 事業費	一〇七、六七五、〇〇〇圓

高速度交通機關決定理由書

本市商工業ノ發展ニ伴ヒ都心部ニ於ケル人口ノ密集ト交通量ノ増大トヲ緩和スル方策トシテ曩ニ都市計畫高速度交通機關(路線數四、延長約三十三哩)ノ決定ヲ見タリ然リト雖モ今直チニ之カ全部ノ建設ヲ爲サントセハ巨額ノ費用ヲ要シ大阪市目下ノ財政狀態ニ在リテハ到底實行ヲ期スルコト至難ナルニ依リ其ノ中南北ヲ縦貫スル大動脈トモ稱スヘキ第一號線ノ内最モ緊要ヲ要スト認メラル、新淀川北岸南方ヨリ梅田、本町、難波、天王寺等ノ交通上ノ中心地ヲ經テ我孫子ニ至ル區間(約十哩)ヲ第一次ニ都市計畫事業トシテ執行シ而シテ街外地ト都心部トノ交通連絡ヲ完全ナラシメ主要ナル住宅地ノ開發ニ資スルト共ニ都心部ニ於ケル人口ノ過剩ヲ緩和シ且朝夕ノ名狀スヘカラサル交通ノ雜踏ヲ匡救セント欲ス之ニ要スル總經費ハ約七千九百萬圓ニシテ昭和四年度ヨリ同七年度ニ至ル四ヶ年ニ割り完成ヲ期セントスルモノナリ

七 大阪都市計畫下水道事業

(イ) 都市計畫法施行前ノ下水道事業

本市の地勢は一部高臺地を除きては他は概して平坦なる低地であり、而も市内を縦横に貫流する枝川は殆んど大部分運河として開鑿したもので坦々として水流極めて緩慢である。従つて豪雨に際しては雨水は道路及溝渠に溢流し、更らに人口の増加と産業の發展とに伴つて激増せる汚水は附近の枝川に殺到して、河水を著しく濁濁せしめ、又夏季旱天時には凡ゆる溝渠は悪水停滞し不潔を極め眞に市民保健上寒心すべき状態に在つた。時偶々明治十九年及び同二十三年に於ける虎疫の流行は下水道改良の急務なるを痛感せしむるに至り、本市は同二十七年に至り五ヶ年の繼續事業として一般溝渠の改良と舊市域一部の下水改良事業に着手したが、之が完了に先だち明治三十年四月接續町村を編入せられたるを以て新市域に於ける下水道一部の改良工事も併せ施行することとなつた。而して此の工事は明治三十四年を以て完了し市の中央部に於ける下水道は稍々面目を一新するに至つた。之本市に於ける最初の下水道事業である。

然るに時勢の進運に伴ひ市の周圍部を爲す新市域は異常の發展を遂げ家屋密集して汚水停滞し衛生上の不安甚しく之が根本的改良は忽にすべからざるものあり、明治四十年十月より周圍部に於ける下水道改良計畫の調査を爲し同年以降十ヶ年の繼續事業として右區域全般に亘る改良計畫を樹立し、大正十一年度に至り完成を見るに至つた。

(ロ) 大阪都市計畫下水道事業

前記下水道改良計畫の排水區域より除外せられたる外廓も其の後漸く發展し戸口の激増に伴ひ下水道改良の必要緊切なるものあるに鑑み爾後之を都市計畫事業として執行することとし成規の手續を経て大正十一年六月三日には第一期都市計畫下水道事業、大正十三年五月二十九日には第二期同事業、昭和三年三月三十一日には第三期同事業につき夫々内閣の認可を得た。而して第一期及び第二期事業は既に工事を完了し、目下第三期事業を施行しつつある。

第一期都市計畫下水道事業

大正十一年六月 内閣認可
大正十四年三月 一部變更

排水區域及面積
水管渠の延長 市岡、泉尾、三軒家、及西野田方面(約二、五三九、〇〇〇平方米)
下水抽水場 約六五、〇〇〇米
下水淨化装置 新設 二ヶ所 擴張 八ヶ所
新設 一ヶ所
施行年度 自大正十一年度 三ヶ年
至大正十三年度
事業費(決算額) 四、〇一七、〇〇〇圓

第二期都市計畫下水道事業

大正十三年五月 内閣認可
昭和二年四月 一部變更

排水區域及面積
水管渠の延長 善源寺、東野田、四貫島、春日出、西野田北部方面(約四三〇一、〇〇〇平方米)
下水抽水場 約八五、〇〇〇米
新設 二ヶ所 擴張 一ヶ所

施行年度 自大正十三年度 四ヶ年
至昭和二年度
事業費 四、〇八八、〇〇〇圓

第三期都市計畫下水道事業 昭和三年三月 内閣認可

排水區域及面積 八幡屋市岡、長柄中津、大仁海老江、天王寺中道、今宮玉田、平野方面
水管渠の延長 (約二〇、四二九、〇〇〇平方米)
下水抽水場 約三一、〇〇〇米
新設 四ヶ所 擴張 二ヶ所
施行年度 自昭和三年度 十ヶ年
至昭和十二年度
事業費 一七、五〇〇、〇〇〇圓

(ハ) 大阪都市計畫下水處理事業

大阪市に於ける保健衛生の施設として下水處理の極めて重要なことは言を俟たない所であるにも拘らず、本市の現況を観るに市勢の伸展に伴ふ人口の激増と工業の振興は驚くべきものがあり、此の結果著しく汚水を増加し之を排除する河川は爲に汚染濁の極に達する事が少なくないので之を此儘に放置することは大都市の面目上到底忍び難く下水處理事業完成の必要は其の度を加へ來つた。仍つて曩に大阪都市計畫として決定し昭和三年五月二十九日内閣の認可を得たもの内、財政關係を考慮し最も急施を要すると認められる中部處理區及北部處理區の一部について調査の上成案を得内申したる處、同案は昭和五年十一月二十五日付都市計畫大阪地方委員會に付議、同年十二月二十三日開

會の委員會に於て異議なく原案通り可決、昭和六年一月十三日内閣の認可を得た。

其の後、諸種の事情により昭和九年十二月、同十年三月の二回に亘り一部變更を爲すと共に、年度割を二ケ年延長した。本事業の概要並之れが當初決定理由書を擧ぐるに左の通りである。

區	上町、船場、島之内、堀江、難波、櫻川、西濱、惠美須(中部處理區)
面	天満、堂島、榊田、北野、長柄、中津、福島、西野田(北部處理區)
積	約二四、〇八九、〇〇〇平方米
處	二ヶ所
理	
場	
施	自昭和五年度
行	至昭和十二年度
年	八ヶ年
度	
費	一八、〇〇〇、〇〇〇圓

下水處理事業決定理由書

大都市ニ於ケル保健衛生ノ施設トシテ下水ト尿管ノ處理ハ最重要ナル事項ニ屬ス中小都市ニアリテハ下水ノ大部分ハ雨水ナルヲ以テ汚水ハ河水ニ依リ著シク稀釋セラルルガ故ニ下水ヲ直接附近ノ河川ニ放流スルモ敢テ支障ヲ來サザルベシ今大阪市ノ現況ヲ見ルニ市勢ノ發展ニ伴ヒ人口ノ激増ト工業ノ振興トハ著シク汚水ノ増加ヲ來シ爲ニ河水ノ汚染濁濁ハ其ノ極ニ達シ此ノ儘放置スルコトヲ許サザル實況ニアリ又一般家庭ニ於ケル尿管ノ處置ヲ見ルニ何レモ汲取式便所ニシテ惡臭ヲ發散スルノミナラズ病毒傳播ノ媒介ヲ爲シ腸窒扶斯患者ノ死亡數ノ如キハ歐米都市ノ夫レニ比シ格段ノ相違アリテ都市民ノ保健衛生上寒心ニ堪ヘズ

此ノ如クナルヲ以テ大阪市ニ於ケル下水處理事業ノ完成ハ喫緊ノ必要事ニ屬ス然レドモ全市域ニ對シ一時ニ實施スルハ財政上許サ

ザルトコロナルヲ以テ曩ニ都市計畫トシテ決定シタル下水處理區域中最モ急施ヲ要スト認メラルル中部處理區及北部處理區ノ一部ヲ昭和五年度ヨリ昭和十年度ニ至ル六ヶ年間ノ繼續事業トシテ執行セントスルモノナリ

(二) 大阪都市計畫第五期下水道事業

本市に於ける都市計畫に依る下水道事業は以上の如く既に四次に亘りて執行され來りたるも、是等の事業より除外されたる區域に於ても輓近の急速なる市勢の發展に順應し急施を要するもの多く殊に近時の風水災は下水道施設完備の急務なるを如實に示現するに至りたるを以て、慎重調査の上成案を得て内申したる處、同案は昭和十二年三月十六日付都市計畫大阪地方委員會に付議され同三月二十六日開會の委員會に於て原案通議なく可決を見るに至り翌二十七日内閣の認可を得た。本事業の概要は左の通りである。

區	中部、南部、北部、淀川北部、東部各處理區の一部
排	六、三〇九ヘクタール八九
水	
面	
積	六ヶ所
處	
理	
場	
抽	四ヶ所
水	
所	
施	自昭和一七年度
行	至昭和十七年度
年	七ヶ年
度	
費	五八、五〇〇、〇〇〇圓

八 大阪府知事執行の都市計畫事業

(イ) 十大放射路線事業

大正十年三月第一次大阪都市計畫事業の決定せらるると共に舊市内の道路網計畫は稍其の體系を成したが、尙都心部から遠く郊外に通ずる放射路線を開設するの緊要なるを認め、鋭意調査の結果十大放射路線を選定し大正十一年五月三日付大阪府知事から内務大臣宛内申した。爾來年を閲すること四年、其の間關東地方の震災に鑑み之が施設の急務なるを痛感し一層慎重なる調査を遂げ、漸く成案を得大正十五年三月十三日付都市計畫大阪地方委員會に付議さるに至り、同委員會に於ては同年五月十八日原案通異議なく之を可決し直ちに其の旨答申した。斯くて同年六月十日内閣の認可を得、次いで大阪府知事が其の執行者に指定せられた。

爾來、着々之れが實現に努力し來つたが、其後諸般の事情により八回に亘り路線の一部變更を餘儀なくされ、之と共に執行年度を延長した。本事業の概要は左の通りである。

- (1) 街路の新設及擴張 一〇線 約三七、五〇〇米
- (2) 施行年度 自大正十五年度 至昭和十三年度 十三ヶ年
- (3) 事業費 二六、五七三、〇〇〇圓

(ロ) 神崎川改修の都市計畫事業

神崎川は、三島郡味生村に於て淀川から分流し、安威川、猪名川及び藻川を合して下流に至り左門殿川を分派し、大阪灣に注ぐ。其の流域廣大にして近時沿岸一帯は絶好の工業地域として異常なる發達を示しつゝあるのみならず將來都市計畫阪北、川北兩運河開設の嚆には、本川の使命愈々重大を加ふるべきは必然であるが、其の川形亂雑水深淺く堤防は地盤より隆起甚だしく貨物運輸の便を缺くことが少くなかつた。加之に逐年出水と共に堤防の崩落缺壞相次ぎ之が維持管理に寧日なき有様で其の改修は焦眉の急務であつたから、差當り本川流末の川形を整理し平水面を擴大し河床及び堤防を低下して其の運河化を圖る事とし、慎重調査の上成案を得内申したる處、同案は昭和七年十月四日付都市計畫大阪地方委員會に付議され、同十月十三日開會の委員會に於て原案通可決の上答申、同十月二十八日内閣の認可を得た。斯くて、鋭意之れが施工に努力したるも其後の諸般事情により豫定年度内の竣功は到底覺付なく施行年度を延長することとし、昭和八年三月二十九日内閣の認可を得た。(同年四月六日幅員の一部變更に付都市計畫大阪地方委員會限りにて變更)

- (1) 區 域 西淀川區出來島町より海に至る
- (2) 延長 約二、八四〇米
- (3) 幅員 七一乃至二八一米
- (4) 深度 平均低水位以下二・〇米

- (5) 施行年度 自昭和七年度
至昭和八年度
- (6) 事業費 八八八、〇〇〇圓

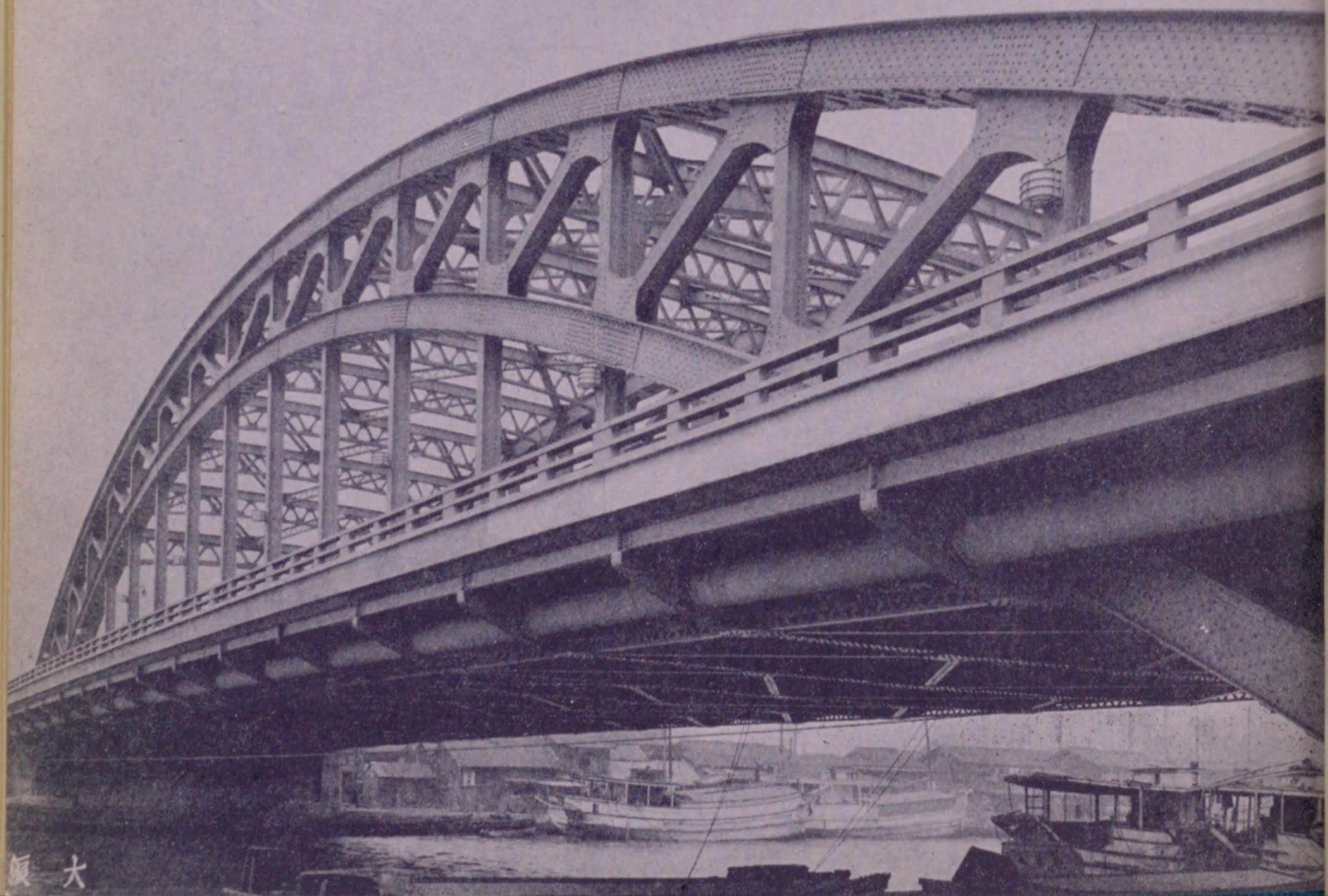
(ハ) 大阪都市計畫街路並運河事業

大阪市内外の都市計畫施設は大正十年三月認可の所謂第一次大阪都市計畫事業以來、諸般文化施設の範圍に亘り各種方面より着々其の實現が見らるるに至つて居るのであるが、生産都の驚異的な進展は其の周圍部に於ける施設の充實を圖り既存の重要施設との合理的なる連絡統制をなし以て其の相互的利用價值増進に資すべきを愈々緊要ならしむるに至り、鋭意調査考究の上眞に緊急止むを得ざるものを選定し、成案を得て昭和十一年三月十二日大阪府知事の内申を見た。於茲關係當局に於ては内申案に基づき審査の同上年三月二十日都市計畫大阪地方委員會に附議し、同委員會は同三月二十五日開會の上原案通異議なく可決し其の旨答、斯くて、昭和十一年四月十六日内閣の認可を得同時に大阪府知事之が執行者として指定された。本事業の概要は左の通りである。

- (イ) 街路の新設擴張 一路線 延長一、八七五米(幅員一八米乃至二五米)
- (ロ) 運河の新設擴張 一路線 延長二、〇〇〇米(幅員六〇米)
- (ハ) 施行年度 自昭和十五年度(三ヶ年
至昭和十七年度)
- (ニ) 事業費 約三、〇八〇、〇〇〇圓

後篇 大阪都市計畫
並びに同事業の各説

計 畫
事 業
現存計畫並事業一覽表
附 録



大 阪

第一
計
畫



一 大阪都市計畫區域

(大正十一年四月二十四日決定)

◎大阪都市計畫區域決定ノ件

大阪都市計畫區域左ノ通決定ノ件認可ス

大阪都市計畫區域

- 一 大 阪 市
- 一 西 成 郡 全 部
- 一 東 成 郡 全 部
- 一 三 島 郡 吹 田 町 千 里 村
- 一 豐 能 郡 庄 内 村 豐 津 村 小 曾 根 村 中 豐 島 村 南 豐 島 村
- 一 北 河 内 郡 守 口 町
- 一 中 河 内 郡 巽 村 瓜 破 村 矢 田 村

註〔大正十四年四月大阪市ニ編入〕

右 公 告 ス

大正十一年四月二十四日

内閣總理大臣

子爵

高

橋

是

清

二 大阪都市計畫用途地域

大正十四年四月六日	指定
昭和五年四月十九日	變更 (九二頁)
昭和六年十月三日	變更 (九三頁)
昭和七年七月二十日	變更 (九四頁)
昭和十一年五月十八日	變更 (九五頁)
昭和十二年二月二十三日	變更 (九六頁)

●大阪都市計畫地域指定ノ件 (變更九二頁)

大阪都市計畫區域内ニ於ケル市街地建築物法第一條ノ規定ニ依ル地域左ノ通指定シ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年四月六日

内務大臣 若槻禮次郎

大阪都市計畫地域

第一 商業地域之部

イ 左記區域内ニ在ル建築物ノ敷地

一 大阪市 内

西 區 内

- 一 土佐堀通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 土佐堀船町 江戸堀上通一丁目 同二丁目 江戸堀北通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 江戸堀南通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 京町堀上通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 京町堀南通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 堀町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 靱北通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 靱上通一丁目 同二丁目 同三丁目 靱中通一丁目 同二丁目 靱下通一丁目 同二丁目 靱南通一丁目 同二丁目 靱南通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 阿波堀通一丁目 同二丁目 阿波座上通一丁目 同二丁目 同三丁目 奥美町 阿波座中通一丁目 同二丁目 阿波座一番町 同二番町 同三番町 阿波座下通一丁目 同二丁目 立賣堀北通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 同七丁目 薩摩堀東之町 同西之町 同南之町 同北之町 島津町 江之島上之町 同東之町 立賣堀南通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 新町北通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 新町南通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 西長堀北通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 西長堀南通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 北堀江上通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 北堀江

御池通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 北堀江通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 北堀江一番町 同二番町 同三番町 南堀江通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 南堀江上通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 南堀江下通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 西道頓堀通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 幸町通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 松島町一丁目 南堀江一番町 同二番町 仲之町一丁目 同二丁目 高砂町一丁目 同二丁目 十返町 本田一番町 同二番町 同三番町 本田通一丁目 同二丁目 同三丁目 梅本町 川口町ノ全部

港 區 内

一 九條通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 九條北通一丁目 同二丁目 同三丁目 九條中通二丁目 同三丁目 九條南通二丁目 同三丁目 同四丁目 一條通二丁目 二條通三丁目 同四丁目 三條通二丁目 同三丁目 同四丁目 四條通二丁目 同三丁目 同四丁目 五條通一丁目 同二丁目 同三丁目 南安治川通一丁目 同二丁目 富島町 古川町ノ全部 九條中通一丁目 同四丁目 九條南通一丁目 北境川町二丁目 同四丁目 南境川町四丁目 辨天町五丁目 二條通二丁目 南安治川通三丁目ノ一部(圖面省略)

南 區 内

一 順慶町通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 安堂寺橋通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 鹽町通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 末吉橋通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 横堀七丁目 心齋橋筋一丁目 同二丁目 鰻谷西之町 大寶寺町西之町 西清水町 北炭屋町 周防町 八幡町 三津寺町 久左衛門町 南炭屋町 長堀橋筋一丁目 同二丁目 千年町 玉屋町 笠屋町 疊屋町 宗右衛門町 鰻谷中之町 大寶寺町中之町 鰻谷東之町 東清水町 大寶寺

町東之町 鍛冶屋町 南綿屋町 竹屋町 間屋町 穴和町 ニッ井戸町 高津町二番町 同三番町 同四番町 同五番町 同五番町 同六番町 同七番町 同八番町 同九番町 同十番町 御藏跡町 日本橋筋一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 東橋町 阪町 西橋町 九郎右衛門町 難波新地一番町 同二番町 同三番町 同四番町 同五番町 同六番町ノ全部

二 内安堂寺町一丁目 同二丁目 同三丁目 上本町二丁目 北桃谷町 谷町六丁目 東販町 西販町 松屋町 瓦屋町 一番町 同二番町 同三番町 同四番町 同五番町ノ一部(圖面省略)

浪 速 區 内

一 元町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 新川一丁目 同三丁目 河原町一丁目 同二丁目 南阪町 大國町一丁目 同二丁目 鷗町一丁目 同二丁目 勘助町一丁目 惠美須町二丁目 東關谷町一丁目 同二丁目 西關谷町一丁目 同二丁目 廣田町ノ全部

二 新川二丁目 東圓手町 東神田町 藏前町 敷津町一丁目 同二丁目 同三丁目 三島町 惠美須町三丁目 北高岸町 南高岸町 水崎町 霞町一丁目 同二丁目ノ一部(圖面省略)

天王寺區 内

一 北日東町 南日東町ノ全部

東 區 内

一 住吉町 材木町 農人橋詰町 内本町一丁目 同二丁目 内本町橋詰町 高麗橋詰町 豊後町 北濱一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 大川町 今橋一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 高麗橋一丁目 同二丁目

同三丁目 同四丁目 同五丁目 伏見町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 道修町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 平野町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 淡路町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 瓦町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 備後町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 安土町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 本町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 南本町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 唐物町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 北久太郎町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 南久太郎町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 博勞町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 北渡邊町 南渡邊町 横堀一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 空堀通一丁目 同五丁目 目ノ全部

二 神崎町 粉川町 内久寶寺町四丁目 和泉町二丁目 南農人町一丁目 農人橋二丁目 兩替町二丁目 常盤町二丁目 鎗屋町一丁目 同二丁目 德井町一丁目 同二丁目 南新町二丁目 北新町二丁目 糸屋町二丁目 大手通二丁目 内淡路町二丁目 内平野町二丁目 船越町二丁目 釣鐘町二丁目 島町二丁目 石町二丁目 京橋一丁目 同二丁目 同三丁目 谷町三丁目 山之下町 清水谷東之町 同西之町 小橋元町 下味原町 木野町 舟橋町 東雲町一丁目 同二丁目 同三丁目 南玉造町 中道唐居町 中道黒門町ノ一部(圖面省略)

北區 内

一 相生町 金屋町一丁目 同二丁目 朝日町 信保町一丁目 同二丁目 岩井町一丁目 同二丁目 龍田町 壺屋町一丁目 同二丁目 河内町一丁目 同二丁目 瀧川町 此花町一丁目 同二丁目 市之町 天神筋町 大工町 天神橋筋一丁目 同二丁目 同五丁目 同六丁目 菅原町 鳴尾町 榎屋町 地下町 東堀川町 旅籠町 南森町 北森町 綿屋町 廣末町



樋上町 若松町 絹笠町 眞砂町 老松町一丁目 同二丁目 同三丁目 源藏町 伊勢町 富田町 木幡町 堂島濱通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 堂島中一丁目 同二丁目 堂島船大工町 堂島北町 堂島上一丁目 同二丁目 同三丁目 曾根崎新地一丁目 同二丁目 中之島一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 同七丁目 宗是町 常安町 玉江町一丁目 同二丁目 吉山町 梅ヶ枝町 小松原町 堂山町 曾根崎永樂町 曾根崎上一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 曾根崎中一丁目 同二丁目 東梅田町ノ全部

此花區 内

一 上福島南一丁目 同二丁目 同三丁目 上福島中一丁目 同二丁目 同三丁目 下福島一丁目ノ全部
二 下福島二丁目 平松町 草開町ノ一部(圖面省略)

東淀川區 内

一 十三南之町 天神橋筋七丁目 同八丁目 同九丁目 山口町 今里町 十三西之町 十三東之町 木川町ノ一部(圖面省略)

西成區 内

一 東田町 今池町ノ全部
二 海道町 東入船町ノ一部(圖面省略)

住吉區 内

一 平野田畑町 平野政所町二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 平野梅ヶ枝町二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 平野三十歩町二丁目 同三丁目 平野中町 平野住吉町 平野上町 平野本町二丁目 同三丁目 同四丁目 同

- 五丁目 同六丁目 平野新町二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 平野京町四丁目 同五丁目 同六丁目 平野元町五丁目 山王町四丁目ノ全部
- 二 阿倍野筋六丁目 同七丁目 同八丁目 王子町一丁目 同二丁目 同三丁目 平野京町二丁目 同三丁目 平野元町四丁目 同六丁目 同七丁目 住吉町 長峽町 濱口町 安立町一丁目 同二丁目ノ一部(圖面省略)

ロ 左記道路ノ兩側ニ於ケル建築線ニ接スル建築物ノ敷地

- 一 北區茶屋町五十二番地地先ヨリ東淀川區中津本通一丁目二番地地先ニ至ルノ路線
- 二 北區葉村町七十八番地地先ヨリ浪花町五番地地先ニ至ルノ路線
- 三 北區吉山町三番地地先ヨリ都島橋ヲ經テ善源寺町三丁目五十四番地地先ニ至ルノ路線
- 四 東區京橋三丁目六十二番地ノ一地先ヨリ天滿橋南詰ヲ經テ京橋一丁目一番地地先ニ至ルノ路線
- 五 南區高津町一番町七十四番地ノ一地先ヨリ天王寺區上本町六丁目二十一番地地先ニ至ルノ路線
- 六 東區東雲町一丁目七十八番地ノ一地先ヨリ天王寺區國分町百九十一番地地先ニ至リ斜右折シ大道三丁目百九十一番地地先ニ至リ斜右折シ堀越町九十九番地地先ニ至ルノ路線
- 七 天王寺區國分町百四十四番地地先ヨリ住吉區平野元町六丁目八番地地先ニ至ルノ路線
- 八 浪速區櫻川二丁目千〇七十九番地ノ二地先ヨリ荻原橋ヲ經テ榮町一丁目八番地地先ニ至リ左折シ大國町ヲ經テ惠美須町三丁目四十七番地地先ニ至ルノ路線
- 九 西區幸町通一丁目一番地地先ヨリ港區大正橋西詰ニ於テ斜左折シ大正通及小林町ヲ經テ南恩加島町二番地ノ七地先ニ至ルノ路線
- 十 前號路線終點ヨリ大運橋ヲ經テ鶴町二丁目五十五番地地先ニ至リ右折シ同四丁目百七十八番地地先ニ至リ右折シ新千歲橋ヲ經テ小林町百七十番地ノ二地先ニ至ルノ路線
- 十一 西區松島町二丁目六十三番地地先ヨリ花宮橋ヲ經テ港區九條中通一丁目百〇五番地ノ五地先ニ至リ左折シ玉藻橋及朝潮橋ヲ經テ千舟橋西詰ニ至ルノ路線
- 十二 港區北境川町一丁目二十三番地地先ヨリ九條中通四丁目四百二十六番地ノ二地先ニ至リ左折シ玉船橋ヲ經テ石田元町二丁目十四番地ノ二十一地先ニ至リ斜左折シ八幡屋寶町三丁目三百五十六番地ノ五地先ニ至ルノ路線
- 十三 此花區新船津橋北詰ヨリ玉川町四丁目ヲ經テ茶園町七十六番地地先ニ至ルノ路線
- 十四 此花區龜甲町一丁目三番地地先ヨリ兼平町ヲ經テ朝日橋通三丁目三番地地先ニ至リ斜右折シ朝日橋ヲ經テ千鳥橋南詰ニ至リ斜左折シ春日出町及恩貴島南之町ヲ經テ島屋町二百六十五番地ノ一地先ニ至リ左折シ櫻島町三十九番地地先ニ至ルノ路線
- 十五 此花區上福島中三丁目十七番地地先ヨリ茶園町ヲ經テ西淀川區海老江中三丁目百二十番地地先ニ至ルノ路線及國道第二號線ノ内新澁川右岸ヨリ兵庫縣界ニ至ルノ區間
- 十六 北區浪花町五番地地先ヨリ東淀川區中津本通一丁目二番地地先ニ至ルノ路線
- 十七 此花區登口橋東詰ヨリ上福島北三丁目六十一番地地先ニ至リ左折シ福島橋ヲ經テ東淀川區中津南通四丁目六十一番地地先ニ至ルノ路線
- 十八 北區神山町五十九番地地先ヨリ萬歲町二十四番地地先ニ至リ斜右折シ葉村町ヲ經テ東淀川區南濱町一丁目十五番地地先ニ至ルノ路線
- 十九 北區中崎町百二十番地地先ヨリ浪町花三十一番地地先ニ至ルノ路線
- 二十 北區天神橋筋三丁目三十五番地ノ一地先ヨリ空心町二丁目六十二番地ノ一地先ニ至ルノ路線
- 二十一 北區空心町二丁目八十三番地地先ヨリ天神橋筋三丁目二番地ノ一地先ニ至リ右折シ同四丁目五十番地ノ一地先ニ至ルノ路線

- 二十二 北區天神橋筋六丁目一番地地先ヨリ東淀川區長柄橋南詰ニ至ルノ路線
- 二十三 北區東野田町二丁目七十番地地先ヨリ同四丁目六十一番地地先ニ至ルノ路線
- 二十四 東區島町二丁目十七番地ノ一地先ヨリ谷町一丁目二十三番地ノ一地先ニ至ルノ路線
- 二十五 東區京橋三丁目六十二番地ノ一地先ヨリ徳井町二丁目十番地地先ニ至リ左折シ谷町三丁目四番地ノ一地先ニ至ルノ路線
- 二十六 東區谷町三丁目三十四番地ノ一地先ヨリ法圓阪町一番地地先ニ至ルノ路線
- 二十七 東區谷町三丁目九番地ノ甲地先ヨリ鎗屋町二丁目十一番地地先ニ至リ左折シ南區内安堂寺町三丁目二十七番地地先ニ至リ左折シ同二丁目一番地ノ二地先ニ至リ右折シ東區東雲町三丁目二百五十八番地ノ二地先ニ至リ左折シ中道黒門町二百十三番地地先ニ至ルノ路線
- 二十八 東區空堀通一丁目八十三番地ノ四地先ヨリ空堀通二丁目六十一番地ノ三地先ニ至ルノ路線
- 二十九 南區瓦屋町一番地三番地地先ヨリ東區空堀通三丁目二百三十一番地ノ一地先及同二丁目四十九番地ノ四十六地先ヲ經テ東雲町一丁目九十八番地ノ一地先ニ至ルノ路線
- 三十 天王寺區上本町九丁目三番地地先ヨリ堂ヶ芝町百〇六番地地先ニ至ルノ路線
- 三十一 南區谷町六丁目二番地ノ一地先ヨリ天王寺區堀越町十四番地地先ニ至ルノ路線
- 三十二 西成區東田町一番地地先ヨリ今池町三十六番地地先ニ至ルノ路線
- 三十三 浪速區惠美須町三丁目百十四番地地先ヨリ同町八十三番地地先ニ至リ左折シ馬淵町一番地地先ニ至リ右折シ(舊今宮町及安立町ヲ經テ)大和橋北詰ニ至ルノ路線
- 三十四 港區市岡元町三丁目一番地地先ヨリ八雲町二丁目十八番地地先ニ至ルノ路線

- 三十五 港區夕風町三丁目一番地ノ一地先ヨリ西田中町三丁目四番地ノ二地先ニ至ルノ路線
- 三十六 此花區春日出町百五十一番地ノ二地先ヨリ恩貴島橋南詰ニ至ルノ路線
- 三十七 此花區區北安治川通二丁目二十二番地地先ヨリ朝日橋通二丁目二十七番地地先ニ至ルノ路線
- 三十八 此花區安治川上通二丁目二十三番地地先ヨリ大野町二丁目九十番地地先ニ至ルノ路線
- 三十九 此花區今開町二丁目六十番地地先ヨリ玉川町四丁目八十六番地地先ニ至ルノ路線
- 四十 此花區下福島三丁目十二番地地先ヨリ兼平町三十六番地地先ニ至ルノ路線
- 四十一 此花區龜甲町一丁目九十番地地先ヨリ平松町三十五番地ノ一地先ニ至リ左折シ下福島二丁目三番地地先ニ至リ右折シ同町七十七番地地先ニ至リ右折シ同町二十八番地地先ニ至ルノ路線

- ハ 大正九年一月二十一日大阪市告示第一號大阪市區改正設計街路ノ部及大正十三年十一月二十九日官報ヲ以テ公告
 セル大阪都市計畫街路ノ新設及擴張ノ部中左記道路ノ兩側ニ於ケル建築線ニ接スル建築物ノ敷地
- 一 一等大路第三類第二號線 (松屋町筋線)
 - 二 一等大路第三類第四號線 (梅田十三線)
 - 三 一等大路第三類第五號線 (堂島十三線)
 - 四 一等大路第三類七號線 (鶴橋線)
 - 五 一等大路第三類第十號線 (難波住吉線)
 - 六 一等大路第三類第十二號線 (長堀線)
 - 七 一等大路第三類第十三號線 (逢阪線)
 - 八 一等大路第三類第十四號線 (天神橋西筋線)

- 九 一等大路第三類第十五號線 (北野線)
- 十 一等大路第三類第十六號線 (天滿谷町線)
- 十一 一等大路第三類第十七號線 (泉尾市岡線)
- 十二 一等大路第三類第十八號線 (春日出傳法線)
- 十三 一等大路第三類第二十號線(線法圓阪町線)ノ内東區法圓阪町一番地地先ヨリ終點ニ至ルノ區間
- 十四 一等大路第三類第廿一號線 (阿部野線)
- 十五 一等大路第三類第廿二號線 (善源寺野江線)
- 十六 一等大路第三類第廿三號線(玉造野江線)及二等大路第一類第十號線ノ内一等大路第三類第二十四號線交叉點ヨリ終點ニ至ルノ區間
- 十七 一等大路第三類第廿四號線(天滿浦生線)ノ内起點ヨリ天滿橋筋二丁目十九番地ニ至ルノ區間及澱川左岸ヨリ終點ニ至ルノ區間
- 十八 一等大路第三類第廿五號線 (猪飼野線)
- 十九 一等大路第三類第廿六號線 (梅ヶ枝町線)
- 二十 一等大路第三類第五十九號線 (天滿谷町線)
- 二十一 二等大路第一類第二號線
- 二十二 二等大路第一類第四號線ノ内起點ヨリ住吉川右岸ニ至ルノ區間
- 二十三 一等大路第三類第六十四號線 (上本町線)
- 二十四 二等大路第一類第六號線ノ内此花區春日出橋北詰ヨリ終點ニ至ルノ區間

間

- 二十五 一等大路第三類第四十七號線(西野田傳法線)ノ内此花區下島町ニ屬スル部分ヲ除キタル區間
- 二十六 二等大路第一類第十四號線 (木津霞町線)
- 二十七 一等大路第三類第六十四號線(平野木津川線)ノ内阪堺電鐵線線路ヨリ終點ニ至ルノ區間
- 二十八 二等大路第一類第十六號線(澤上江町線)ノ内起點ヨリ澤上江町六丁目三十二番地ノ一ニ至ルノ區間及同同四丁目百〇八番地ヨリ終點ニ至ルノ區間
- 二十九 一等大路第三類第五十六號線(森小路大和川線)ノ内舊市區改正設計二等大路第一類第十九號線ノ全部
- 三十 一等大路第三類第六十三號線 (平野柴谷線)ノ内一等大路第三類第十號線ヨリ住吉區北加賀屋町二百三十番地ノ三地先ニ至ルノ區間
- 三十一 二等大路第一類第廿一號線 (九條市岡線)
- 三十二 二等大路第二類第二號線ノ内起點ヨリ阪堺電鐵線線路ニ至ルノ區間及此花區島屋町三百五十二番地ノ三ヨリ此花區恩貴島南之町百三十四番地ニ至ルノ區間
- 三十三 二等大路第一類第二十二號線 (東田中町線)
- 三十四 一等大路第三類第七十二號線(恩貴島尼崎線)ノ内起點ヨリ一等大路第三類第四十七號線(西野田傳法線)ニ至ルノ區間
- 三十五 二等大路第二類第四號線 (江戸堀十三線)
- 三十六 二等大路第二類第五號線ノ内港區辰巳橋西詰ヨリ西田中町三丁目四番地ノ二ニ至ルノ區間
- 三十七 二等大路第二類第十一號線 (平野町線)
- 三十八 二等大路第二類第十二號線 (久寶寺町線)
- 三十九 二等大路第二類第十三號線 (堀江玉造線)

三十八 二等大路第二類第十七號線 (富田屋橋筋線)
三十九 二等大路第二類第十八號線(江戸堀西濱線)ノ内起點ヨリ浪速區久保吉町千二百六十番地ノ四ニ至ルノ區間

第二工業地域之部

左記區域内ニ在ル建築物ノ敷地但シ第一商業地域之部ニ掲クルモノヲ除ク

一 大 阪 市 内

北 區 内

- 一 天満橋筋五丁目 同六丁目 善源寺町二丁目 北錦町 池田町國 分寺町 樋之口町ノ全部
- 二 天満筋四丁目 東野田町七丁目 善源寺町四丁目 南錦町ノ一部 (圖面省略)

此 花 區 内

- 一 川岸町 川岸町一丁目 同二丁目 同三丁目 恩貴島南之町 島屋町 北安治川通三丁目 同四丁目 櫻島町 櫻島北之町 櫻島南之町 上島町 下島町 嬉ヶ崎町 大開町二丁目 同四丁目ノ全部
- 二 四貫島德平町二丁目 同霞町 同嘉永町 同笹原町 春日出町 春日出町下一丁目 同二丁目 同上一丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 同七丁目 同八丁目 西野上之町 同下之町 朝日橋通三丁目 西九條下通一丁目 茶園町 新家町一丁目 同二丁目 大開町一丁目 同三丁目 北安治川通二丁目 四貫島大通一丁目 同三丁目ノ一部 (圖面省略)

港 區 内

- 一 三軒家濱通三丁目 同四丁目 大正通五丁目 三軒家東三丁目 三軒家町一丁目 同二丁目 同三丁目 中口町 今木町一

- 丁目 同二丁目 難波島町一丁目 同二丁目 北恩加島町 新千歳町 福町一丁目 同二丁目 鶴町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 鶴濱通一丁目 同二丁目 同三丁目 小林町 北福崎東之町 北福崎西之町 南福崎町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 新福崎町一丁目 同二丁目 千島町 新炭屋町 南恩加島町 船町 平尾町 木屋町 石田椿町 石田外村町一丁目 同二丁目 石田町一丁目 同二丁目 石田神樂町 天保町 一條通一丁目 二條通一丁目 同二丁目 三條通一丁目 四條通一丁目 六條通一丁目 同二丁目 同三丁目 七條通一丁目 同二丁目 八條通一丁目 同二丁目 同三丁目 北海岸通 南海岸通一丁目 同二丁目 同三丁目 出崎町一丁目 同二丁目 同三丁目 南海岸通二丁目地先埋立地 同三丁目地先埋立地 南安治川通三丁目 泉尾濱通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 泉尾梅ノ町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 泉尾竹ノ町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 泉尾中通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 松ノ町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 泉尾北村町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 大正通 泉尾上通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 泉尾北村町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 泉尾通 泉尾上通一丁目 同八丁目 同九丁目 同十丁目 南泉尾町一丁目 同二丁目 同三丁目 尻無川北通四丁目 同五丁目 同六丁目 同七丁目 同八丁目 市岡元町四丁目 同五丁目 高尾町一丁目 同二丁目 三ッ樋町 湊屋濱通一丁目 同二丁目 同六丁目 同七丁目 同八丁目 八幡屋町一丁目 同二丁目 同三丁目 八幡屋中通一丁目 同二丁目 同三丁目 北八幡屋町一丁目 同二丁目 同三丁目 八幡屋新道 新池田町一丁目 同二丁目 三先町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 池島町一丁目 同二丁目 入船町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 八幡屋寶町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 八幡屋浮島町一丁目 同二丁目 八幡屋龜町一丁目 同二丁目

ノ全部

- 二 三軒家濱通二丁目 大正通四丁目 三軒家東二丁目 三軒家西二丁目 三軒家櫛町二丁目 三軒家市場通二丁目 石田元町

一丁目 同二丁目 同三丁目 北泉尾町一丁目 同二丁目 同三丁目 尻無川北通二丁目 同三丁目 南市岡町一丁目 市岡元町二丁目 同三丁目 辨天町五丁目 辰巳町五丁目 八雲町五丁目 魁町五丁目 千代見町四丁目 壽町三丁目 磯路町三丁目 市場通三丁目 湊屋町一丁目 同二丁目 田中元町三丁目 八幡屋大通一丁目 同二丁目 夕風町一丁目 同二丁目 同三丁目 八幡屋元町一丁目 同二丁目 同三丁目ノ一部(圖面省略)

浪速區内

一 西濱北通四丁目 木津川町三丁目ノ全部
二 西濱北通三丁目 荻原町久保吉町 木津川町二丁目 榮町一丁目ノ一部(圖面省略)

東淀川區内

一 豊崎東通五丁目 同西通四丁目 同五丁目 本庄東通五丁目 同中通五丁目 同西通五丁目 同川崎町五丁目 長柄西通一丁目 同二丁目 同三丁目 同中通一丁目 同二丁目 同四丁目 同東通一丁目 同二丁目 同三丁目 同濱通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 中津濱通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同本通三丁目 江口町 小松町 上新庄町 下新庄町 三國町 十八條町 宮原町 南宮原町 三國本町 三津屋町 堀上町 東雲町 新高町ノ全部
二 豊崎東通四丁目 天神橋筋七丁目 同八丁目 同九丁目 中津南通三丁目 同濱通五丁目 國次町 西町 山口町 豊里菅原町 舊大道村 日之出町 今里町 十三西之町 十三東之町ノ一部(圖面省略)

西淀川區内

一 浦江北一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 大仁西二丁目 浦江中一丁目 同二丁目 同本通一丁目 同二丁目 同上一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 海老江上二丁目 同三丁目 同中一丁目 同二丁目 同三丁目 同下一丁目 同二丁目 同三丁目 同新町

傳法町南一丁目 同二丁目 同三丁目 傳法町北一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 加島町 御幣島町 大和田町 百島町 大野町 佃町 蒲島町 中島町 西洲町 西島町 北西島町 矢倉町 外島町 布屋町 出來島町 福町 南島町ノ全部

西成區内

二 大仁本町三丁目 同元町一丁目 同二丁目 同西一丁目 海老江上一丁目 野里町 姫島町ノ一部(圖面省略)
津守町ノ一部(圖面省略)

東成區内

一 巽町 友淵町 毛馬町ノ全部
二 鳴野町 今津町 鶴見町 放出町 新喜多町 蒲生町 今福町 布屋町 野江町三丁目 赤川町ノ一部(圖面省略)

住吉區内

一 柴谷町 釜口町 舊敷津村地先埋立地ノ全部
二 濱口町 北加賀屋町 嬰木町 南加賀屋町 北島町ノ一部(圖面省略)

二 豊能郡内

庄内村ノ内

一 大字菰江 大字洲到止 大字島江ノ全部
二 大字牛立 大字庄本ノ一部(圖面省略)
小曾根村ノ内

大字小曾根 大字濱 大字長島ノ一部(圖面省略)
豐津村ノ内

三 三島郡内
大字榎阪 大字垂水ノ一部(圖面省略)
吹田町ノ一部(圖面省略)

第三 住居地域之部

左記ノ区域内ニ在ル建築物ノ敷地但シ第一商業地域及第二工業地域之部ニ掲クルモノヲ除ク

一 大 阪 市 内

北 區 内

- 一 野田町 網島町 川崎町 白屋町 今井町 天満橋筋一丁目 同二丁目 空心町一丁目 松ヶ枝町 紅梅町 西堀川町 東野田町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 同七丁目 同八丁目 同九丁目 中野町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 澤上江町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 同七丁目 同八丁目 同九丁目 同十丁目 善源寺町一丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 同七丁目 同八丁目 同九丁目 同十丁目 東寺町 南扇町 北扇町 東扇町 西扇町 西寺町一丁目 同二丁目 小深町 茶屋町 角田町 高垣町 神山町 太融寺町 兔我野町 野崎町 中崎町 黒崎町 浮田町 葉村町 萬歳町 舟場町 道本町 山崎町 鶴野町 濱崎町ノ全部
- 二 新川崎町 天満橋筋三丁目 空心町二丁目 天神橋筋三丁目 南同心町一丁目 同二丁目 佐藤町 芝田町 浪花町 北梅

田町 西梅田町ノ一部(圖面省略)

此 花 區 内

- 一 春日出町中一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 上福島北一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 目 下福島二丁目 平松町 草開町 玉川町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 龜甲町一丁目 同二丁目 中江町 今開町一丁目 四貫島旭町一丁目 同二丁目 同三丁目 四貫島正岡町 同宗安町 同千鳥町 同白鳥町 同宮居町 同梅香町 同大通二丁目 同徳平町一丁目 同文徳町 同元宮町ノ全部
- 二 下福島三丁目 江成町 大野町一丁目 同二丁目 對込町 兼平町 茶園町 四貫島大通一丁目 同三丁目ノ一部(圖面省略)

東 區 内

- 一 法圓阪町 廣小路町 上本町一丁目 龍造寺町 十二軒町 神崎町 粉川町 内久寶寺町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 和泉町一丁目 同二丁目 南農人町一丁目 同二丁目 農人橋一丁目 同二丁目 兩替町一丁目 同二丁目 常盤町一丁目 同二丁目 鎗屋町一丁目 同二丁目 徳井町一丁目 同二丁目 南新町一丁目 同二丁目 北新町一丁目 同二丁目 糸屋町一丁目 同二丁目 大手通一丁目 同二丁目 内淡路町一丁目 同二丁目 内平野町一丁目 同二丁目 船越町一丁目 同二丁目 釣鐘町一丁目 同二丁目 島町一丁目 同二丁目 石町一丁目 同二丁目 京橋一丁目 同二丁目 同三丁目 谷町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 京橋前之町 大手前之町 馬場町 眞差町 上本町四丁目 八丁目中寺町 八丁目東寺町 小橋寺町 山小橋町 宰相山町 山之下町 清堀町 空堀通二丁目 同三丁目 清水谷東之町 同西之町 寺山町 小橋元町 小橋橋之町 同西之町 味原町 下味原町 船橋町 東雲町一丁目 同二丁目 同三丁目 仁右衛門町 岡山町 玉造町 八尾町 半入町 元伊勢町 左官町 越中町 紀伊國町 南玉造町 森之宮西之

町ノ全部

二 杉山町 木野町 東阪町 玉堀町 北國分町 森之宮東之町 中道黒門町 中道川西町ノ一部(圖面省略)

港 區 内

一 辰巳町一丁目 同二丁目 八雲町一丁目 同二丁目 魁町一丁目 同二丁目 千代見町一丁目 磯路町一丁目 市場通一丁目 吾妻町一丁目 音羽町一丁目 桂町一丁目 西市岡町一丁目 同二丁目 東田中町五丁目 同六丁目 同七丁目 同八丁目 西田中町五丁目ノ全部

二 市岡元町三丁目 辨天町一丁目 同二丁目 磯路町二丁目 市場通二丁目 吾妻町二丁目 音羽町二丁目 桂町二丁目 東田中町四丁目 西田中町四丁目 夕風町一丁目 同二丁目 同三丁目ノ一部(圖面省略)

天王寺區内

一 上本町七丁目 下寺町二丁目 同三丁目 同四丁目 逢阪上之町 同下之町 生玉前町 六萬体町 稚寺町 元町 生玉寺町 夕陽丘町 俗人町 玉水町 大道一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 堀越町 茶白山町 悲田院町 北河堀町 南河堀町 寺田町 勝山通一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 眞法院町 烏ヶ辻町 小宮町 上之宮町 北山町 石ヶ辻町 松ヶ鼻町 堂ヶ芝町 東上町 國分町 谷町八丁目 同九丁目 西高津中寺町 生玉町 下寺町一丁目 東平野町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 上汐町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同六丁目 上綿屋町 上本町八丁目 同九丁目 同十丁目 上本町五丁目 同六丁目 東高津北之町 同南之町ノ全部

二 筆ヶ崎町 細工谷町ノ一部(圖面省略)

南 區 内

一 内安堂寺町一丁目 同二丁目 同三丁目 上本町二丁目 同三丁目 南桃谷町 北桃谷町 谷町六丁目 同七丁目 空堀町 田島町 東賑町 西賑町 松屋町 瓦屋町一番町 同二番町 同三番町 同四番町 同五番町 高津町一番町ノ全部

浪 速 區 内

一 惠美須町一丁目ノ全部
二 霞町一丁目同二丁目ノ一部(圖面省略)

東淀川區内

一 十三南之町 國次町 北川口町 南方町 山口町 柴島町 西町 濱町 藥師堂町 飛鳥町 豊里菅原町 日之出町 木川町 十三東之町 今里町 十三西之町 南濱町一丁目ノ全部
二 本庄川崎町一丁目 同東通一丁目 同中通一丁目 同西通一丁目 豊崎東通一丁目 同西通一丁目 橋寺町 豊里三番町 豊里町 舊大道村ノ一部(圖面省略)

西淀川區内

一 浦江南一丁目 同二丁目 川上町 塚本町ノ全部
二 海老江上一丁目 野里町 姫島町ノ一部(圖面省略)

西 成 區 内

一 南吉田町 北吉田町 南神合町 東今船町 西今船町 柳通一丁目 粉濱中之町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同東之町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 千本通一丁目 田端通一丁目 南海通一丁目 同二丁目 玉

出新町一丁目 同本通一丁目 同二丁目 姫松通一丁目 同二丁目 辰巳通一丁目 有樂町 松原通一丁目 同二丁目 同三丁目 岸松通一丁目 同二丁目 同三丁目ノ全部

二 曳船町 東皿池町 西皿池町 柳通一丁目 櫻通一丁目 橋通一丁目 同二丁目 粉濱本町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 千本通二丁目 同三丁目 田端通二丁目 玉出新町二丁目 玉出本通三丁目 姫松通三丁目 辰巳通二丁目ノ一部(圖面省略)

東成區 內

一 東桃谷町四丁目 勝山通五丁目 同六丁目 同七丁目 同八丁目 同九丁目 北生野町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 南生野町一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 林寺新家町 林寺町 生野田島町 舍利寺町 岡之町 野江町一丁目ノ全部

二 東桃谷町一丁目 同二丁目 同三丁目 猪飼野町 天王田町 左專道町 永田町 新喜多町 野江町二丁目 内代町ノ一部

(圖面省略)

住吉區 內

一 山王町一丁目 同二丁目 同三丁目 旭町一丁目 同二丁目 同三丁目 阿倍野筋一丁目 同二丁目 同三丁目 同五丁目 松崎町一丁目 同二丁目 松田町一丁目 同二丁目 聖天下一丁目 同二丁目 天神ノ森町一丁目 同二丁目 天下茶屋一丁目 同二丁目 同三丁目 共立通一丁目 同二丁目 丸山通一丁目 同二丁目 松虫通一丁目 同二丁目 同三丁目 橋本町晴明通一丁目 同二丁目 相生通一丁目 同二丁目 同三丁目 播磨町東一丁目 同西一丁目 阪南町西一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同中一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 昭和町西一丁目 同二丁目 同三丁目 同四丁目 同五丁目 同中一丁目 同二丁目 同

二 中河內郡

巽村ノ 內

一 大字矢柄 大字伊賀ヶ 大字西足代 大字大地ノ全部
二 大字四條ノ一部(圖面省略)

矢田村ノ 全部

瓜破村ノ 全部

三 豐能郡 內

庄內村ノ 內

大字野田 大字三屋 大字牛立 大字島田 大字庄本ノ一部(圖面省略)
南豊島村ノ 全部

小曾根村ノ内

- 一 大字寺内 大字石蓮寺 大字北條 大字長島ノ全部
- 二 大字小曾根 大字濱ノ一部(圖面省略)

豊津村ノ内

大字榎阪 大字垂水ノ一部(圖面省略)

中豊島村ノ全部

四 三島郡 内

千里村ノ全部

◎大阪都市計畫地域變更ノ件 (第一回變更)

(變更九三頁)

大阪都市計畫地域變更ノ件昭和五年四月十九日内閣ノ認可ヲ受ケ昭和五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス其ノ地域ヲ表示シタル圖面ハ大阪府廳ニ備ヘ置キ縦覽ニ供ス

右 公 告 ス

昭和五年六月七日

内務大臣 安 達 謙 藏

備考 變更概要

- 一 工業地域追加……………〔2〕1 旭區赤川、生江、中宮、森小路等一圓
- 一 未指定地追加……………此花區恩貴島、西島方面
- 一 商業地域……………南豊島村ノ一部
- 昭和三三年五月二十九日内閣認可ニヨリ追加セラレタル主要街路ノ兩側

◎大阪都市計畫地域變更ノ件 (第二回變更)

(變更九四頁)

大阪都市計畫地域變更ノ件昭和六年十月三日内閣ノ認可ヲ受ケ昭和六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス其ノ地域ヲ表示シタル圖面ハ大阪府廳ニ備ヘ置キ縦覽ニ供ス

右 公 告 ス

昭和六年十月八日

内務大臣 安 達 謙 藏

備考 變更概要

- 一 工業地域追加……………野江、蒲生町附近

●大阪都市計畫地域變更ノ件 (第三回變更)

(變更九四頁)

大阪都市計畫地域變更ノ件昭和七年七月二十日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和七年八月十日ヨリ之ヲ施行ス其ノ地域ヲ表示シタル圖面ハ大阪府廳ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

右公告ス

昭和七年七月二十七日

內務大臣 男爵 山本 達 雄

備考 變更概要

- 一 工業地域追加……………大阪港內公有水面埋立地(住吉、港、此花各區內)
- 一 商業地域追加……………西市岡町附近
- 一 外ニ土地區劃整理ノ完成ニヨル地域界變更

●大阪都市計畫地域變更ノ件 (第四回變更)

(變更九六頁)

(昭和十一年六月十日
大阪市告示第三九二號)

內務省告示第三百二十五號

大正十四年四月六日內務省告示第六十六號大阪都市計畫地域追加變更ノ件昭和十一年五月十八日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和十一年六月十日ヨリ之ヲ施行ス其ノ地域ヲ表示シタル圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

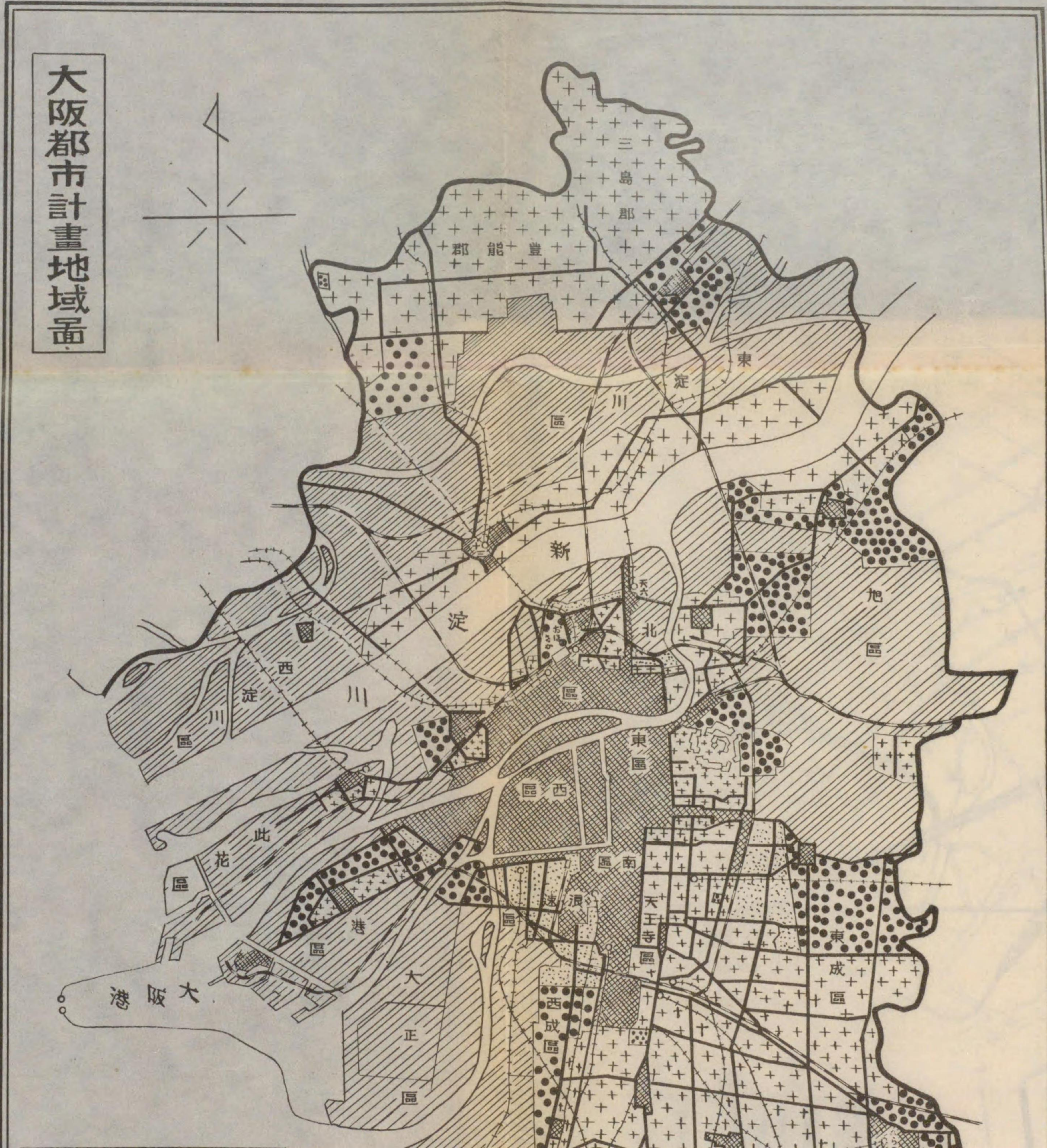
昭和十一年五月二十一日

內務大臣 潮 惠 之 輔

備考 變更概要

- 一 商業地域追加……………中央市場附近
大阪驛附近
谷町一圓
山王町一圓
吹田、大和田、森小路、都島、大今里、田邊、玉出、四貫島ノ八ヶ所
- 一 住居地域追加……………吹田、豐津、小曾根一圓
城北方面(守口、今市)
- 一 工業地域追加……………大道町、吹田町方面
大今里、深江方面
十三間堀川一帯
本庄、中津方面
西九條
大阪港內公有水面埋立地(住吉區及此花區)
工業地域內及未指定地內路線の商業地域

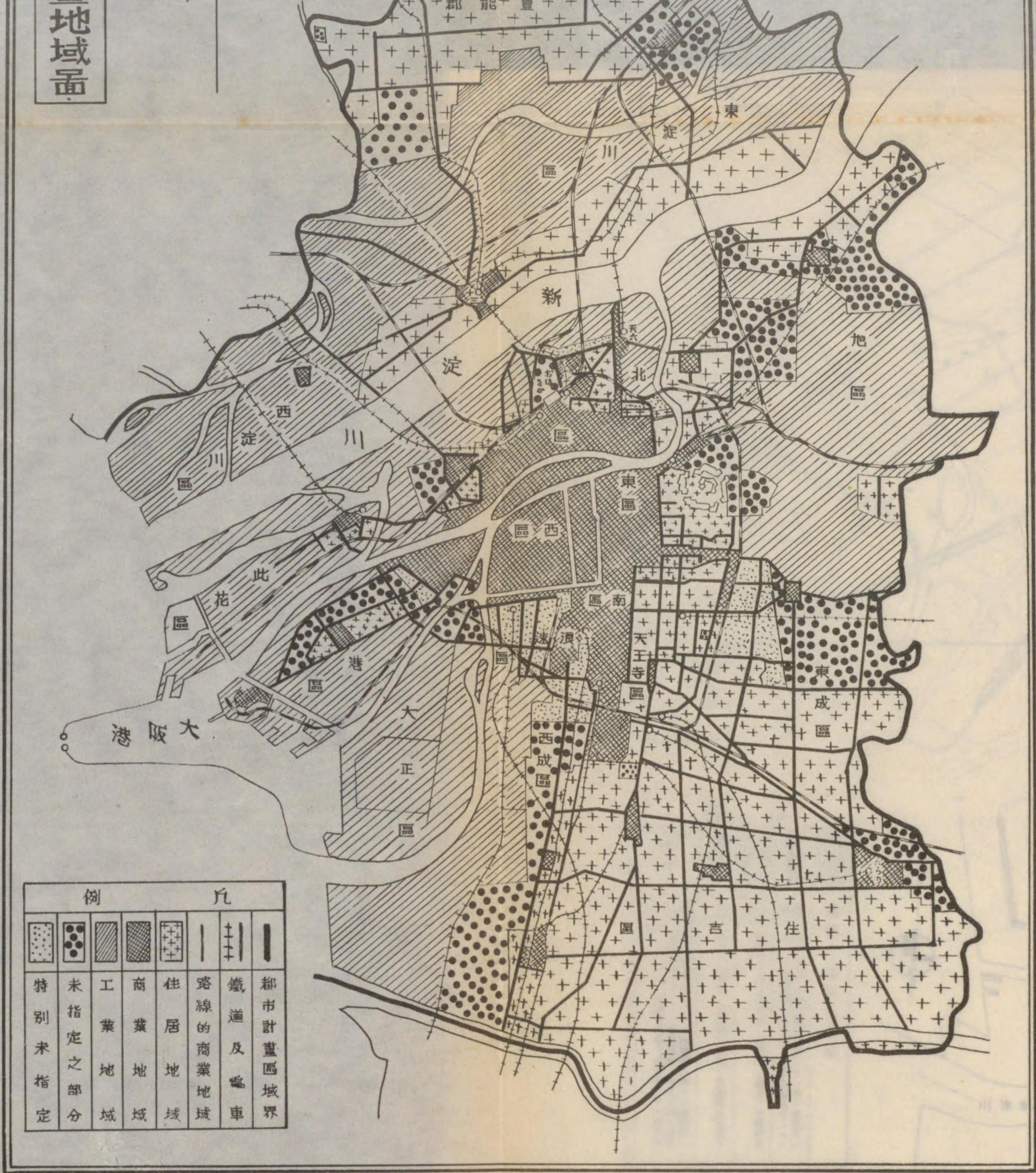
大阪都市計畫地域圖



備考 變更概要

- 一 商業地域追加……………足代線(一等大路第三類)中、昭和十一年四月
- 一 工業地域追加……………旭區永田町方面

地域圖



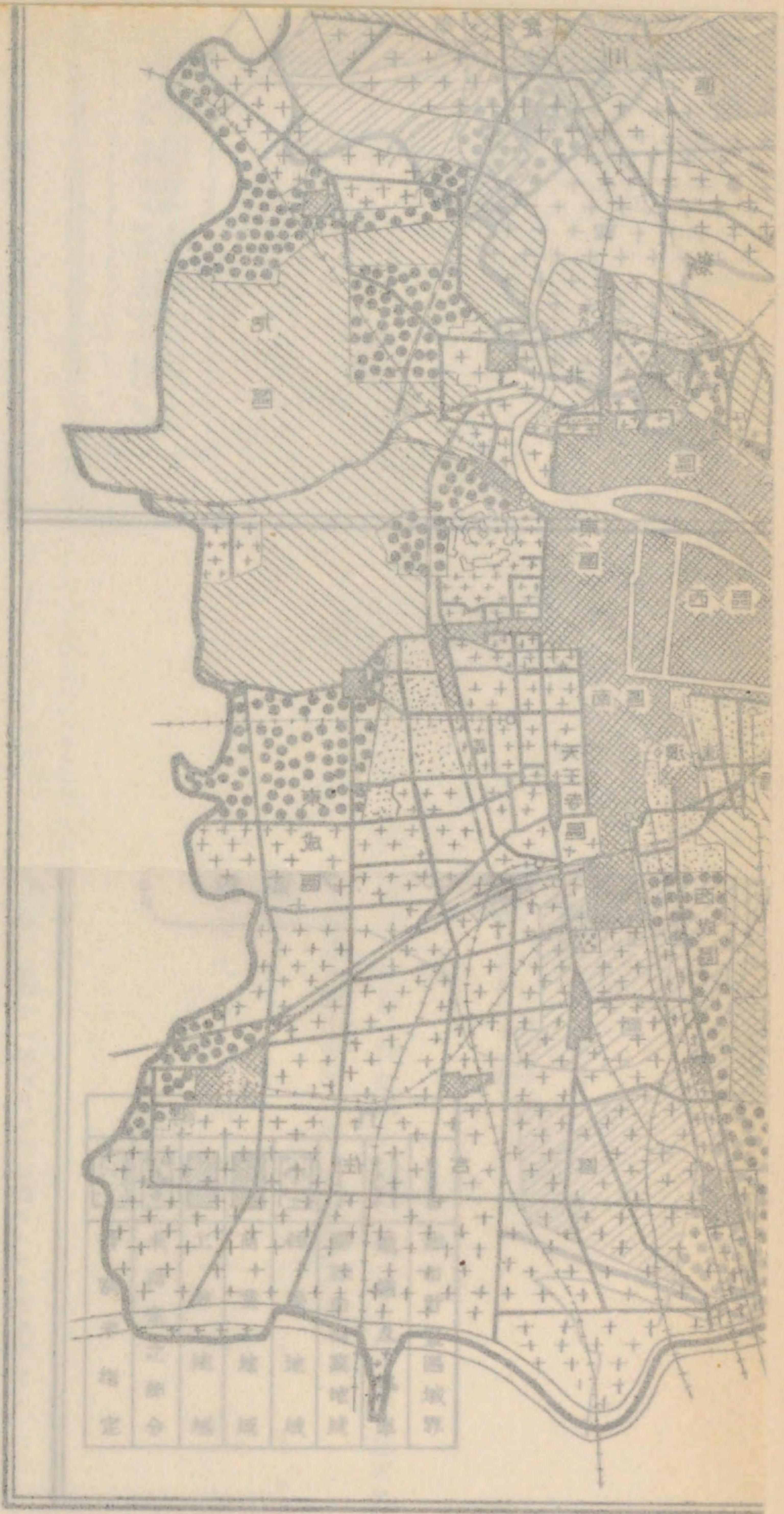
例		凡	
	特別未指定		工業地域
	未指定之部分		商業地域
			住居地域
			路線的商業地域
			鐵道及電車
			都市計畫區域界

備考 變更概要

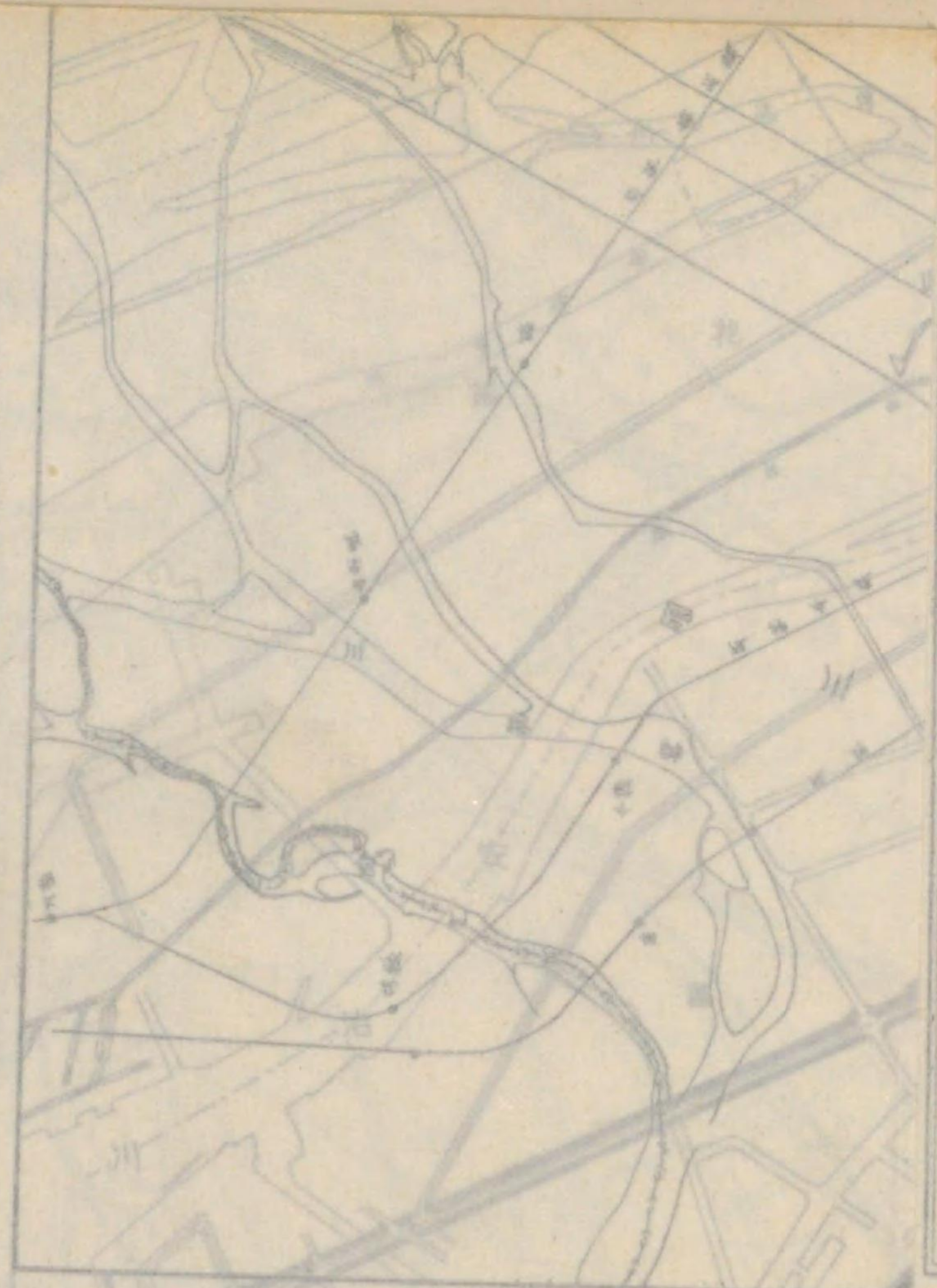
一 商業地域追加……………足代線(一等大路第三類)第五十八號線)中、昭和十一年四月十六日認可ニヨル追加部分

一 工業地域追加……………

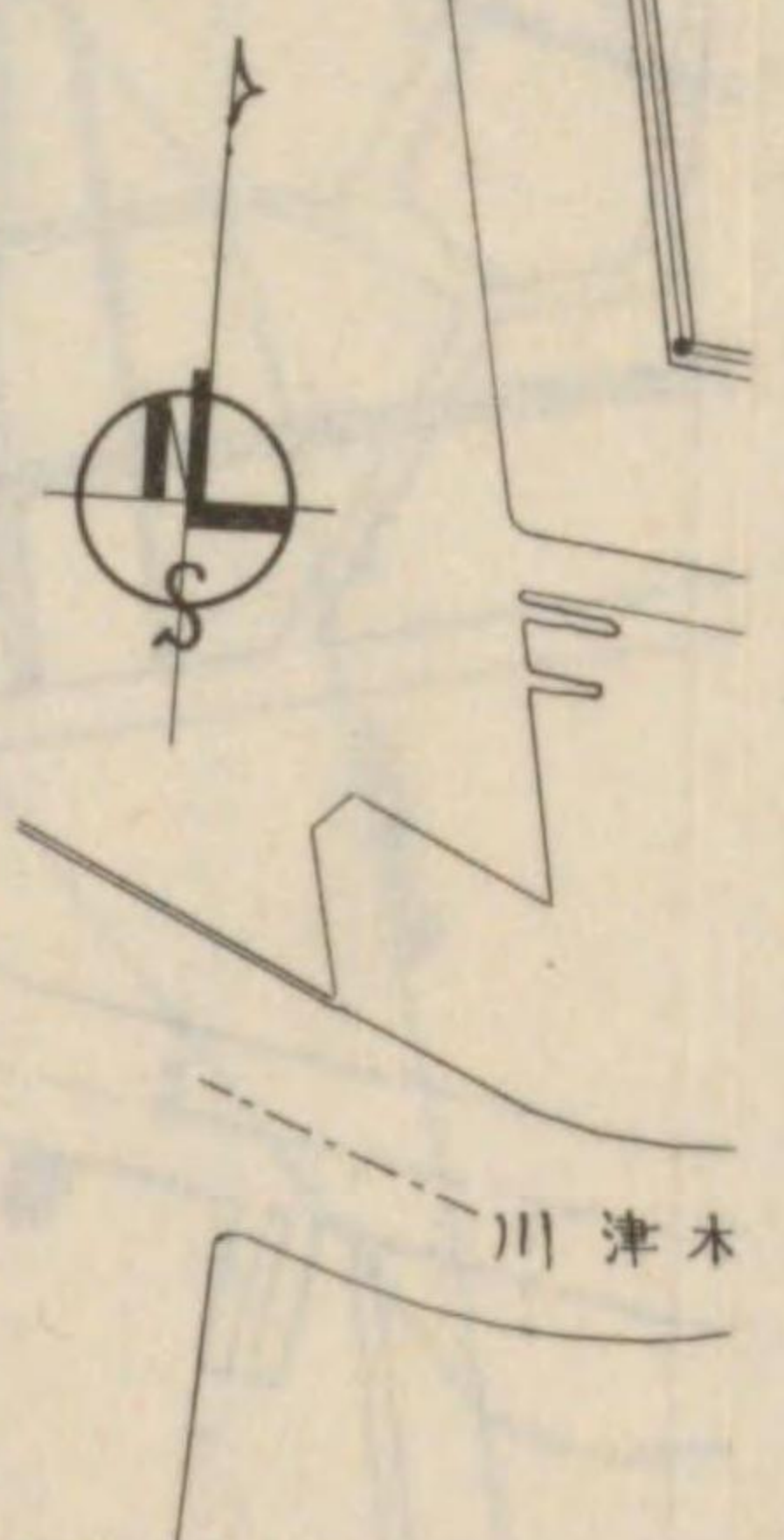
{ 21 大阪港内公有水面埋立地(此花區梅町及港區南海岸通方面) 旭區永田町方面



大坂市火災防範地圖



備考	■	■	■	■
道路ノ両側又ハ片側ニ於ケル建築線ト之ヨリ十一米ヲ後退セル敷地ノ防火地区タルモ、ハ當該道路ノ變更ト共ニ變更モラル・モノトス、道路中心線ガ地區境界タル場合モ亦同ジ	道路ノ高架工作物内ノ建築物ノ敷地ノ甲種防火地区タルモ	鐵道、軌道ノ高架工作物内ノ建築物ノ敷地ノ甲種防火地区タルモ	集團甲種防火地區	道路ノ両側ニ於ケル建築線ト之ヨリ十一米ヲ後退セル線トノ間ニアル建築物ノ敷地ノ甲種防火地区タルモ



此圖取致左ノ圖定昭和十一年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

大阪都市計畫防火地區圖

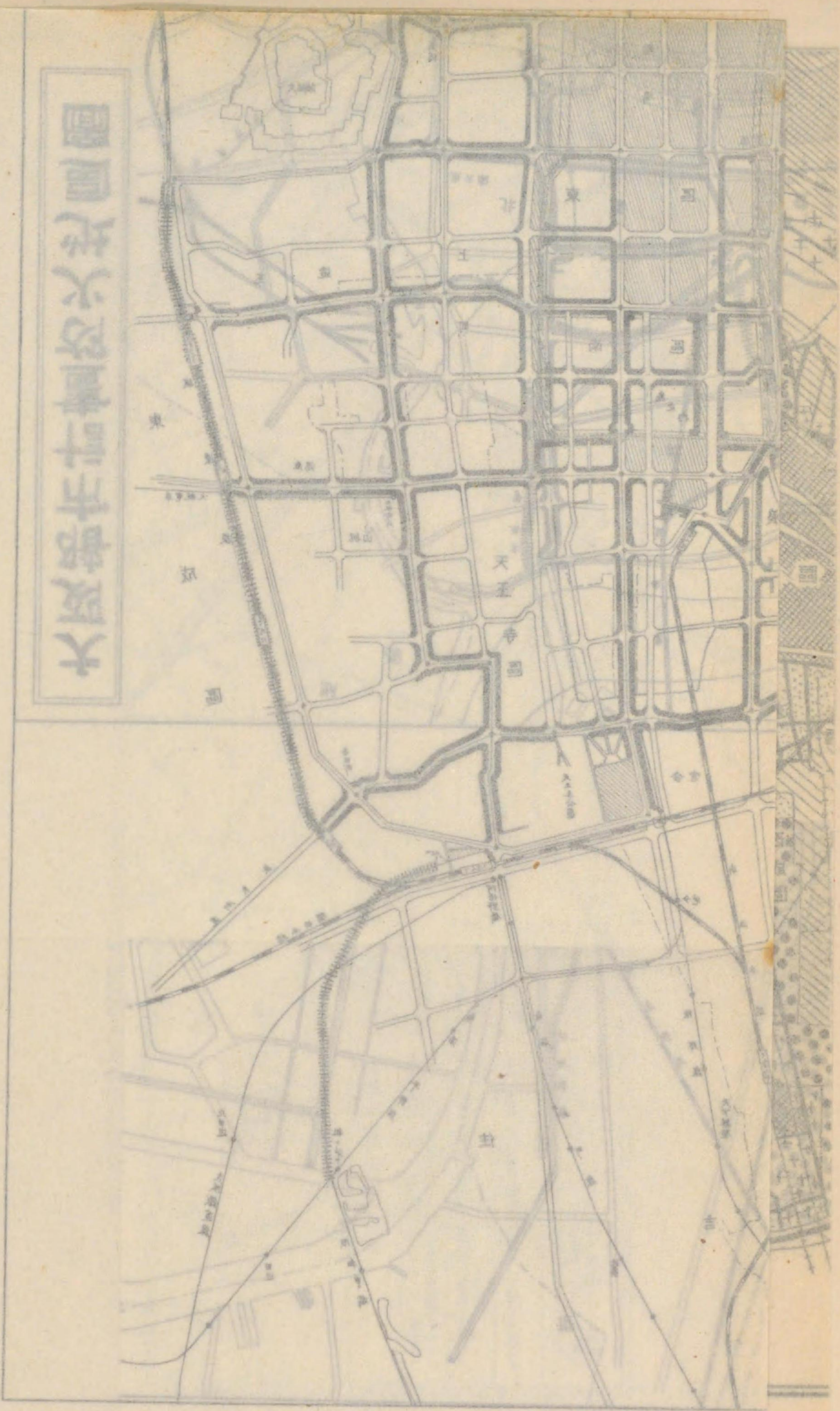


大阪市街地建築法施行令第三條但書及同令第三條ノ二第一項第四
項ニ依リテ指定シタル防火地區ノ位置ハ左ノ如クニ示ス



例 凡	
備考	
<p>道路ノ両側又ハ片側ニ於ケル建築線ト之ヨリ十一米ヲ後退セル敷地ノ防火地区タルモハ當該道路ノ變更ト共ニ變更セラル、モノトス、道路中心線ガ地区境界タル場合モ亦同ジ</p>	<p>集團甲種防火地区</p> <p>道路ノ両側ニ於ケル建築線ト之ヨリ十一米ヲ後退セル線トノ間ニアル建築物ノ敷地ノ甲種防火地区タルモノ</p> <p>鐵道、軌道ノ高架工作物内ノ建築物ノ敷地ノ甲種防火地区タルモノ</p> <p>道路ノ高架工作物内ノ建築物ノ敷地ノ甲種防火地区タルモノ</p>

大阪府告示第五百九十一號
 市街地建築物法施行令第三條但書及同第三條ノ二第一項第四號俱書ノ規定ニ依ル取裁左ノ通定メ昭和十一年六月十日ヨリ之ヲ施行ス
 特別未定地トシテ示セル區内ハ當該區ニ關シテ前記法施行令第三條但書及同第三條ノ二第一項第四號俱書ノ規定ニ依ル取裁左ノ通定メ昭和十一年六月十日ヨリ之ヲ施行ス



附記 特別未指定地指定ノ件

大阪府告示第五百九十一號

市街地建築物法施行令第三條但書及同第三條ノ二第一項第四號但書ノ規定ニ依ル取扱左ノ通定メ昭和十一年六月十日ヨリ之ヲ施行ス
 特別未指定地ヲ表示セル圖面ハ當廳ニ備ヘ置キ縦覽ニ供ス

昭和十一年六月五日

大阪府知事 安 井 英 二

- 第一條 常時使用スル原動機馬力數ノ合計五十ヲ超過スル工場ト雖モ左ノ各號ヲ具備スルトキハ承認ヲ受ケ未指定地内ニ建築スルコトヲ得
- 一 敷地ガ鐵道、軌道、河川、運河、港灣又ハ幅員十一メートル以上ノ街路ニ沿ヒ輸送ノ爲ニ之ヲ利用スルモノナルコト但シ特別未指定地ニ在リテハ街路ノ幅員五メートル迄遞減ス特別未指定地ハ別紙圖面表示ノ通トス(圖面省略)
 - 二 原動機ガ電動機ナルコト
 - 三 原動機用ニ非ザル汽罐ニ在リテハ完全燃焼裝置ヲ施スコト
 - 四 市街地建築物法施行令第一條第二號ニ該當スルモノニ在リテハ爆發、發火、引火、惡臭、惡液、有害瓦斯、粉塵、煤煙、騒音振動等ニ對シ適當ナル除害構造又ハ設備ヲ爲スモノナルコト
- 第二條 現在地ニ建築スルコトヲ得ザル工場ト雖モ左ノ各號ヲ具備スルトキハ許可ヲ受ケ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際常時使用スル原動機馬力合計數ノ二倍ヲ超過シテ之ヲ増加スルコトヲ得
- 一 敷地ガ鐵道、河川、運河、港灣又ハ幅員十一メートル以上ノ街路ニ沿ヒ輸送ノ爲ニ之ヲ利用スルモノナルコト但シ馬力數增加ノ結果住居地域内ニ於テ十五馬力未滿、商業地域内ニ於テ五十馬力未滿、未指定地内ニ於テ二百馬力未滿ノモノニ在リテハ周圍ノ狀況ニ依リ街路ノ幅員ヲ五メートル迄遞減ス
 - 二 原動機ガ電動機ナルコト
 - 三 業態ガ現ニ存在スル地域ニ禁止セラレザルモノナルコト
 - 四 爆發、發火、引火、惡臭、惡液、有害瓦斯、粉塵、煤煙、騒音、振動等ニ對シ適當ナル除害構造又ハ設備ヲ爲スモノナルコト

三 大阪都市計畫防火地區

大正十二年七月十三日 指定
昭和十一年四月四日 變更(一〇一頁)

●大阪都市計畫防火地區指定ノ件

大正十二年七月十三日
内務省告示第二二七號

(變更一〇一頁)

大阪都市計畫防火地區市街地建築物法第十三條ノ規定ニ依リ左ノ通指定シ大正十二年十月一日ヨリ施行ス

大正十二年七月十三日

内務大臣 水野鍊太郎

大阪都市計畫防火地區之部

一 甲種防火地區

イ 左記區域内ニ在ル建築敷地

一 北區中之島二丁目ノ全部

二 北區中之島一丁目 同三丁目 宗是町 堂島濱通二丁目 同三丁目ノ一部(圖面省略)

ロ 左記道路ノ兩側ニ於ケル建築線ト之ヨリ六間ヲ後退セル線トノ間ニ在ル建築敷地、但シ東區梅檀之木橋南詰ヨリ南區三休橋北

詰ニ至ルノ路線、南區相合橋南詰ヨリ浪速區河原町一丁目千五百三十五番地ノ一地先ニ至ルノ路線、東區本町一丁目一番地ノ一地先ヨリ南區末吉橋通一丁目十番地地先ニ至ルノ路線、東區京町橋東詰ヨリ平野橋西詰ニ至ルノ路線、東區助左衛門橋東詰ヨリ久寶寺橋西詰ニ至ルノ路線及南區南炭屋町三十三番地地先ヨリ問屋町五十四番地地先ニ至ルノ路線ノ兩側ニ於ケル建築線ト之ヨリ六間ヲ後退セル線トノ間ニ在ル建築敷地ヲ除ク

一 東區難波橋南詰ヨリ長堀橋日本橋ヲ經テ南區日本橋筋三丁目五十五番地ノ一地先ニ至ルノ路線

二 北區角田町百六番地地先ヨリ東梅田町四十番地地先ニ至ルノ路線

三 北區堂島濱通二丁目十一番地地先ヨリ曾根崎新地三丁目二十四番地ノ一地先ニ至ルノ路線

四 北區堂島大橋南詰ヨリ堂島川ニ沿ヒ田蓑橋南詰ニ至ルノ路線

五 北區堂島大橋南詰ヨリ土佐堀橋北詰ニ至ルノ路線

六 東區大川町二十三番地地先ヨリ葎屋橋西詰ニ至ルノ路線

七 東區横堀一丁目六番地ノ一地先ヨリ今橋一丁目一番地地先ニ至ルノ路線

八 東區横堀一丁目十八番地地先ヨリ今橋一丁目一番地地先ニ至ルノ路線

九 東區横堀一丁目二十四番地地先ヨリ高麗橋一丁目十九番地地先ニ至ルノ路線

一〇 東區信濃橋東詰ヨリ本町一丁目一番地ノ一地先ニ至ルノ路線

一一 南區九郎右衛門町四十七番地地先ヨリ日本橋筋一丁目五十五番地ノ一地先ニ至ルノ路線

一二 南區難波新地三番町四十五番地ノ一地先ヨリ日本橋筋一丁目三十番地ノ一地先ニ至ルノ路線

一三 南區太左衛門橋南詰ヨリ浪速區河原町一丁目千五百十四番地ノ八地先ニ至ルノ路線

ハ 左記建築線ト之ヨリ六間ヲ後退セル線トノ間ニ在ル建築敷地

- 一 北區土佐堀橋北詰ヨリ筑前橋北詰ニ至ルノ路線ノ北側ニ於ケル建築線
- ニ 大正九年一月二十一日大阪府告示第一號ヲ以テ公告セル大正八年十二月内務省訓第八五七號大阪市區改正設計街路ノ部中左記道路ノ兩側ニ於ケル建築線ト之ヨリ六間ヲ後退セル線トノ間ニ在ル建築敷地、但シ東區京町橋東詰ヨリ平野橋西詰ニ至ルノ路線東區助左衛門橋東詰ヨリ久寶寺橋西詰ニ至ルノ路線及南區南炭屋町三十三番地地先ヨリ問屋町五十四番地地先ニ至ルノ路線ノ兩側ニ於ケル建築線ト之ヨリ六間ヲ後退セル線トノ間ニ在ル建築敷地ヲ除ク
- 一 廣路第一號線
- 二 一等大路第三類第十一號線ノ内東區横堀一丁目一番地地先ヨリ淀屋橋南詰ニ至ルノ區間
- 三 二等大路第二類第四號線ノ内北區筑前橋北詰ヨリ田養橋南詰ニ至ルノ區間

二 乙種防火地區

- イ 左記道路ノ兩側ニ於ケル建築線ト之ヨリ六間ヲ後退セル線トノ間ニ在ル建築敷地、但シ西區紀伊國橋南詰ヨリ靱南通二丁目二十八番地ノ一地先ニ至ルノ路線、南區高津町四番町九十三番地ノ一地先ヨリ高津橋北詰ニ至ルノ路線、北區梅ヶ枝町二百一番地地先ヨリ同町十一番地地先ニ至ルノ路線、西區雜喉場橋東詰ヨリ京町橋西詰ニ至ルノ路線及西區千代崎橋東詰ヨリ清水橋西詰ニ至ルノ路線ノ兩側ニ於ケル建築線ト之ヨリ六間ヲ後退セル線トノ間ニ在ル建築敷地ヲ除ク
- 一 北區新出入橋東詰ヨリ堀川橋ヲ經テ南森町三十三番地ノ一地先ニ至ルノ路線
- 二 東區葎屋橋東詰ヨリ京橋二丁目二十八番地地先ニ至ルノ路線
- 三 西區木津川橋東詰ヨリ江之子島橋門樋橋ヲ經テ信濃橋西詰ニ至ルノ路線
- 四 東區谷町三丁目七番地ノ一地先ヨリ本町橋東詰ニ至ルノ路線

- 五 南區日本橋筋一丁目二十一番地ノ一地先ヨリ磐舟橋ヲ經テ高津町四番町十九番地ノ一地先ニ至ルノ路線
- 六 西區土佐堀橋南詰ヨリ岡崎橋、白髮橋ヲ經テ幸西橋北詰ニ至ルノ路線
- ロ 大正九年一月二十一日大阪府告示第一號ヲ以テ公告セル大正八年十二月内務省訓第八五七號大阪市區改正設計街路ノ部中左記道路ノ兩側ニ於ケル建築線ト之ヨリ六間ヲ後退セル線トノ間ニ在ル建築敷地
- 一 一等大路第二類第一號線ノ内北區渡邊橋北詰ヨリ東梅田町四十番地地先ニ至ルノ區間

◎大阪都市計畫防火地區變更ノ件

昭和十一年四月十八日
大阪府告示第二七二號

内務省告示第百八十八號

大正十二年七月十三日内務省告示第二百二十七號大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件昭和十一年四月四日内閣ノ認可ヲ受ケ昭和十一年四月二十九日ヨリ之ヲ施行ス其ノ關係圖面ハ大阪府廳及大阪府役所ニ備ヘ置キ縦覽ニ供ス

昭和十一年四月九日

内務大臣 潮 惠 之 輔

四 大阪都市計畫風致地區

昭和八年四月十日指定

●大阪都市計畫風致地區指定ノ件

大阪都市計畫風致地區指定ノ件昭和八年四月十日内閣ノ認可ヲ得タリ其ノ地區ヲ表示シタル圖面ハ大阪府廳ニ備ヘ置キ縦覽ニ供ス

昭和八年四月十七日

内務大臣 男爵 山本 達 雄

(参考)

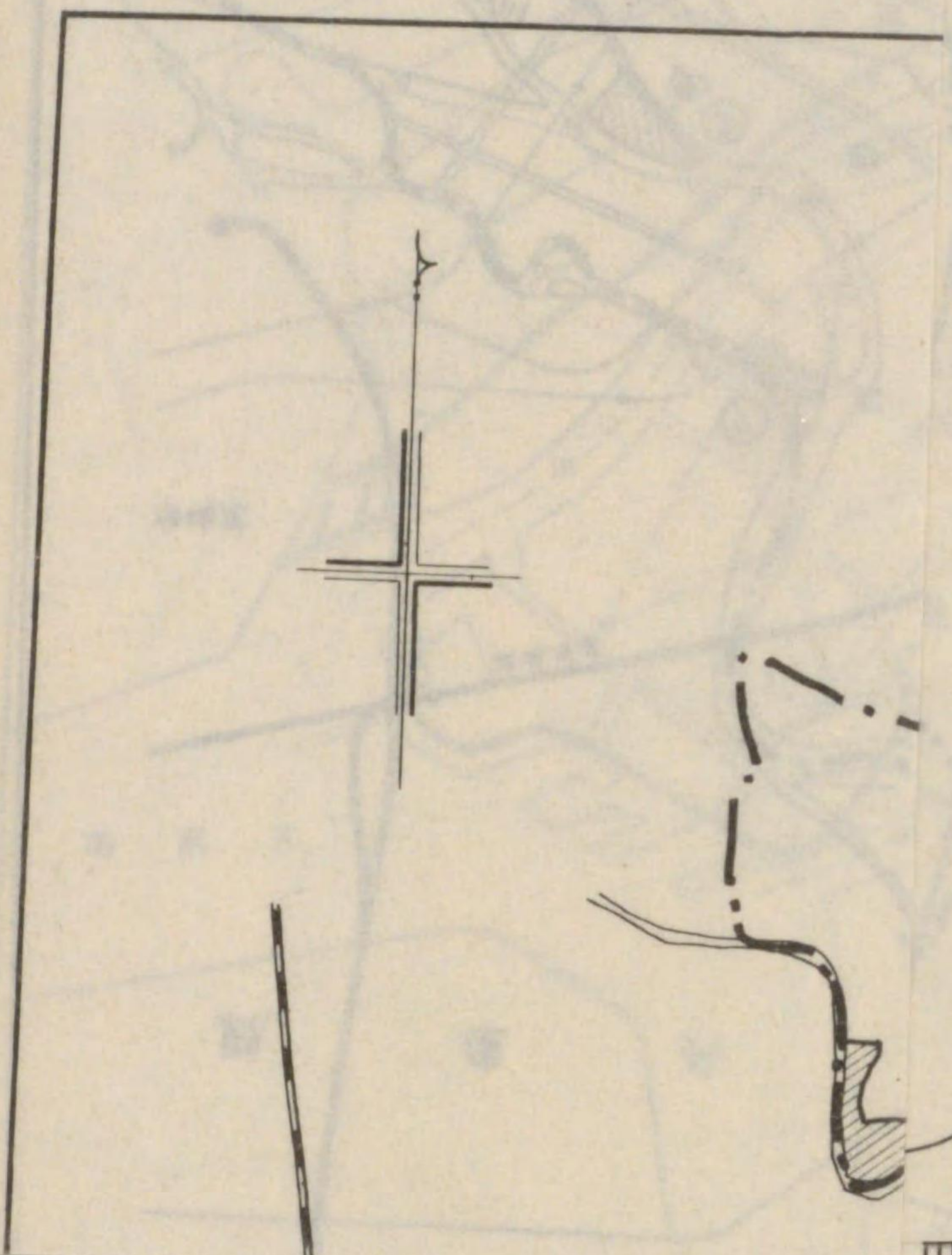
大阪都市計畫風致地區

地區名稱	位置區域	面積 (ヘクタール)
一 千里山	千里山一帶	一、〇〇六・四一
二 糸田川	糸田川堤防	四・三〇

摘要

垂水神社外著名ナル村社五、山田寺外古刹三山田兵庫頭ノ城址、都市計畫服部公園糸田ノ夕映

大阪都市計畫風致

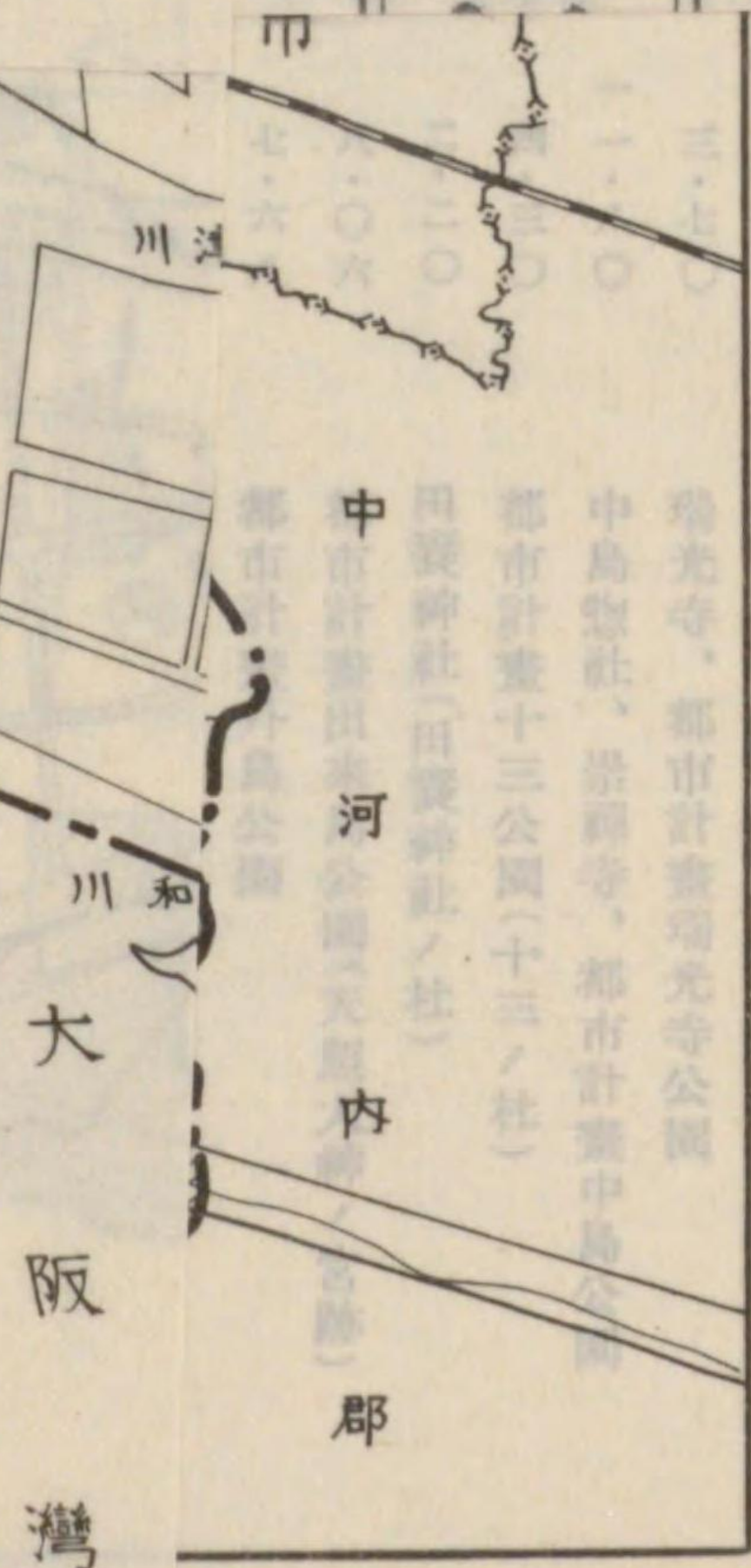


風致地區指定地

番號	名稱	番號	名稱
①	千里山	⑭	夕陽丘
②	糸田川	⑮	四天王寺
③	猪名川	⑯	茶白山
④	瑞光寺	⑰	御勝山
⑤	崇禪寺	⑱	杭全野
⑥	十	⑲	北池
⑦	佃島	⑳	臨南寺
⑧	出來島	㉑	聖天山
⑨	外島	㉒	津守
⑩	中ノ島	㉓	依羅
⑪	大手前	㉔	瓜破
⑫	東高津	⑬	西高津
面積 1,959.23 ㉒			

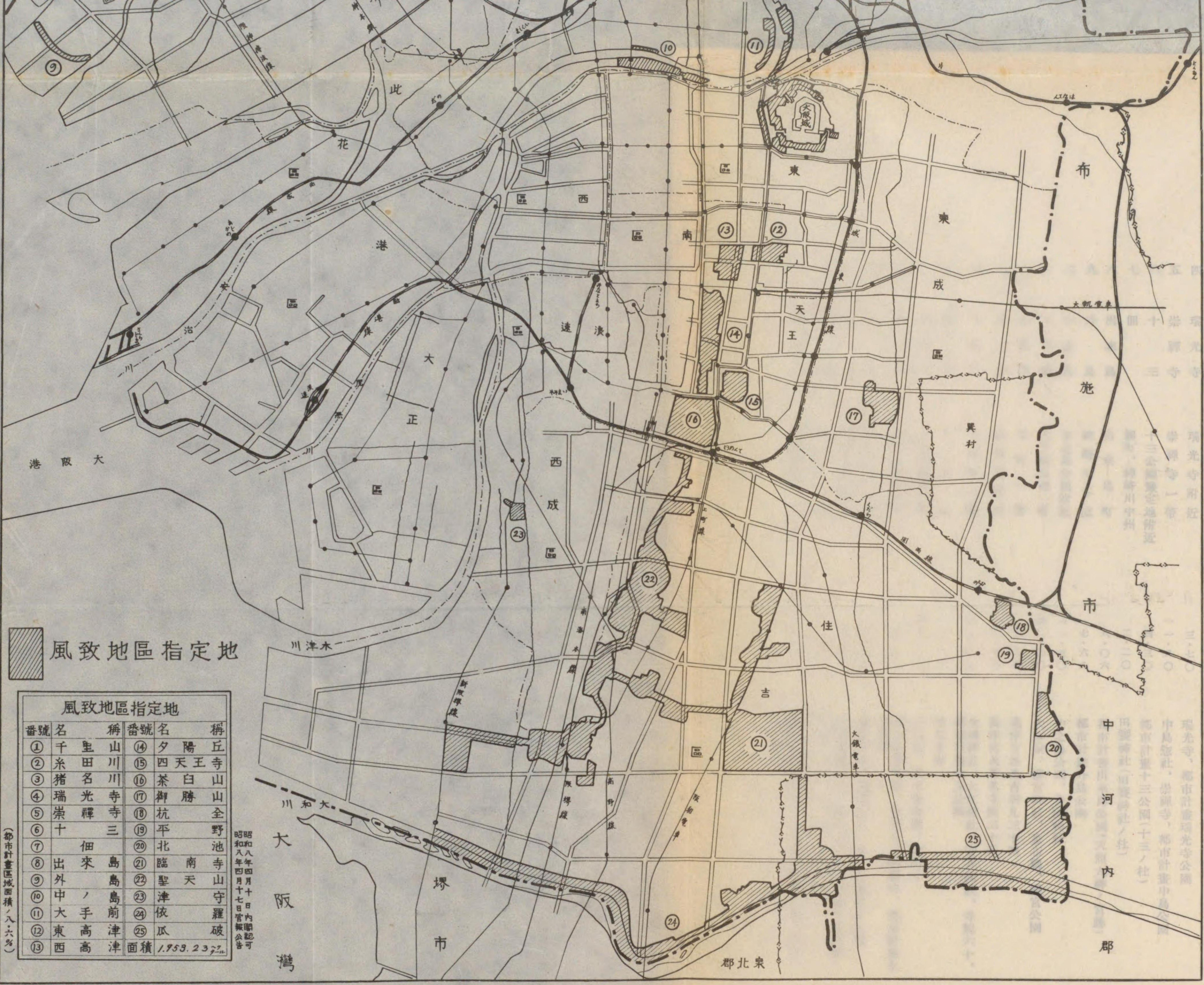
(都市計畫區域面積ノ八・六%)

昭和八年四月十日内閣認可
昭和八年四月十七日官報公告



大阪都市計畫風致地區圖





風致地區指定地

風致地區指定地			
番號	名稱	番號	名稱
①	千里山	⑭	夕陽丘
②	糸田川	⑮	四天王寺
③	猪名川	⑯	茶臼山
④	瑞光寺	⑰	御勝山
⑤	崇禪寺	⑱	杭全野
⑥	十三	⑲	北池
⑦	佃島	⑳	臨南山
⑧	出來島	㉑	聖天
⑨	外島	㉒	津守
⑩	中島	㉓	依羅
⑪	大手	㉔	瓜破
⑫	東高	面積	1,953.23 ² ㎡
⑬	西高		

(都市計畫區域面積ノ八・六多)

昭和八年四月十日內閣認可
昭和八年四月十七日官報公告

番號 一
名稱 千里山
位置區域 糸田川堤防

位置區域 千里山一帶
面積 (ヘクタール) 一、〇〇六・四一

面積 (ヘクタール) 四・三〇

摘要
垂水神社外著名ナル村落五、山田寺外古刹三
山田兵庫頭ノ城址、都市計畫服部公園
糸田ノ夕映

三	聖天山	帝塚山住吉一圓	一七七・七七	住吉神社外三社、萬代池、住吉公園、住之江公園、都市計畫萬代池、帝塚山、聖天山各公園
三	津守	津守町	三・九七	津守神社、白山邸、都市計畫津守公園
三	依羅	大和川右岸一帶	一三九・五〇	大依羅神社、阿麻美許會神社、依羅池、都市計畫大和川公園
三	瓜破	瓜破村大和川兩岸	二〇六・二七	都市計畫南墓地
合計		二五箇所	一、九五三・二三ヘクタール	

一〇四

五 大阪都市計畫美觀地區

昭和九年十二月七日指定

●大阪都市計畫美觀地區指定ノ件

昭和九年十二月十八日
内務省告示六一〇號

大阪都市計畫美觀地區指定ノ件昭和九年十二月七日内閣ノ認可ヲ得タリ其ノ地區ヲ表示シタル圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス (三四頁參照)

昭和九年十二月十八日

内務大臣 後藤 文 夫

六 大阪市區改正設計

大正八年十二月二十三日	決定
大正十一年十月十二日	變更 (一一二頁)
大正十三年十一月二十九日	變更 (一一三頁)
昭和三年五月二十九日	變更 (一一三頁)
昭和十二年三月二日	變更 (一一六頁)

●大阪市區改正設計決定ノ件

内務省訓第八五七號

大阪府 大阪市長

大阪市區改正設計別紙圖書ノ通内閣ノ認可ヲ得タルニ付之ヲ公告スヘシ

右訓令ス

大正八年十二月二十三日

内務大臣 床次 竹二郎

一〇五

大正九年一月二十一日 大阪市告示第一號

(變更一二二頁)

大正八年十二月内務省訓令第八五七號ニ依リ大阪市區改正設計左ノ通告示ス
但シ市區改正設計圖ハ本市役所ニ備置ク

大阪市區改正設計

街路ノ部

第一 街路ノ等級、幅員及構造ハ左ノ標準ニ依ル

一 廣路 幅員二十四間以上

二 一等大路ハ左ノ三類トス

第一類 幅員二十間以上

第二類 幅員十六間以上

第三類 幅員十二間以上

三 二等大路ハ左ノ二類トス

第一類 幅員十間以上

第二類 幅員六間以上

二等大路以上其ノ他必要ナル街路ニハ舗装工事ヲ施行ス

第二 橋梁ノ幅員及構造ハ左ノ標準ニ依ル

一 長三十間未満ノ橋梁ノ幅員ハ街路幅員ト同一トス但シ交通ノ情勢ニ依リ街路幅員ノ十分ノ八迄ト爲スコトヲ得

二 長三十間以上ノ橋梁ノ幅員ハ街路幅員ノ三分ノ二迄短縮スルコトヲ得但シ二等大路第一類線ニ在リテハ八間ヲ

註
○印ハ全部殘存
△印ハ一部殘存

下ルコトヲ得ス

三 橋梁ノ主要部ハ鐵、石、鐵筋「コンクリート」等不燃質耐久材料ヲ以テ築造スルモノトス

四 假設橋梁ニ付テハ大阪市區改正委員會ノ議ヲ經テ前各號ニ依ラサルコトヲ得

第三 二等大路第一類以上ノ街路ニ非サレハ複線軌道ヲ敷設スルコトヲ得ス

第四 設計ノ實施ニ方リ測量ノ結果其ノ設計ニ些少ノ異動ヲ生スル場合ハ大阪市區改正委員會ノ議定ニ依リ之ヲ

變更シタルモノヲ以テ本設計ト看做ス

第五 街路ノ新設及擴張並其ノ位置及幅員左ノ如シ

一 廣路

大阪驛前北區角田町三百四十九番地ノ一ヨリ大江橋、淀屋橋並長堀川及道頓堀川ノ各新橋梁ヲ經テ難波驛
前難波新地五番町五十三番地ノ一ニ至ルノ路線一 幅員 二十四間

二 一等大路ノ部

第一 九條通一丁目七百三番地ノ一ヨリ本田町、端藏藏橋南詰、木津川新橋梁及江戸堀北通二丁目ヲ經テ肥後

橋南詰ニ至リ北折シ肥後橋及渡邊橋ヲ經テ東梅田町三百十四番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 十六間

二 難波新地三番町四十五番地ノ一ニ於テ廣路第一號線ヨリ分岐シ賑橋西詰ニ至ルノ路線 幅員 十六間 (削除一二三頁)

第三類

一 肥後橋南詰ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ西長堀橋及深里橋ヲ經テ一等大路第二類第二號線

終點ト接続シ市場橋ヲ經テ宮津町三百五十六番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 十三間

- 二 鳴尾町二番地ノ一ヨリ天神橋及松屋町筋ヲ經テ天王寺逢坂下之町三番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十三間
- 三 上福島中五丁目十四番地ヨリ西野田茶園町ヲ經テ鷺洲町海老江三百二番地ノ八ニ至ルノ路線
幅員 十二間 (削除一一三頁)
- 四 大阪驛前曾根崎中二丁目二百番地ノ三地先ヨリ北野大深町及北野牛丸町ヲ經テ中津町下三番百十九番地ノ二ニ至リ西折シ十三橋南詰ニ至ルノ路線
幅員 十二間
- 五 堂島大橋南詰ヨリ上福島及鷺洲町ヲ經テ中津町下三番四百三十五番地ノ四ニ於テ前號路線ニ接續スルノ路線
幅員 十二間
- 六 谷町三丁目三十四番地ノ一ヨリ森之宮東之町四百六十一番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間
- 七 上本町六丁目百六十五番地ノ一ヨリ下味原町八十二番地ノ四地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間
- 八 難波河原町二丁目千五百八番地ノ一ヨリ日本橋筋三丁目ニ至リ南折シ惠美須町二丁目四十三番地ノ三地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間
- 九 市岡町五百四十八番地ノ一(現市岡元町四丁目九十二番地)ヨリ北福崎北福西ノ町(舊崎町)三極入堀新橋梁ヲ經テ出崎町一丁目八番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間 全部 殘存
- 十 一等大路第三類第一號線終點ヨリ今宮町ヲ經テ住吉公園ニ至ルノ路線
幅員 十二間
- 十一 肥後橋南詰ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ西國橋ヲ經テ淀屋橋南詰ニ於テ廣路第一號線ニ接續スルノ路線
幅員 十二間
- △ 十二 上本町二丁目三番地ノ一ヨリ谷町六丁目ヲ經テ西販町二十一番地地先ニ至リ曲折シ末吉橋ヲ經テ長堀川北岸ニ沿ヒ伯樂橋西詰ニ至リ南折シ松島町二丁目十八番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間
- 十三 一等大路第三類第二號線終點ヨリ天王寺西門前逢坂上之町三千六百七十二番地ノ一地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間
- 十四 天神橋筋六丁目七百十五番地ヨリ長柄橋南詰ニ至ルノ路線
幅員 十二間

三 二等大路ノ部

第一 類

- 一 廣路第一號線起點ヨリ天滿橋筋四丁目ニ至リ南折シ天滿橋ヲ經テ谷町六丁目五十番地ノ一地先ニ於テ一等大路第三類第十二號線ニ接續スルノ路線
幅員 十一間 (削除一一三頁)
- △ 二 三軒家上之町六十四番地ノ三ヨリ泉尾町、尻無川渡船場及市岡町ヲ經テ南安治川通三丁目五十一番地ニ至ルノ路線
幅員 十一間
- 三 泉尾町四十九番地ノ十六ニ於テ前號路線ヨリ分岐シ新千歲町百二十六番地ニ至ルノ路線
幅員 十一間
- 四 木津北島町一丁目五番地地先ヨリ津守村ヲ經テ敷津村加賀屋三百五十二番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十一間 (削除一一三頁)
- 五 京橋一丁目一番地地先ヨリ上本町二丁目ヲ經テ同九丁目ニ至リ西折シ推寺町ニ至リ南折シ天王寺村阿部野二千六十三番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 十間 (削除一一三頁)
- △ 六 南安治川通三丁目四百八十二番地地先ヨリ春日出橋並正蓮寺川及傳法川ノ各新橋梁ヲ經テ新淀川左岸北傳法町四丁目百四十四番地ノ四ニ至ルノ路線
幅員 十間

- 七 西野田茶園町七百七十一番地ノニニ於テ一等大路第三類第三號線ヨリ分岐シ中津川及傳法川ノ各新橋梁並稗島村ヲ經テ常吉町二十一番地ニ至ルノ路線
幅員 十間 (削除一一三頁)
- 八 一等大路第三類第十四號線終點ヨリ長柄橋ヲ經テ西中島村柴島三十四番地ニ至ルノ路線
幅員 十間
- 九 善源寺町二十五番地ヨリ榎並町野江字渡守三百二十七番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 十間
- △ 十 東雲町一丁目七十八番地地先ヨリ森之宮東之町及鯉江町蒲生ヲ經テ前號路線終點ニ接続スルノ路線
幅員 十間
- 十一 空心町二丁目十四番地ノ一ニ於テ二等大路第一類第一號線ヨリ分岐シ淀川新橋梁及東野田町ヲ經テ鯉江町蒲生字鎌田二百七十六番地ニ至ルノ路線
幅員 十間
- 十二 上本町九丁目百四十六番地地先ニ於テ二等大路第一類第五號線ヨリ分岐シ天王寺勝山通ヲ經テ鶴橋町猪飼野字大池百五十五番地ノ二地先ニ至ルノ路線
幅員 十間
- 十三 天王寺寺田町三千五百五十一番地ヨリ北百濟村ヲ經テ平野郷町平野泥堂字堀ノ角三百八十二番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十間
- 十四 一等大路第三類第一號線終點ヨリ南霞町九百七十八番地ノ一地先ニ至ルノ路線
幅員 十間
- 十五 木津川東岸津守村南島三百九十七番地ヨリ天王寺村及田邊村ヲ經テ平野郷町平野泥堂字堀ノ角三百八十三番地ニ於テ二等大路第一類第十三號線ニ接続スルノ路線
幅員 十間
- 十六 東野田町二百十番地ノ三ニ於テ二等大路第一類第十一號線ヨリ分岐シ中野町ヲ經テ澤上江町三百四番地ノ一地先ニ至ルノ路線
幅員 十間
- 十七 二等大路第一類第十號線起點ヨリ中本町ヲ經テ神路村大今里七百三十五番地ニ至ルノ路線
幅員 十間

第二類

- △ 一 梅田橋北詰ヨリ曾根崎川及安治川ノ北岸ニ沿ヒ二等大路第一類第六號線起點ニ接続スルノ路線
幅員 八間
- △ 二 今宮町水渡六百二十二番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第十號線ヨリ分岐シ木津川落合上渡船場、千島町泉尾町、尻無川甚兵衛渡船場、北福崎町、三種入堀新橋梁並安治川松ヶ鼻及正蓮寺川ノ各渡船場ヲ經テ西島町二百二十三番地ニ於テ二等大路第一類第七號線ニ接続スルノ路線
幅員 八間
- 三 鷺洲町海老江百六十七番地ノ一ヨリ同町八百八十三番地ノ五ニ於テ一等大路第三類第三號線ニ接続スルノ路線
幅員 八間 全部 殘存
- △ 四 江戸堀上通二丁目二十五番地ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ筑前橋田養橋及梅田橋ヲ經テ中津町下三番二百三十七番地ニ於テ一等大路第三類第四號線ニ接続スルノ路線
幅員 八間
但シ二等大路第二類第一號線起點ヨリ西梅田町三百九十五番地ニ至ル區間ハ幅員十二間トス
- △ 五 本田三番町十七番地地先ヨリ九條町、辰巳橋、市岡町及田中町ヲ經テ七條通一丁目三番地地先ニ至ルノ路線
幅員 八間

路線

- 六 南恩加島町十八番地ヨリ木津川千本松渡船場ニ至ルノ路線
幅員 八間
- 七 二等大路第一類第三號線終點ヨリ新千歲町四十一番地地先ニ至リ曲折シ木津川西岸平尾町五十五番地地先ニ至ルノ路線
幅員 八間 全部 殘存
- 八 新千歲町四十一番地地先ニ於テ前號路線ヨリ分岐シ鶴町三丁目ニ至ルノ路線
幅員 八間 全部 殘存
- 九 小林町百七十五番地地先ヨリ木津川西岸千島町二百五十六番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 八間 全部 殘存
- 十 千島町二十五番地地先ニ於テ二等大路第二類第二號線ヨリ分岐シ木津川ニ併行シ平尾町四十四番地地先ニ於テ二等大路第二類第七號線ニ接續スルノ路線
幅員 八間 全部 殘存
- 第六 在來ノ街路ニシテ既定ノ幅員ニ滿タサルモノハ之ヲ整理シ既定ノ幅員ト爲スモノトス
參考 殘存線路ニ就テハ綜合的大阪都市計畫決定公告ノ參考中ニ記載(一一四頁參照)

●大阪市區設計中改正ノ件

大阪都市計畫街路新設事業中左記ノ通り改正ノ件認可ス

第四 事業ノ實施ニ方リ設計ニ些少ノ異動ヲ生スル場合ニハ都市計畫大阪地方委員會ノ議ヲ經テ變更シタルモノヲ以テ本設計ト看做ス
右 公 告 ス

大正十一年十月十二日

內閣總理大臣 男爵 加 藤 友 三 郎

●大阪市區改正設計變更ノ件

(變更二〇四頁)

大正十三年十一月二十九日大阪都市計畫事業更正認可ノ際其ノ「第七」ニ於テ變更アリタリ

●大阪市區改正設計變更ノ件

昭和三年五月二十九日大阪都市計畫認可ニ際シ街路ノ部第四ニ於テ左記ノ通り變更セラレタリ

大正八年十二月二十三日內務省訓令第八百五十七號ニ依リ大阪市長ノ公告シタル大阪市區改正設計第五中左ノ路線ヲ削除ス

大正十三年十一月二十九日並ニ大正十五年六月十日內閣ノ認可ヲ經タル大阪都市計畫事業ニ該當スルモノ

- 一等大路第二類 二
- 一等大路第三類 三
- 同 八
- 二等大路第一類 一
- 同 四
- 同 五
- 同 七
- 同 十中蒲生町四十六番地ヨリ終點ニ至ル區間
- 同 十三

- 同 十五
- 同 十九
- 同 二十
- 二等大路第二類 二中夕風町一丁目四十一番地ノ四ヨリ石田元町一丁目五十一番地ノ一ニ至ル區間及恩貴島南之町百三十番地ヨリ終點ニ至ル區間
- 同 四番地ヨリ終點ニ至ル區間
- 同 五中西市岡二丁目二十六番地地先ヨリ終點ニ至ル區間
- 同 六

(參考) 前記變更ノ結果大阪市區改正設計トシテ殘存スルモノ左ノ如シ

- 一 全路線殘存スルモノ(路線數六線)
- 一等大路第三類ノ部
- 九 市岡町五百四十八番地ノ一(現市岡元町四丁目三番地)ヨリ北福崎西ノ町(舊北福崎町)三樋入堀新橋梁ヲ經テ出崎町一丁目八番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間
- 二等大路第二類ノ部
- 三 鷺洲町海老江(現海老江町)百六十七番地ノ一ヨリ同町八百八十三番地ノ五ニ於テ國道二號ニ接續スルノ路線
幅員 八間
- 七 一等大路第三類第十九號線終點ヨリ新千歲町四十一番地地先ニ至リ曲折シ木津川西岸平尾町五十五番地地先ニ至ルノ路線
幅員 八間
- 八 新千歲町四十一番地地先ニ於テ前號路線ヨリ分岐シ鶴町三丁目ニ至ルノ路線
幅員 八間

- 九 小林町百七十五番地地先ヨリ木津川西岸千島町二百五十六番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 八間
- 十 千島町二十五番地地先ニ於テ大阪市區改正設計二等大路第二類第二號線ヨリ分岐シ木津川ニ併行シ平尾町四十四番地地先ニ於テ大阪市區改正設計二等大路第二類第七號線ニ接續スルノ路線
幅員 八間
- 二 路線ノ一部殘存スルモノ(路線數八線)
- 一等大路第三類ノ部
- 十二 伯樂橋西詰ヨリ松島町二丁目十八番地地先ニ至ル區間
幅員 十二間
- 二等大路第一類ノ部
- 二 一等大路第三類第十七號線終點ヨリ尻無川渡船場及市岡町(現市岡元町二丁目)ヲ經テ南安治川通三丁目五十一番地ニ至ル區間
幅員 十一間
- 六 (春日出線) 北安治川通三丁目四百八十二番地地先ヨリ春日出橋ヲ經テ一等大路第三類第十八號線起點ニ至ル區間
幅員 二十米
- 幅員 十間
- 十 一等大路第三類第二十三號終點ヨリ一等大路第三類第五十三號線起點ニ至ル區間
幅員 十間
- 二等大路第二類ノ部
- 一 北安治川通一丁目八番地地先ヨリ大阪市區改正設計二等大路第一類第六號線起點ニ至ル區間
幅員 八間
- 二 今宮町水渡六百二十二番地ノ一(現西四條三丁目十一番地)ニ於テ一等大路第三類第十號線ヨリ分岐シ木津川落合上渡場、千島町、泉尾町(現大正通十丁目)尻無川甚兵衛渡場、北福崎町(現北福崎西ノ町)三樋入堀新橋梁ヲ經テ夕風町一丁目四十一番地ノ四ニ至リ國道三十七號ニ接續スル區間及石田元町一丁目五十一番地ノ一ヨリ安治川松ヶ鼻渡船場ヲ經テ一等大路第三類第七十二號線起點ニ至ル區間
幅員 八間

- 四 西梅田町三百九十五番地ヨリ中津町下三番二百三十七番地（現中津南通三丁目二十一番地）ニ於テ一等大路第三類第四號線ニ接続スル區間
幅員 八間
- 五 二等大路第一類第二十一號線終點ヨリ西市岡町二丁目二十六番地ニ至リ二等大路第一類第二十二號線ニ接続スル區間
幅員 八間

●大阪市區改正設計變更ノ件

大阪市區改正設計街路及大阪都市計畫街路ノ變更トシテ昭和十二年三月二日內閣ノ認可ヲ受ケタリ

（一八八頁參照）

七 綜合大阪都市計畫

昭和三年五月二十九日	決定	昭和九年十二月七日	變更（一八二頁）
昭和四年十二月三日	變更（二六七頁）	昭和十年三月三十日	變更（一八四頁）
昭和六年一月十三日	變更（二七二頁）	昭和十年六月二十一日	變更（一八四頁）
昭和七年一月二十九日	變更（二七五頁）	昭和十一年四月十六日	變更（一八五頁）
昭和七年十月二十八日	變更（二七七頁）	昭和十二年二月九日	變更（一八七頁）
昭和八年十二月八日	變更（二七八頁）	昭和十二年三月二日	變更（一八八頁）
昭和九年三月三十一日	變更（二七九頁）	昭和十二年三月二十七日	變更（一九〇頁）

●大阪都市計畫決定ノ件

註（路線名ノ下ニ（市）トアルハ市區改正設計路線ナリ）
 （昭和三年六月二十三日）
 （大阪市告示第二一六號ノ内）

大阪都市計畫街路、運河、下水道、公園、墓地左ノ通決定シ昭和三年五月二十九日內閣ノ認可ヲ得タリ

大阪都市計畫

街路ノ部

第一 街路ノ等級及幅員ハ左ノ標準ニ依ル

- 一 廣路 幅員 四十四米以上
- 二 一等大路ハ左ノ三類トス

第一類 幅員 三十六米以上
第二類 幅員 二十九米以上
第三類 幅員 二十二米以上

三 二等大路ハ左ノ二類トス

第一類 幅員 十八米以上

第二類 幅員 十一米以上

第二 本計畫ニ定ムルモノヲ除クノ外街路ノ築造ニ關シテハ大正八年十二月内務省令第二十五號街路構造令ノ定ムル所ニ依ル
第三 街路ノ新設及擴築竝ニ位置及幅員左ノ如シ

一等大路第二類

第二號線(今宮平野線)

(變更一六七頁)

東四條三丁目五十三番地ニ於テ一等大路第三類第十號線ヨリ分岐シ南海鐵道本線線路ヲ跨キ(緩速車道ハ平面交叉トス)東入船町ニ於テ同阪堺線線路ヲ横切リ天王寺町ニ於テ同天王寺支線線路ヲ跨キ平野泥堂町ニ至リ右折シ平野背戸口町ニ於テ南海鐵道平野線線路ヲ横切リ喜連町二千三百二十番地ニ至リ一等大路第三類第六十二號線ニ接續スルノ路線 幅員 三十米
但シ起點ヨリ東入船町一番地地先ニ至ル區間ハ幅員三十三米、阿部野橋南詰ヨリ天王寺町二千五百五十六番地ニ至ル區間ハ幅員四十米トス

一等大路第三類

第四十號線(北野豐津線)

(變更一六八頁)

豐崎西通一丁目二番地地先ニ於テ一等大路第三類第四號線ヨリ分岐シ阪神急行電鐵線線路下ヲ過ギ同四丁目ニ於テ國有鐵道大

阪驛貨物線線路下ヲ過ギ新澁川新架橋ヲ經南方町ニ於テ新京阪鐵道十三線線路ヲ横切リ西町ニ於テ國有鐵道北方貨物線線路ヲ跨ギ宮原町、三國町、十八條町及神崎川新架橋ヲ經テ豐津村大字榎阪四百七十三番地ニ至リ一等大路第三類第四十一號線ニ接續スルノ路線 幅員 二十七米

但シ豐崎西通三丁目十八番地ヨリ北川口町六百九十四番地ニ至ル區間ハ幅員三十六米、西町百七番地ヨリ南宮原町百十一番地ニ至ル區間ハ幅員三十四米トス

第四十一號線(吹田伊丹線)

吹田町字竹ヶ本三千百二十八番地ニ於テ一等大路第三類第四十五號線ヨリ分岐シ豐津村及小曾根村ヲ經中豐島村大字服部ニ於テ阪神急行電鐵寶塚線線路ヲ横切リ南豐島村大字利倉字十四、七百二番地ノ二ニ於テ一等大路第三類第四十四號線ニ接續スルノ路線 幅員 二十五米

但シ豐津村大字榎阪四百七十三番地ヨリ中豐島村大字服部三百番地ノ二ニ至ル區間ハ幅員三十米トス

第四十二號線(吹田塚口線)

吹田町字平松千九百六十番地ヨリ同町字菰澤ニ至リ新京阪鐵道千里山線線路ヲ横切リ同町字長澤ニ於テ國有鐵道城東貨物線線路ヲ過ギ同町字蓮田ニ於テ同東海道本線線路ヲ横切リ豐津村及小曾根村ヲ經庄内村大字野田ニ於テ阪神急行電鐵寶塚線線路ヲ横切リ南豐島村大字南今在家字バクヤ二十七番地ノ一地先府縣界ニ至ルノ路線 幅員 二十五米

但シ起點ヨリ吹田町字中野三千九百五十九番地ニ至ル區間ハ幅員十五米トス

第四十三號線(澁川北岸線)

南大道町千二百十一番地ヨリ西大道町及上新庄町ヲ經豐里菅原町ニ於テ國有鐵道城東貨物線線路下ヲ過ギ國次町ニ於テ新京阪鐵道線線路ヲ跨ギ山口町ヲ經南方町ニ於テ同十三線線路ヲ横切リ右折シ國有鐵道東海道本線線路下ヲ過ギ北川口町及南方町ヲ

經木川町(現十三東之町二丁目)ニ於テ阪神急行電鐵線路下ヲ過ギ塚本町ニ於テ國有鐵道東海道本線線路下ヲ過ギ野里町ヲ經
大和田町佃町錯雜地ニ於テ阪神電氣鐵道本線線路下ヲ過ギ大和田町ニ於テ同傳法線線路下ヲ過ギ神崎川新架橋及中島町ヲ經テ
布屋町二百十三番地地先海岸ニ至ルノ路線
幅員 二十五米
但シ起點ヨリ西大道町七百五十三番地ニ至ル區間ハ幅員十五米トス

第四十四號線(御幣島豊中線)

野里町七百八十一番地ニ於テ前號路線ヨリ分岐シ加島町ニ於テ國有鐵道東海道本線線路下ヲ過ギ神奈川新架橋ヲ經庄内村大字
庄本ニ於テ阪神急行電鐵神戸線線路下ヲ過ギ南豊島村大字原田字本陣山九百五十八番地ニ至ルノ路線
幅員 二十五米

第四十五號線(歌島吹田線)

三津屋町六百八十三番地ノ二(現三津屋町北通五丁目五十六番地)ニ於テ一等大路第三類第二十九號線ヨリ分岐シ阪神急行電鐵
神戸線線路下ヲ過ギ新高町ニ於テ同實塚線線路下ヲ過ギ宮原町及神崎川新架橋ヲ經吹田町字宮ノ後ニ於テ新京阪鐵道千里山線
線路下ヲ過キ同二千五百六十一番地ニ於テ一等大路第三類第三十號線ニ接續スルノ路線
幅員 二十五米

第四十六號線(宮原國次線)

宮原町六百七番地ニ於テ前號路線ヨリ分岐シ國有鐵道東海道本線線路ヲ横切り國次町四百五十二番地ニ於テ一等大路第三類第
四十三號線ニ接續スルノ路線
幅員 二十五米

第四十七號線(西野田傳法線)

茶園町六十六番地ニ於テ國道二號ヨリ分岐シ中津川及傳法川各新架橋ヲ經傳法町南一丁目ニ於テ阪神電氣鐵道傳法線線路下ヲ
過ギ秀野町及西島町ヲ經テ島船町地先理立豫定地海岸ニ至ルノ路線
幅員 二十二米
(變更一七六頁)

第四十八號線(西野田中津線)

茶園町二十八番地ニ於テ國道二號ヨリ分岐シ阪神電氣鐵道本線線路下ヲ過ギ浦江町ニ至リ國有鐵道東海道本線線路下ヲ過ギ中
津南通三丁目八十三番地ニ於テ一等大路第三類第四號線ニ接續スルノ路線
幅員 二十二米
(變更一八六頁)

第四十九號線(梅田線)

梅田町四十七番地ヨリ阪神電氣鐵道本線線路ヲ横切り同町四十六番地ニ至ルノ路線
幅員 二十二米
(變更一八九頁)

第五十號線(北野善源寺線)

一等大路第三類第四十號線起點ヨリ阪神急行電鐵線路下ヲ過ギ豊崎東通一丁目ニ於テ國有鐵道東海道本線線路下ヲ過ギ天神
橋筋六丁目及都島橋ヲ經テ澤上江町二丁目七十三番地ニ至ルノ路線
幅員 二十七米
但シ澤上江町一丁目九十八番地ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員三十米トシ天神橋筋六丁目ニ面積約三千平方米ノ廣場ヲ設ク

第五十一號線(中津赤川線)

豊崎西通三丁目十八番地ニ於テ一等大路第三類第四十號線ヨリ分岐シ豊崎東通四丁目ニ至リ國有鐵道東海道本線線路下ヲ過ギ
長柄西通二丁目ニ於テ新京阪鐵道線線路下ヲ過ギ毛馬橋ヲ經赤川町ニ於テ國有鐵道城東貨物線線路下ヲ過ギ同町五百七十七番
地ニ至ルノ路線
幅員 二十五米
(變更一八九頁)

第五十二號線(赤川柴島線)

赤川町七百四十一番地ヨリ澁川新架橋ヲ經テ柴島町三十四番地地先ニ至リ一等大路第三類第三十號線ニ接續スルノ路線
幅員 二十五米

第五十三號線(蒲生生江線)

蒲生町四十六番地(現蒲生町一丁目五十五番地)ヨリ國有鐵道中野町聯絡線線路ヲ横切り中宮町ニ於テ同城東貨物線線路下ヲ過
ギ生江町七百二十八番地ニ至ルノ路線
幅員 二十五米
(市)野江町一丁目以南

第五十四號線(新庄平野線)

(變更一六八頁)

上新庄町千二百五十二番地ニ於テ一等大路第三類第三十號線ヨリ分岐シ西大道町ニ至リ新京阪鐵道線線路ヲ跨キ(緩速車道ハ平面交叉トス)右折シ澱川新架橋ヲ經守口町大字土居ニ於テ京阪電氣鐵道線線路ヲ跨ギ(緩速車道ハ平面交叉トス)三郷村大字高瀬ニ於テ右折シ北清水町、別所町、今福町、鯉江川新架橋、寢屋川新架橋及放出町ヲ經布屋町新喜多町錯雜地ニ於テ國有鐵道片町線線路ヲ跨ギ(緩速車道ハ平面交叉トス)左專道町及深江町ヲ經今里町ニ於テ大阪電氣鐵道線線路ヲ過ギ大友町及巽村ヲ經平野泥堂町ニ於テ國有鐵道關西本線線路ヲ跨キ(緩速車道ハ平面交叉トス)同町百八十一番地ニ於テ一等大路第二類第二號線ニ接続スルノ路線
幅員 二十五米

但シ上新庄町四百九十二番地ヨリ西大道町二千七十九番地ニ至ル區間、守口町大字土居百七十五番地ヨリ同三百八十九番地ニ至ル區間、放出町三百三十六番地ヨリ左專道町八十三番地ニ至ル區間及平野泥堂町二百二十四番地ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員三十三米、今里町八百五十九番地ヨリ同町九百五番地ニ至ル區間ハ幅員二十七米トス

第五十五號線(古市清水線)

森小路町四百九十六番地ニ於テ一等大路第三類第三十四號線ヨリ分岐シ京阪電氣鐵道線線路ヲ過ギ別所町三百七十一番地(現古市大道五丁目七十八番地)ニ於テ前號路線ニ接続スルノ路線
幅員 二十五米

第五十六號線(森小路大和川線)

(市)蒲生町以南

(變更一八九頁)

前號路線起點ヨリ關目町ニ至リ京阪電氣鐵道線線路ヲ過ギ蒲生町並ニ鯉江川及寢屋川各新架橋ヲ經鳴野町ニ於テ國有鐵道片町線線路ヲ過ギ中濱町、中本町(現南中本町二丁目)及大今里町ヲ經片江町ニ於テ大阪電氣鐵道線線路ヲ過ギ猪飼野町(現猪飼野東一丁目乃至同十丁目)及生野田島町ヲ經杭全町ニ於テ國有鐵道關西本線線路ヲ横切り中野町ニ於テ南海鐵道平野線線路ヲ横切り矢田村大字住道四百六十八番地地先大和川右岸ニ至ルノ路線
幅員 二十五米

但シ鳴野町百八十五番地ノ一ヨリ同町二百十二番地ノ一ニ至ル區間及大今里町七百三十五番地ヨリ杭全町五百五番地ノ二ニ至ル區間ハ幅員三十米、矢田村大字住道九百四十一番地ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員十五米トス

第五十七號線(玉造左專道線)

(變更一七七頁)

一等大路第三類第六號終點ヨリ森之宮東之町ニ於テ國有鐵道城東線線路ヲ横切り深江町百九十八番地ニ至リ一等大路第三類第五十四號線ニ接続スルノ路線
幅員 二十五米

第五十八號線(足代線)

(變更一八六頁)

猪飼野町百五十五番地ノ二ニ於テ一等大路第三類第五十六號線ヨリ分岐シ巽村大字矢柄百八十三番地ニ至リ一等大路第三類第五十四號線ニ接続スルノ路線
幅員 二十五米

第五十九號線(天滿谷町線)

(市)

(變更一七六頁)

一等大路第三類第二十四號線起點ヨリ谷町六丁目十二番地ノ一ニ至リ一等大路第三類第十二號線ニ接続スルノ路線
幅員 二十四米

第六十號線(上本町線)

(市)

上本町二丁目二十九番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第十二號線ヨリ分岐シ上本町九丁目ニ至リ右折シ椎寺町ニ於テ左折シ逢坂上之町九番地ニ於テ一等大路第三類第十三號線ニ接続スルノ路線
幅員 二十二米

第六十一號線(平野瓜破線)

平野本町一丁目八十四番地ニ於テ一等大路第三類第三十六號線ヨリ分岐シ喜連町六十番地ニ至ルノ路線
幅員 二十五米

第六十二號線(喜連敷津線)

前號路線終點ヨリ湯里町ヲ經鷹合町ニ於テ大阪鐵道線線路ヲ横切り東長居町及西長居町ヲ經千體町ニ於テ南海鐵道高野線線路

下ヲ過ギ濱口町ニ於テ同阪堺線線路ヲ横切り同本線線路ヲ跨ギ(緩速車道ハ平面交叉トス)十三間川新架橋及南加賀屋町ヲ經テ
釜口町地先埋立地海岸ニ至ルノ路線
幅員 二十五米

但シ安立町一丁目十九番地(現二十二番地)ヨリ濱口町二百六十一番地(現濱口町二丁目二十一番地)ニ至ル區間ハ幅員三十三米
トス

第六十三號線(平野柴谷線)

(市)

自粉濱本町一丁目
至柴谷町地先埋立地

(變更一六九頁)

平野野堂町六十一番地ニ於テ一等大路第三類第六十一號線ヨリ分岐シ平野流町及中野町ヲ經砂子町ニ於テ大阪鐵道線線路下ヲ
過ギ南田邊町(現田邊本町六丁目)ヲ經住吉町ニ於テ南海鐵道高野線線路ヲ跨ギ粉濱東之町一丁目ニ於テ同本線線路ヲ跨ギ(緩
速車道ハ平面交叉トス)北加賀屋町ヲ經テ柴谷町地先埋立地ニ至リ左折シ釜口町地先埋立地ニ於テ前號路線ニ接續スルノ路線
幅員 二十五米

但シ住吉町五百五十六番地ノ十六ヨリ同町四百五十八番地ニ至ル區間ハ幅員三十米、粉濱東之町一丁目四十六番地ヨリ粉濱中
之町一丁目十七番地ニ至ル區間ハ幅員三十三米トス

第六十四號線(平野木津川線)

(市)

平野元町六丁目八十九番地地先ヨリ平野馬場町ヲ經北田邊町ニ於テ大阪鐵道及南海鐵道平野線線路ヲ横切り阿倍野町(現阿倍
野筋六丁目)ニ於テ同上町線線路ヲ横切り天王寺町(天神ノ森一丁目)ニ於テ同阪堺線線路ヲ横切り有樂町ニ於テ同本線線路ヲ
跨ギ(緩速車道ハ平面交叉トス)新開通一丁目ニ於テ同高野線線路ヲ跨ギ(緩速車道ハ平面交叉トス)津守町二百九十一番地ノ二
木津川左岸ニ至ルノ路線
幅員 二十五米

但シ起點ヨリ平野元町七丁目十九番地ニ至ル區間ハ幅員二十二米有樂町十番地ヨリ新開通二丁目十九番地ニ至ル區間ハ幅員三
十三米トス

第六十五號線(大運橋通線)

(市)

南恩加島町四百五十番地ヨリ同町十八番地ニ至ルノ路線

幅員 二十二米

第六十六號線(阿部野木津川線)

(變更一六九頁)

天王寺町千五十七番地ノ二ニ於テ一等大路第三類第二十一號線ヨリ分岐シ西今船町ニ於テ南海鐵道阪堺線線路下ヲ過ギ三日路
町ニ於テ同天王寺支線及同本線線路ヲ跨ギ(緩速車道ハ平面交叉トス)梅通九丁目ニ於テ同高野線線路ヲ横切り津守町八百七十
番地木津川左岸ニ至ルノ路線
幅員 二十五米

但シ西今船町三番地ヨリ花園町三十八番地ニ至ル區間ハ幅員三十三米、津守町四百十九番地ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員十五米
トス

第六十七號線(桑津矢田線)

林寺町三十一番地(現林寺新家町三十二番地ノ二)ヨリ桑津町ニ至リ國有鐵道關西本線及大阪鐵道線線路ヲ横切り北田邊町ニ於
テ南海鐵道平野線線路ヲ横切り鷹合町七百二十二番地ニ於テ一等大路第三類第六十二號線ニ接續スルノ路線
幅員 二十五米

第六十八號線(天王寺吾彦線)

(變更一六九頁)

天王寺町二千五百五十六番地ニ於テ一等大路第二類第二號線ヨリ分岐シ大阪鐵道及南海鐵道平野線線路ヲ横切り阿倍野町、南
田邊町、東長居町及我孫子町ヲ經テ淺香町五番地ニ至ルノ路線
幅員 二十七米
但シ我孫子町四百三十一番地ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員十五米トス

第六十九號線(今池帝塚山線)

一等大路第三類第八號線終點ヨリ住吉町五百五十六番地ノ十六(現帝塚山中一丁目八十一番地)ニ至リ一等大路第三類第六十三

號線ニ接続スルノ路線

但シ住吉町七百十三番地(現北畠西一丁目二十一番地)ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員三十米トス

幅員 二十二米

第七十號線(難波河原町線)

(市) 河原町以東

(變更一七〇頁)

廣路第一號線終點ヨリ日本橋筋三丁目十二番地ノ一ニ至ルノ路線

幅員 二十二米

第七十一號線(難波泉尾線)

(變更一七七頁)

元町三丁目百九十一番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第十號線ヨリ分岐シ東神田町ニ於テ二等大路第二類第六十七號線及國有鐵道關西本線線路ヲ跨ギ(緩速車道ハ平面交叉トス)立葉町ニ於テ南海鐵道高野線及國有鐵道臨港線線路下ヲ過ギ木津川新架橋ヲ經テ大正通四丁目三十一番地ニ至ルノ路線

幅員 二十二米

但シ元町三丁目百四十二番地ノ一ヨリ稻荷町三丁目八百九十二番地ニ至ル區間ハ幅員三十米、立葉町千三百一十番地ノ一ヨリ同町千二百九十一番地ノ一ニ至ル區間ハ幅員二十五米トス

第七十二號線(恩貴島尼崎線)

(市) 西島町以南

恩貴島南之町百三十四番地ヨリ島屋町、正蓮寺川新架橋、新澁川新架橋、西島町及神崎川新架橋ヲ經テ中島町五百十六番地地

先府縣界ニ至ルノ路線

幅員 二十五米

第七十三號線(大阪伊丹線)

(變更一八五頁)

一等大路第三類第二十九號線終點ヨリ府縣界ニ至ルノ路線

幅員 二十五米

第七十四號線(傳法尼崎線)

一等大路第三類三十三號線終點ヨリ府縣界ニ至ルノ路線

幅員 二十二米

二等大路第一類

第二十二號線(東田中町線)

(市)

夕風町一丁目四十一番地ノ四ニ於テ國道三十七號ヨリ分岐シ石田元町一丁目五十一番地ノ一ニ至ルノ路線

幅員 十八米

二等大路第二類

第二十號線(木津川驛前線)

津守町六百二番地ノ三ヨリ同町六百六十九番地ノ一ニ至ルノ路線

幅員 十五米

第二十一號線(千船川北線)

大野町三百三番地ニ於テ一等大路第三類第三十三號線ヨリ分岐シ西島町ヲ經テ矢倉町二百十九番地ノ一地先海岸ニ至ルノ路線

幅員 十五米

第二十二號線(福町十三線)

福町地内佃町飛地千三百三十二番地ニ於テ一等大路第三類第三十三號線ヨリ分岐シ阪神電氣鐵道傳法線線路ヲ横切り姫島町ニ於テ同本線線路ヲ横切り塚本町ニ於テ國有鐵道東海道本線線路下ヲ過ギ十三南之町ニ於テ左折シ今里町七十六番地(現元今里北通一丁目四十八番地)ニ至リ一等大路第三類第二十九號線ニ接続スルノ路線

幅員 十五米

第二十三號線(佃線)

佃町百二十一番地ニ於テ國道二號ヨリ分岐シ阪神電氣鐵道本線及同傳法線線路ヲ横切り同町七百二十七番地地先府縣界ニ至ル

幅員 十五米

ノ路線

第二十四號線(宮原加島線)

(變更一八一頁)

西町三百三十二番地ヨリ國有鐵道北方貨物線北側ニ沿ヒ東雲町ニ至リ阪神急行電鐵寶塚線線路下ヲ過ギ堀上町ニ於テ同神戸線線路下ヲ過ギ三津屋町ニ於テ右折シ加島町二百七十六番地ニ至リ一等大路第三類第四十四號線ニ接続スルノ路線

第二十五號線(新庄庄内線)

上新庄町千二百五十二番地ニ於テ一等大路第三類第三十號線ヨリ分岐シ下新庄町ニ於テ新京阪鐵道千里山線線路ヲ横切り國有鐵道城東貨物線線路下ヲ過ギ國次町ニ於テ國有鐵道東海道本線線路下ヲ過ギ三國町及神崎川新架橋ヲ經庄内村大字牛立ニ於テ阪神急行電鐵寶塚線線路ヲ横切り同村大字庄本ニ於テ同神戸線線路下ヲ過ギ同八十六番地地先府縣界ニ至ルノ路線

幅員 十五米

但シ庄内村大字牛立百三十一番地ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員十八米トス

第二十六號線(柴島線)

長柄橋北詰ニ於テ一等大路第三類第三十號線ヨリ分岐シ新澁川堤防ニ沿ヒ南方町ニ至リ右折シ同町四百六十一番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第四十三號線ニ接續スルノ路線

幅員 十五米

第二十七號線(江口線)

西大道町七百五十三番地ニ於テ一等大路第三類第四十三號線ヨリ分岐シ神崎川新架橋ヲ經テ南大道町飛地二千三百七十二番地ニ至ルノ路線

幅員 十五米

第二十八號線(四貫島島屋町線)

四貫島大通二丁目十五番地ヨリ四貫島元宮町ヲ經テ恩貴島南之町二百十六番地ニ至リ一等大路第三類第七十二號線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

第二十九號線(傳法櫻島線)

姫島町八百四十六番地ノ二(現高見町二丁目百二十六番地)ニ於テ二等大路第二類第三十號線ヨリ分岐シ千鳥橋ヲ經四貫島白島

町ニ於テ右折シ國有鐵道西成線北側ニ沿ヒ同線安治川驛前ヲ經テ島屋町三百六十三番地ノ四地先ニ至ルノ路線

幅員 十一米

第三十號線(梅田傳法線)

北梅田町十七番地ニ於テ大阪市區改正設計二等大路第二類第四號線ヨリ分岐シ浦江町(現浦江北一丁目)ニ於テ國有鐵道東海道本線線路下ヲ過ギ海老江町(現海老江下二丁目)ニ於テ阪神電氣鐵道本線線路ヲ横切り中津川新架橋ヲ經傳法町北四丁目ニ於テ阪神電氣鐵道傳法線線路下ヲ過ギ姫島町千二百九十九番地ノ一(現傳法町北四丁目百五十七番地)ニ於テ一等大路第三類第十八號線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

第三十一號線(野田西九條線)

(變更一七七頁)

吉野町一丁目三番地ヨリ同町三丁目ニ至リ左折シ綠橋及逆川橋ヲ經朝日橋通二丁目ニ於テ左折シ國有鐵道西成線線路ヲ横切り北安治川通一丁目三十一番地ニ於テ大阪市區改正設計二等大路第二類第一號線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

第三十二號線(安治川海老江線)

安井町二十五番地ニ於テ二等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ今開町二丁目ニ於テ國有鐵道西成線線路ヲ横切り大開橋ヲ經大開町二丁目ニ於テ阪神電氣鐵道本線線路ヲ横切り海老江町九百九十四番地九百九十五番地合地(現海老江下二丁目二二番地)ニ於テ二等大路第二類第三十號線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

第三十三號線(大野町線)

對込町十六番地ニ於テ二等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ兼平町二番地ニ至リ前號路線ニ接續スルノ路線

幅員 十五米

第三十四號線(野田驛前線)

大野町二丁目九十四番地ニ於テ二等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ玉川町四丁目八十七番地ニ至ルノ路線

幅員 十一米

第三十五號線(福島浦江線)

下福島二丁目百十九番地ニ於テ二等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ平松町ニ於テ國有鐵道西成線線路ヲ横切り阪神電氣鐵道本線線路下ヲ過ギ浦江町(現浦江上一丁目)ニ於テ國有鐵道東海道本線線路下ヲ過ギ浦江町百七十八番地ノ四(現浦江北三丁目八十五番地)ニ於テ一等大路第三類第四十八號線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

第三十六號線(中津線)

中津南通三丁目二十一番地ニ於テ一等大路第三類第四號線ヨリ分岐シ阪神急行電鐵線線路下ヲ過ギ豊崎西通四丁目二十番地ニ於テ一等大路第三類第四十號線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

第三十七號線(本庄線)

中崎町三十番地ヨリ本庄中通三丁目九番地ニ至リ一等大路第三類第五十一號線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

第三十八號線(北野天滿線)

芝田町五十六番地ニ於テ一等大路第三類第四號線ヨリ分岐シ阪神急行電鐵線線路下ヲ過ギ鶴野町ニ於テ國有鐵道東海道本線線路下ヲ過ギ中崎町百二十六番地ヲ經浪花町ニ於テ一等大路第三類第十四號線下ヲ過ギ天滿橋筋六丁目ニ於テ右折シ樋之口橋ヲ經天滿橋筋四丁目ニ於テ國有鐵道城東線線路下ヲ過ギ同七十三番地ニ於テ一等大路第三類第十六號線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

但シ起點ヨリ芝田町十四番地地先ニ至ル區間ハ幅員十八米トス

第三十九號線(天滿長柄線)

天滿橋筋六丁目五十九番地ニ於テ前號路線ヨリ分岐シ長柄東通三丁目十番地ニ至リ一等大路第三類第五十一號線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

第四十號線(天滿友淵線)

(變更一七〇頁)

天滿橋筋四丁目七十二番地ニ於テ一等大路第三類第十六號線ヨリ分岐シ澁川新架橋ヲ經中野町二丁目ニ於テ左折シ國有鐵道城東線線路ヲ横切り澤上江町一丁目及友淵町ヲ經テ毛馬町八百五十三番地ノ一ニ至ルノ路線

幅員 十一米

第四十一號線(櫻之宮線)

(變更一七〇頁)

東野田町二丁目二十一番地ヨリ中野町二丁目二百三十八番地ノ一ニ至リ前號路線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

第四十二號線(赤川森小路線)

赤川町七百四十番地ノ二ヨリ森小路町二百八十一番地(現森小路町五丁目三十六番地)ニ至リ一等大路第三類第三十四號線ニ接續スルノ路線

幅員 十五米

第四十三號線(東野田野江線)

東野田町七丁目百十九番地ニ於テ一等大路第三類第二十四號線ヨリ分岐シ國有鐵道中野町聯絡線線路ヲ横切り善源寺町九丁目(現都島中通六丁目)ヲ經テ一等大路第三類第二十二號線終點ニ至ルノ路線

幅員 十一米

第四十四號線(寢屋川北岸線)

(變更一七七頁)

相生町百十四番地ヨリ寢屋川北岸ニ沿ヒ新喜多町ニ至リ國有鐵道城東線及片町線線路下ヲ過ギ蒲生町五百八番地ノ二ニ於テ一等大路第三類第五十六號線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

第四十五號線(鳴野德庵線)

鳴野町百八十五番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第五十六號線ヨリ分岐シ放出町ヲ經テ今津町千五百十三番地地先國有鐵道片町線德庵驛前ニ至ルノ路線

幅員 十五米

第四十六號線(眞田山今里線)

木野町十番地ヨリ國有鐵道城東線線路ヲ横切り入船橋ヲ經テ大今里町五百九十三番地ニ至リ一等大路第三類第十二號線ニ接續スルノ路線
幅員 十三米

第四十七號線(中道桑津線) (變更一八九頁)

森町百十番地ニ於テ一等大路第三類第五十七號線ヨリ分岐シ猪飼野町ニ於テ大阪電氣軌道線線路下ヲ過ギ鶴橋木野町及生野國分町ヲ經テ林寺町百六十七番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 十一米

第四十八號線(森之宮小橋線)

紀伊國町九百二番地ノ一ニ於テ二等大路第二類第十二號線ヨリ分岐シ空堀通二丁目及餌差町ヲ經テ味原町九十九番地ノ三十六ニ至リ二等大路第二類第五十二號線ニ接續スルノ路線
幅員 十一米

第四十九號線(南北桃山線)

東高津北之町三十五番地ニ於テ二等大路第二類第五十二號線ヨリ分岐シ小橋西之町ニ於テ大阪電氣軌道線線路ヲ横切り北山町五十九番地ニ於テ二等大路第二類第五十四號線ニ接續スルノ路線
幅員 十一米

第五十號線(谷町筋線)

谷町六丁目三番地ニ於テ一等大路第三類第十二號線ヨリ分岐シ六萬體町三十二番地ニ至リ一等大路第三類第六十號線ニ接續スルノ路線
幅員 十一米

第五十一號線(毘沙門池大道線)

眞法院町八十八番地ニ於テ二等大路第二類第五十四號線ヨリ分岐シ大道三丁目四十七番地ニ至リ一等大路第三類第十三號線ニ接續スルノ路線
幅員 十一米

第五十二號線(東西高津線)

瓦屋町四番丁二十八番地ニ於テ一等大路第三類第二號線ヨリ分岐シ小橋元町九十一番地ニ至ルノ路線
幅員 十一米

第五十三號線(生玉猪飼野線)

生玉前町三十番地ニ於テ二等大路第二類第五十號線ヨリ分岐シ上本町七丁目九十番地ニ至リ一等大路第三類第六十號線ニ接續シ更ニ同二十一番地ニ於テ同線ヨリ分岐シ堂ヶ芝町ニ於テ國有鐵道城東線線路ヲ横切り新平野川新架橋ヲ經テ猪飼野町千百六番地(現猪飼野東二丁目三十四番地)ニ至リ一等大路第三類第五十六號線ニ接續スルノ路線
幅員 十一米

第五十四號線(夕陽丘猪飼野線) (變更一七七頁)

下寺町二丁目十五番地地先ニ於テ一等大路第三類第二號線ヨリ分岐シ夕陽丘町ヲ經上本町八丁目十六番地ニ於テ一等大路第三類第六十號線ニ接續シ更ニ同町九丁目四番地ニ於テ同線ヨリ分岐シ烏ヶ辻町ニ於テ國有鐵道城東線線路ヲ横切り新平野川新架橋ヲ經テ猪飼野町七百三十一番地(現猪飼野東五丁目二十番地)ニ至リ一等大路第三類第五十六號線ニ接續スルノ路線
幅員 十一米

第五十五號線(河堀口舍利寺線)

生野國分町百八十七番地ノ一(現南生野町一丁目四十六番地)ヨリ生野田島町十五番地ニ至リ一等大路第三類第五十六號線ニ接續スルノ路線
幅員 十一米

第五十六號線(生野線)

二等大路第二類第四十七號線終點ヨリ生野田島町ヲ經テ巽村大字大地(現四條)七百九十四番地ニ至リ一等大路第三類第五十四號線ニ接續スルノ路線
幅員 十五米

第五十七號線(阿部野杭全線)

天王寺町二千六十三番地ノ二(現阿倍野筋三丁目五十七番地)ニ於テ二等大路第三類第二十一號線ヨリ分岐シ桑津町ニ於テ大阪

鐵道線路ヲ横切り杭全町四百八十九番地ニ於テ一等大路第二類第二號線ニ接続スルノ路線

幅員 十五米

第五十八號線(瓜破線)

瓜破村大字西瓜破三十九番地ニ於テ一等大路第三類第六十二號線ヨリ分岐シ同村大字東瓜破二百五十二番地地先高野大橋北詰ニ至ルノ路線
幅員 十五米

第五十九號線(大和川北岸線)

矢田村大字富田八十八番地ノ一地先下高野橋北詰ヨリ苅田町ヲ經遠里小野町ニ於テ南海鐵道高野線線路ヲ横切り住之江町(現西住之江町四丁目)ニ於テ同阪堺線線路ヲ横切り同本線線路下ヲ過ギ南加賀屋町七十五番地ニ至ルノ路線
幅員 十五米

第六十號線(北畠淺香山線)

(變更一七六頁)

住吉町千二百八十九番地ノニニ於テ一等大路第三類第三十二號線ヨリ分岐シ上住吉町、千體町、殿辻町及山之内町ヲ經テ杉本町三百三番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 十五米

第六十一號線(安立線)

長峽町四十七番地ノ一ヨリ安立町一丁目十六番地(現八番地)ニ至リ一等大路第三類第六十二號線ニ接続スルノ路線

幅員 十五米

第六十二號線(天下茶屋線)

天王寺町五百八十二番地ノ三(現天神ノ森二丁目二百一十一番地)ニ於テ一等大路第三類第六十九號線ヨリ分岐シ南海鐵道阪堺線線路ヲ横切り南海通二丁目ニ於テ同高野線線路下ヲ過ギ玉出本通一丁目二番地ニ至ルノ路線
幅員 十五米

第六十三號線(今宮玉出線)

出城通五丁目十二番地ニ於テ大阪市區改正設計二等大路第二類第二號線ヨリ分岐シ潮路通一丁目二十四番地ニ至リ一等大路第

三類第六十四號線ニ接続スルノ路線

幅員 十一米

第六十四號線(長堀逢坂線)

末吉橋通一丁目九番地ノ一地先ニ於テ一等大路第三類第十二號線ヨリ分岐シ長堀川新架橋、高津橋、御藏跡町及高津入堀川新架橋ヲ經テ南日東町百十四番地ニ至リ一等大路第三類第十三號線ニ接続スルノ路線
幅員 十一米

但シ高津町二番丁ニ面積約三百平方米ノ廣場ヲ設ク

第六十五號線(難波霞町線)

河原町一丁目千五百三十五番地ノ一ヨリ西關谷町二丁目及夕日橋ヲ經水崎町ニ於テ國有鐵道關西本線線路下ヲ過ギ東入船町四十四番地ニ於テ一等大路第二類第二號線ニ接続スルノ路線
幅員 十三米

但シ西關谷町二丁目ニ面積約二百五十平方米ノ廣場ヲ設ク

第六十六號線(難波下寺町線)

(變更一七〇頁)

蘆原町千八百八十二番地ノ四ヨリ東神田町ニ至リ國有鐵道關西本線線路ヲ横切り難波入堀川新架橋ヲ經西關谷町二丁目ニ於テ南海鐵道本線線路ヲ横切り高津入堀川新架橋ヲ經テ下寺町三丁目十二番地ニ至リ一等大路第三類第二號線ニ接続スルノ路線
幅員 十一米

第六十七號線(湊町今宮線)

(變更一七一頁)

元町一丁目七百三十六番地ニ於テ一等大路第三類第一號線ヨリ分岐シ東神田町ニ於テ一等大路第三類第七十一號線下ヲ過ギ勘助橋及國有鐵道關西本線今宮驛前ヲ經鴨町四丁目ニ於テ右折シ國有鐵道關西本線線路ヲ横切り出城通一丁目九番地ニ於テ大阪市區改正設計二等大路第二類第二號線ニ接続スルノ路線
幅員 十一米

第六十八號線(西濱茶町線)

榮町一丁目三十八番地地先ヨリ西濱北通一丁目ニ至リ國有鐵道臨港線路下ヲ過ギ西濱南通一丁目三十三番地ニ於テ二等大路
第二類第六十九號線ニ接続スルノ路線
幅員 十三米

第六十九號線(木津西濱線)

大國町三丁目十七番地ヨリ榮町二丁目ニ至リ國有鐵道關西本線及同臨港線路ヲ横切り西濱南通三丁目ニ於テ左折シ榮町五丁
目二十番地(現二十番地及二十一番地)ニ至ルノ路線
幅員 十一米

第七十號線(岩崎橋筋線)

大正通一丁目九十五番地ヨリ國有鐵道臨港線北側ニ沿ヒ同四十二番地ニ至ルノ路線
幅員 十一米

第七十一號線(三軒家千島線)

大正通一丁目十六番地ヨリ三軒家東一丁目ニ至リ國有鐵道臨港線路下ヲ過ギ南泉尾町三丁目ニ於テ右折シ同五十一番地ニ至
リ大阪市區改正設計二等大路第二類第二號線ニ接続スルノ路線
幅員 十一米

第七十二號線(泉尾恩加島線)

北泉尾町二丁目百十七番地ニ於テ一等大路第三類第十七號線ヨリ分岐シ泉尾松ノ町二丁目、泉尾北村町二丁目、小林町及新千
歲町ヲ經テ南恩加島町三十三番地合地ニ至ルノ路線
幅員 十一米

第七十三號線(永樂橋線)

南泉尾町二丁目六十番地ニ於テ二等大路第二類第七十一號線ヨリ分岐シ泉尾濱通三丁目二十七番地ニ至ルノ路線
幅員 十一米

第七十四號線(平尾恩加島線)

平尾町四十五番地ニ於テ大阪市區改正設計二等大路第二類第七號線ヨリ分岐シ南恩加島町四百八十一番地ニ至リ一等大路第三
類第六十五號線ニ接続スルノ路線
幅員 十五米

第七十五號線(江戸堀福島線)

土佐堀通五丁目十七番地ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ土佐堀川及堂島川新架橋ヲ經テ下福島二丁目五十一番地地
先ニ至リ二等大路第二類第一號線ニ接続スルノ路線
幅員 十三米

第七十六號線(立賣堀富島線)

立賣堀北通六丁目十九番地ニ於テ二等大路第二類第十八號線ヨリ分岐シ江島橋及古川橋ヲ經富島町ニ於テ左折シ國津橋ヲ經テ
南安治川通一丁目一番地ノ二地先ニ至ルノ路線
幅員 十一米

第七十七號線(九條北通線)

九條北通一丁目二番地ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ九條北通三丁目四百九十六番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 十一米

但シ本田町通二丁目及九條北通二丁目ニ面積約三百平方米ノ廣場ヲ設ケ

第七十八號線(九條中通線)

九條中通一丁目百四番地ノ二ニ於テ國道三十七號ヨリ分岐シ九條中通四丁目三百九十二番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 十一米

第七十九號線(境川市岡線)

北境川町二丁目三十七番地ヨリ境川運河新架橋南境川町二丁目及魁町一丁目ヲ經テ西市岡町一丁目四番地ニ至リ國道三十七號
ニ接続スルノ路線
幅員 十一米

第八十號線(安治川市岡線)

(變更一七八頁)

南安治川通二丁目三十八番地ヨリ九條通四丁目ニ至リ右折シ北境川町三丁目及境川運河新架橋ヲ經テ石田布屋町一丁目九十二番地ノ一ニ至リ二等大路第一類第二十二號線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

第八十一號線(曾根長興寺線)

中豊島村大字曾根百九十六番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第二十八號線ヨリ分岐シ同村大字長興寺五百五番地ノ二ニ至ルノ路線

幅員 十一米

第八十二號線(千里小曾根線)

(變更一八五頁)

一等大路第三類第三十號線終點ヨリ千里村大字片山ヲ經同村大字佐井寺ニ於テ新京阪鐵道千里山線線路ヲ横切り小曾根村大字寺内二千四百七番地ニ至ルノ路線

幅員 十一米

但シ起點ヨリ千里村大字片山二千三百七十番地地先ニ至ル區間ハ幅員十五米トス

第八十三號線(垂水千里山線)

豊津村大字垂水九百番地ニ於テ一等大路第三類第四十一號線ヨリ分岐シ新京鐵道千里山線線路ヲ横切り千里村大字佐井寺三百二十二番地ニ於テ前號路線ニ接續スルノ路線

幅員 十一米

(註) 其ノ後本計畫ニ對シ追加又ハ削除シタル路線左ノ如シ

一等大路第三類

二等大路第二類

一等小路

第十二號線(長 堀 線)一七五頁參照

第十五號線(中橋筋線)一八七頁參照

第一號線(曾根崎中二丁目南北線)一八〇頁參照

第十四號線(天神橋筋線)一七五頁參照

第十六號線(玉江橋筋線)一八七頁參照

第二號線(曾根崎上四丁目南北線)一八〇頁參照

追加 第二十五號線(猪飼野線)一七五頁參照

第十七號線(富田屋橋筋線)一八七頁參照

第三十九號線(梅田驛前線)一八〇頁參照
第七十五號線(船津橋筋線)一八六頁參照
第七十六號線(阪神國道線)一八六頁參照

第八十四號線(梅田驛前線)一八〇頁參照
第八十五號線(東筋線)一八〇頁參照
第八十六號線(曾根崎中二丁目東西線)一八〇頁參照
第八十七號線(北消防署横線)一八〇頁參照
第八十八號線(露天神西門通線)一八〇頁參照

削除 第三十九號線(角田町線)二四四頁參照

第二十四號線(宮原加島線)一八一頁參照

第四 大正八年十二月二十三日内務省訓令第八百五十七號ニ依リ大阪市長ノ公告シタル大阪市區改正設計第五中左ノ路線ヲ削除ス

大正十三年十一月二十九日並ニ大正十五年六月十日内閣ノ認可ヲ經タル大阪都市計畫事業ニ該當スルモノ

一等大路第二類 二

一等大路第三類 三

同 八

二等大路第一類 一

同 四

同 五

同 七

同 十中浦生町四十六番地ヨリ終點ニ至ル區間

同 十三

- 同 十五
- 同 十九
- 同 二十
- 二等大路第二類
 - 二中夕風町一丁目四十一番地ノ四ヨリ石田元町一丁目五十一番地ノ一ニ至ル區間及恩貴島南之町百三十四番地ヨリ終點ニ至ル區間
 - 五中西市岡二丁目二十六番地地先ヨリ終點ニ至ル區間
- 同 六

參考 前記變更ノ結果大阪市區改正設計トシテ殘存スルモノ左ノ如シ

一 全路線殘存スルモノ(路線數六線)

一等大路第三類ノ部

- 九 市岡町五百四十八番地ノ一(現市岡元町四丁目三番地)ヨリ北福崎町(北福崎西ノ町)三種入堀新橋梁ヲ經テ出崎町一丁目八番地地先ニ至ルノ路線 幅員 十二間

二等大路第二類ノ部

- 三 鷺洲町海老江(現海老江町)百六十七番地ノ一ヨリ同町八百八十三番地ノ五ニ於テ國道二號ニ接續スルノ路線 幅員 八間
- 七 一等大路第三類第十九號線終點ヨリ新千歲町四十一番地地先ニ至リ曲折シ木津川西岸平尾町五十五番地地先ニ至ルノ路線 幅員 八間

- 八 新千歲町四十一番地地先ニ於テ前號路線ヨリ分岐シ鶴町三丁目ニ至ルノ路線 幅員 八間
- 九 小林町百七十五番地地先ヨリ木津川西岸千島町二百五十六番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 八間
- 十 千島町二十五番地地先ニ於テ大阪市區改正設計二等大路第二類第二號線ヨリ分岐シ木津川ニ併行シ平尾町四十四番地地先ニ於テ大阪市區改正設計二等大路第二類第七號線ニ接續スルノ路線 幅員 八間
- 二 路線ノ一部殘存スルモノ(路線數八線)
 - 一等大路第三類ノ部
 - 一二 伯樂橋西詰ヨリ松島町二丁目十八番地地先ニ至ル區間 幅員 十二間
 - 二等大路第一類ノ部
 - 二 一等大路第三類第十七號線終點ヨリ尻無川渡船場及市岡町(現市岡元町二丁目)ヲ經テ南安治川通三丁目五十一番地ニ至ル區間 幅員 十一間
- 六 北安治川通三丁目四百八十二番地地先ヨリ春日出橋ヲ經テ一等大路第三類第十八號線起點ニ至ル區間 幅員 十間
- 十 一等大路第三類第二十三號線終點ヨリ一等大路第三類第五十三號線起點ニ至ル區間 幅員 十間
- 二等大路第二類ノ部
 - 一 北安治川通一丁目八番地地先ヨリ大阪市區改正設計二等大路第一類第六號線起點ニ至ル區間 幅員 八間
 - 二 今宮町水渡六百二十二番地ノ一(現西四條三丁目十一番地)ニ於テ一等大路第三類第十號線ヨリ分岐シ木津川落合上渡船場、千島町、泉尾町(現大正通十丁目)尻無川甚兵衛渡船場福崎町(現北福崎西ノ町)三種入堀新橋梁ヲ經テ夕風町一丁目四十一番地ノ四ニ至リ國道三十七號ニ接續スル區間及石田元町一丁目五十一番地ノ一ヨリ安治川松ヶ鼻渡船場ヲ經テ一等大路第三類第七十二號線起點ニ至ル區間 幅員 八間

四 西梅田町三百九十五番地ヨリ中津町下三番二百三十七番地(現中津南通三丁目二十一番地)ニ於テ一等大路第三類第四號線ニ
 接續スル區間 幅員 八間

五 二等大路第一類第二十一號線終點(現二等大路第二類第五號線)ヨリ西市岡町二丁目二十六番地ニ至リ二等大路第一類第二十
 二號線ニ接續スル區間 幅員 八間

運河ノ部

第一 運河ノ等級及幅員ハ左ノ標準ニ依ル

- 一等 幅員五十五米以上
- 二等 幅員四十七米以上
- 三等 幅員四十米以上
- 四等 幅員三十三米以上
- 五等 幅員二十五米以上
- 六等 幅員十八米以上

第二 運河ノ底高ハ特別ノ場合ヲ除クノ外最低水位以下二米トス

第三 運河ニ架スル橋梁ノ桁下高及有效徑間ハ特別ノ場合ヲ除クノ外左ノ標準ニ依ル

- 一 高 計畫高水位ヨリ三米以上
- 一 主徑間 八米以上

第四 運河ノ新設及擴築竝ニ位置及幅員左ノ如シ

二等

第一(阪北運河)

國次町千二百五十二番地ノ三地先神崎川ヨリ三國町、宮原町、南宮原町、西町、東雲町、堀上町及三津屋町(現野中北通、堀
 上元町三津屋中通)ヲ經テ加島町千四百三十七番地地先神崎川ニ至ル 幅員 四十七米

第二(寢屋川運河)

新喜多町二百五十三番地地先ヨリ寢屋川ヲ相生町百四十一番地地先ニ至ル 幅員 三十六米乃至四十七米

第三(川北運河)

佃町七百二十七番地地先左門殿川ヨリ同町及中島町ヲ經テ神崎川派川ヲ百島町百九十二番地地先新澁川ニ至ル 幅員 四十七米
 但シ終點附近ニ面積約七千平方米ノ船溜ヲ設ク

第四(敷津運河)

北加賀屋町三百三番地地先木津川ヨリ釜口町ヲ經テ北島町百六十二番地地先大和川ニ至ル 幅員 四十七米
 (變更一八七頁)

第五(津守運河)

津守町二百十一番地地先ニ於テ運河六等第四ヨリ分岐シ北加賀屋町二百九十三番地地先木津川ニ至ル 幅員 四十七米

三等

第一(城北運河)

友淵町自二百八十八番地合地地先澁川ヨリ赤川町、生江町、中宮町、江野町、南島町、森小路町(現森小路町、新森小路南二
 丁目)及今福町ヲ經テ放出町千百三十四番地ノ一地先寢屋川ニ至ル 幅員 四十米
 但シ森小路町及千林町今市町錯雜地ニ面積約一萬三千平方米ノ船溜ヲ設ク

第二(北港運河)

一四四

島船町地先新澁川ヨリ正蓮寺川ヲ横切り川岸町三丁目五番地地先安治川ニ至ル
但シ起點ヨリ正蓮寺川ニ至ル區間ハ幅員六十米トス

幅員 四十五米

第三(住吉運河)

濱口町三百九十二番地ノ一地先ヨリ住吉浦ヲ埋立地地先海ニ至ル

幅員 四十米乃至七十五米

五等

第一(北島運河)

長橋通九丁目七番地ニ於テ運河六等第四ヨリ分岐シ津守町七百八十一番地地先木津川ニ至ル

幅員 二十五米

六等

第一(城東運河)

杭全町三百十三番地ノ三ヨリ今林町ニ至リ左折シ巽村、中川町、片江町、大今里町、東今里町永田町及天王田町ヲ經テ放出町
六百三十番地地先寢屋川ニ至ル

幅員 十八米乃至二十五米

第二(中本運河)

永田町百八十五番地ノ一ニ於テ運河六等第一ヨリ分岐シ中本町ヲ經テ中濱町三百七十五番地(現中濱町一丁目四十三番地)ニ至
リ運河六等第三ニ接続ス

幅員 十八米

第三(平野川運河)

中道町七百十一番地地先(現南中道町三丁目百三十一番地地先)新平野川終點ヨリ平野川ヲ中濱町七百七十三番地(現北中濱町
一丁目十七番地)ニ至ル

幅員 十八米乃至二十五米

第四(十三間川運河)

西濱北通三丁目三十九番地地先ヨリ十三間川ヲ運河三等第三起點ニ至ル

幅員 十八米乃至二十五米

第五(堂島運河)

堂島濱通二丁目二十三番地地先堂島川ヨリ西梅田町三十七番地地先大阪驛構内船溜ニ至ル

幅員 二十二米

第六(木場川運河)

北安治川通一丁目三番地地先安治川ヨリ木場川ヲ新家町一丁目ニ至リ更ニ同町二丁目五十九番地地先六軒家川ニ至ル

幅員 二十二米乃至三十五米

下水道ノ部

第一 下水排除區域ハ大阪市區域内トス但シ地勢ノ關係ニ依リ隣接町村ノ一部ノ下水ニシテ市内ニ流入スルモノハ之ヲ收容スル計畫
トス

第二 下水排除量ニ付テハ雨量ヲ一時間最大降雨量六十耗トシ汚水量ヲ一人一日當リ〇・二立方米(七立方尺)トシ將來人口約五百
萬人ニ對スル下水ヲ排除スルモノトス

第三 下水排除方法ハ主トシテ合流法ニ依リ雨水及汚水ヲ同一管渠ニ導キ收容排除ス但シ地勢ニ應シ之ヲ格別ノ管渠ニ依リ排除スル
分流法ヲ併用スルコトアルヘシ

第四 下水處分ニ付テハ汚水ハ凡テ之ヲ處理場ニ導キ處理シタル後河海ニ排出ス但シ合流法ニ依ル地域ニ於ケル下水ハ雨水カ晴天時
汚水量ノ三倍ニ達スル迄ハ之ヲ處理シ殘餘ハ直ニ河海ニ排流セシムルモノトス

第五 水管渠ノ構造ハ總テ暗渠式トシ排水量ノ多少ニ應シ陶管、鐵筋混凝土管竝ニ鐵筋混凝土暗渠ノ三種ヲ併用ス
第六 下水排除區域ヲ中部、南部、北部、淀川北部及東部ノ五處理區ニ分ツ

一四五

第七 各處理區ノ區域排水面積並ニ處理場抽水所及下水道幹線ノ大要左ノ如シ

註 (下記ノ通り個々ノ變更アリタルモ、昭和十二年三月「第七」全體ノ變更ヲ見タリ一九〇頁參照)

中部處理區

一 區域 西區、港區、浪速區ノ全部、北區、東區、天王寺區、南ノ一部

(別紙大阪都市計畫圖第二號表示ノ通圖面省略)

二 排水面積約二千九百五十ヘクタール

三 處理場、抽水所及下水道幹線ノ名稱位置等左ノ如シ

(變更一七二頁)

イ 津守處理場

位置 津守町地内

面積 約五萬九千五百平方米

主要設備 沈澱池、唧筒場、放流溝、淨化裝置等

(變更一八四頁)

ロ 市岡抽水所

位置 尻無川北通五丁目地内

面積 約六千九百九十平方米

(既設抽水所面積約五千七百六十平方米)

ハ 小林抽水所

位置 小林町地内

面積 約五千七百十平方米

(既設抽水所面積約四千三百九十平方米)

ニ 下水道幹線

東横堀津守幹線

(變更一七二頁)

葎屋橋東詰ヨリ高津町四番丁、高津入堀川伏越、難波新川伏越、新川一丁目、同三丁目、蘆原町並ニ馳川及十三間川ノ各

伏越ヲ經テ津守處理場ニ至ル

大川島之内幹線

(變更一七四頁)

葎屋橋西詰ヨリ横堀一丁目、長堀川伏越、南炭屋町及道頓堀川伏越ヲ經テ難波新地三番丁ニ至リ東横堀津守幹線ニ接続ス

土佐堀櫻川幹線

(變更一七三頁)

土佐堀橋南詰ヨリ江戸堀川、京町堀川、海部堀川、阿波堀川、立賣堀川、西長堀川及西道頓堀川ノ各伏越並ニ櫻川二丁目

ヲ經テ蘆原町ニ至リ東横堀津守幹線ニ接続ス

高津幹線

(變更一七四頁)

下寺町二丁目ヨリ同町一丁目ニ至リ東横堀津守幹線ニ接続ス

難波新川幹線

(變更一七四頁)

西關谷町二丁目ヨリ難波新地三番丁ニ至リ東横堀津守幹線ニ接続ス

難波幹線

(變更一七三頁)

小田町ヨリ蘆原町ニ至リ東横堀津守幹線ニ接続ス

西濱幹線

榮町五丁目ヨリ同町ニ於テ東横堀津守幹線ニ接続ス

今宮北幹線

長橋通一丁目ヨリ十三間川伏越ヲ經テ津守町ニ至リ東横堀津守幹線ニ接続ス

末吉橋通幹線

(變更一七三頁)

順慶町一丁目ヨリ末吉橋西詰ヲ經テ上繫橋東詰ニ至リ大川島之内幹線ニ接続ス

長堀幹線

(變更一七三頁)

長堀橋筋一丁目ヨリ下繫橋東詰ニ至リ大川島之内幹線ニ接続ス

道頓堀幹線

(變更一七三頁)

問屋町ヨリ上大和橋西詰ヲ經テ大黒橋北詰ニ至リ大川島之内幹線ニ接続ス

櫻川幹線

(變更一七四頁)

木津川町一丁目ヨリ櫻川二丁目ニ至リ土佐堀櫻川幹線ニ接続ス

境川幹線

北境川町二丁目ヨリ境川運河伏越八雲町二丁目及市岡元町三丁目ヲ經テ市岡抽水所ニ至ル

泉尾第一號幹線

市岡抽水所ヨリ尻無川北通入堀伏越、北福崎東ノ町、尻無川及西堀ノ各伏越、大正通十丁目及大正運河伏越ヲ經テ小林抽水所ニ至ル

水所ニ至ル

泉尾第二號幹線

小林抽水所ヨリ千島中橋堀割、千島大橋堀割及木津川ノ各伏越ヲ經テ津守處理場ニ至ル

築港幹線

八幡屋元町三丁目ヨリ朝潮橋下入堀及夕風橋東入堀ノ各伏越竝ニ市岡元町五丁目ヲ經テ市岡抽水所ニ至ル

福崎幹線

南福崎町四丁目ヨリ同町三丁目、北福崎西ノ町竝ニ福崎堀及三種堀ノ各伏越ヲ經テ三種町ニ至リ築港幹線ニ接続ス

船町恩加島幹線

船町ヨリ木津川運河伏越及南恩加島町ヲ經テ小林抽水所ニ至ル

鶴町幹線

鶴町三丁目ヨリ福町堀伏越、福町二丁目及千歳運河伏越ヲ經テ南恩加島町ニ至リ船町恩加島幹線ニ接続ス

南部處理區

一 區域 西成區ノ全部住吉區ノ一部

(別紙大阪都市計畫圖第二號表示ノ通圖面省略)

二 面積 約三千ヘクタール

三 處理場 抽水所及下水道幹線ノ名稱、位置等左ノ如シ

イ 大和川處理場

位置 釜口町地先埋立地地内

面積 約四萬二千九百七十平方米

主要設備 沈澱池、唧筒場、放流溝、淨化裝置、放流管等 (變更一八四頁)

ロ 粉濱抽水所

位置 粉濱西之町一丁目地内
面積 約三千六百三十平方米

ハ 下水道幹線

西長居大和川幹線

阿倍野町ヨリ西長居町、上住吉町、十三間川伏越及南加賀屋町ヲ經テ大和川處理場ニ至ル
但シ上住吉町地内ニ於テ細江川ニ至ル溢流溝ヲ敷設ス

津守敷津幹線

津守處理場ヨリ住吉浦伏越ヲ經テ南加賀屋町ニ至リ西長居大和川幹線ニ接続ス

菊田幹線

菊田町ヨリ西長居町ニ至リ西長居大和川幹線ニ接続ス

住吉幹線

阿倍野町ヨリ上住吉町ニ至リ西長居大和川幹線ニ接続ス

住之江幹線

山之内町ヨリ十三間川伏越ヲ經テ南加賀屋町ニ至リ西長居大和川幹線ニ接続ス

今宮南幹線

天王寺町ヨリ今池町、東萩町、旭南通二丁目及十三間川伏越ヲ經テ津守處理場ニ至ル

玉出幹線

千本通三丁目ヨリ辰巳通二丁目ヲ經テ粉濱抽水所ニ至ル

櫻井幹線

粉濱抽水所ヨリ十三間川伏越ヲ經テ北加賀屋町ニ至リ津守敷津幹線ニ接続ス

柴谷幹線

北加賀屋町ヨリ柴島町及住吉浦伏越ヲ經テ南加賀屋町ニ至リ西長居大和川幹線ニ接続ス

北部處理區

一 區域 此花區ノ全部、北區、東淀川區、西淀川區ノ一部

(別紙大阪都市計畫圖第二號表示ノ通圖面省略)

二 排水面積 約千七百七十五ヘクタール

三 處理場 抽水所及下水道幹線ノ名稱、位置等左ノ如シ

イ 海老江處理場

位置 海老江町地内

面積 約三萬千七百三十平方米

主要設備 沈澱池、唧筒場、放流溝、淨化裝置等

ロ 北野抽水所

位置 大仁町地内

面積 約三千八百二十平方米

(既設抽水所面積約二千六百六十平方米)

ハ 恩貴島抽水所

(變更一八四頁)

位置 恩貴島南之町地内
面積 約七千二百平方米

(既設抽水所面積約七千二百平方米)

二 下水道幹線

堂島海老江幹線

(變更一七四頁)

天神橋北詰ヨリ天滿堀川伏越、柳橋東詰、曾根崎新地三丁目、堂島堀割伏越及大開町二丁目ヲ經テ海老江處理場ニ處理場ニ至ル

長柄幹線

長柄中通三丁目ヨリ本庄川崎町四丁目、同町三丁目、本庄東通三丁目、南濱町三丁目、同町二丁目、豊崎西通二丁目、中津南通二丁目、及大仁町ヲ經テ北野抽水所ニ至ル

聖天川幹線

(變更一七四頁)

北野抽水所ヨリ上福島北一丁目及同四丁目ヲ經テ龜甲町二丁目ニ至リ堂島海老江幹線ニ接續ス

(變更一七四頁)

福島幹線

上福島中四丁目ヨリ同町ニ於テ聖天川幹線ニ接續ス

(變更一七四頁)

大仁海老江幹線

中津南通四丁目ヨリ浦江町ヲ經テ海老江處理場ニ至ル

(變更一八三頁)

西野田幹線

(變更一八三頁)

新家町一丁目ヨリ大開町二丁目ニ至リ堂島海老江幹線ニ接續ス

西島海江幹線

西島町ヨリ恩貴島北之町、傳法川伏越傳法町北一丁目及姫島町ヲ經テ海老江處理場ニ至ル

島屋幹線

島屋町ヨリ恩貴島抽水所ニ至ル

恩貴島幹線

恩貴島抽水所ヨリ正蓮寺川伏越ヲ經テ恩貴島北之町ニ至リ西島海老江幹線ニ接續ス

傳法幹線

傳法町北四丁目ヨリ姫島町ニ至リ西島海老江幹線ニ接續ス

淀川北部處理區

一 區域 東淀川區、西淀川區ノ一部

(別紙大阪都市計畫圖第二號表示ノ通圖面省略)

二 排水面積 約三千百十ヘクタール

三 處理場 抽水所及下水道幹線ノ名稱位置等左ノ如シ

イ 福町處理場

位置 福町地内

面積 約二萬九千七百七十平方米

主要設備 沈澱池、唧筒場、放流溝、淨化裝置等

(變更一八四頁)

ロ 北川口抽水所

位置 北川口町地内
面積 約一萬五千七百七十平方米

ハ 御幣島抽水所
位置 御幣島町地内

面積 約六千六百十平方米
ニ 下水道幹線

豐里柴島幹線
西大道町ヨリ豊里三番町、上新庄町、國次町、山口町及南方町ヲ經テ北川口抽水所ニ至ル

十三姫島幹線

北川口抽水所ヨリ木川町、十三東之町、十三西之町、今里町、塚本町、野里町及姫島町ヲ經テ福町處理場ニ至ル
三國加島幹線

三國町ヨリ宮原町、三津屋町及加島町ヲ經テ御幣島抽水所ニ至ル
御幣島福町幹線

御幣島抽水所ヨリ大和田町及大野川伏越ヲ經テ福町處理場ニ至ル
布屋大和田幹線

布屋町ヨリ中島町及神崎川派川伏越ヲ經テ大和田町ニ至リ御幣島福町幹線ニ接續ス
柴島幹線

柴島町ヨリ飛鳥町ニ至リ豊里柴島幹線ニ接續ス

東部處理區

一 區域 東成區ノ全部、北區、東區、天王寺區、南區、東淀川區、住吉區ノ一部

(別紙大阪都市計畫圖第二號表示ノ通圖(面省略))

二 排水面積 約四千六百六十ヘクタール

三 處理場抽水所及下水道幹線ノ名稱、位置等左ノ如シ

イ 中濱處理場

位置 中濱町及鳴野町地内
面積 約十二萬五千四百五十平方米

主要設備 沈澱池、唧筒場、放流溝、淨化裝置等

(變更一八四頁)

ロ 東野田抽水所

位置 東野田七丁目地内
面積 約七千九百二十平方米

(既設抽水所面積約七千九百二十平方米)

ハ 下水道幹線

平野中濱幹線

平野野堂町ヨリ平野流町、平野泥堂町、杭全町、猪飼野町、大今里町、中本町及千間川伏越ヲ經テ中濱處理場ニ至ル
但シ杭全町地内ニ於テ今川ニ至ル溢流溝ヲ敷設ス

南田邊杭全幹線

南田邊町ヨリ中野町及今川町ヲ經テ杭全町ニ至リ平野中濱幹線ニ接續ス
天王寺中本幹線

天王寺ヨリ生野國分町、鶴橋天王寺町、東小橋町、森町及平野川伏越ヲ經テ中本町ニ至リ平野中濱幹線ニ接續ス
但シ生野國分町及鶴橋木野町ヨリ新平野川ニ至リ溢流溝ヲ敷設ス

桑津幹線

桑津町ヨリ天王寺町ニ至リ天王寺中本幹線ニ接續ス

森小路中濱幹線

森小路ヨリ關目町、蒲生町並ニ鯉江川及寢屋川ノ各伏越ヲ經テ中濱處理場ニ至ル

別所蒲生幹線

別所町ヨリ今福町ヲ經テ蒲生町ニ至リ森小路中濱幹線ニ接續ス

中宮東野田幹線

中宮町ヨリ野江町一丁目ヲ經テ東野田抽水所ニ至ル

赤川幹線

赤川町ヨリ生江町ヲ經テ中宮町ニ至リ中宮東野田幹線ニ接續ス

東野田幹線

東野田抽水所ヨリ鯉江川及寢屋川ノ各伏越ヲ經テ中濱處理場ニ至ル

第八

各處理區内ニハ適當ニ下水道枝幹ヲ敷設シ之ヲ幹線ニ連絡セシムルモノトス

公園ノ部 (公園ノ位置ニ付テハ別紙大阪都市
計畫圖第一號表示ノ通圖面省略)

第一 公園ノ新設擴張及位置面積並ニ公園道路左ノ如シ

第一號(外島公園)

位置 外島町、中島町及布屋町ノ内

面積 約九・八〇ヘクタール

(變更一七九頁)

第二號(出來島公園)

位置 出來島町ノ内

面積 約六・六一ヘクタール

(變更一七九頁)

第三號(神崎川公園)

位置 加島町及庄内村大字庄本ノ内

面積 約三・〇五ヘクタール

第四號(十三公園)

位置 十三南之町、十三西之町及今里町(現元今里南通一丁目)ノ内

面積 約三・五〇ヘクタール

第五號(北中島公園)

位置 山口町及日之出町ノ内

面積 約六・〇二ヘクタール(既設公園面積約一・〇二五ヘクタール)

第六號(服部公園)

位置 小曾根村大字長島、大字石蓮寺、大字寺内、大字小曾根、中豊島村大字服部、大字長興寺、南豊島村大字穂積、熊野田村
字下五良谷字廣田、字山崎及豊津村大字榎阪ノ内
面積 約一五・〇〇ヘクタール

第七號(安成川公園)

位置 吹田町字馬廻り島、字小淵島、字足洗、字石面堂、字河面、字中ノ島及字前島ノ内
面積 約一六・五三ヘクタール
但シ小曾根村大字長島二百六十八番地地先ヨリ中豊島村服部五百六十三番地ニ至ル公園道路及豊津村大字榎阪七百二十六番
地ニ於テ大阪都市計畫街路一等大路第三類第四十二號線ヨリ分岐シ同二番地ニ至ル公園道路ヲ設ケ
幅員 三十二米乃至七十五米

第八號(豊里公園)

位置 赤川町、生江町、中宮町及豊里三番町ノ内
面積 約一三・二二ヘクタール
但シ毛馬町八百五十三番地ノ一ヨリ澱川左岸ニ沿ヒ赤川町千三百三十九番地ニ至ル公園道路ヲ設ケ
(變更一八二頁)

第九號(毛馬公園)

位置 長柄濱通一丁目、同二丁目、樋之口町及友淵町ノ内
面積 約三・〇〇ヘクタール
幅員 三十米乃至五十米

第十號(森小路公園)

位置 千林町今市町錯雜地及森小路町(現新森小路南一丁目)ノ内
面積 約七・六〇ヘクタール

第十一號(櫻之宮公園)

位置 川崎町、新川崎町、網島町、東野田町二丁目、東野田町一丁目及中野町三丁目ノ内
面積 約七・七〇ヘクタール(既設公園面積約五・三二二ヘクタール)但シ馬場町五番地地先ヨリ大阪城京橋口前ニ至リ左折シ京
橋及備前島橋ヲ經テ網島町二十一番地ニ至ル公園道路ヲ設ケ
幅員 十八米乃至六十二米

第十二號(大阪城公園)

位置 馬場町及杉山町ノ内
面積 約一二・二三ヘクタール(既設公園面積約二・四〇八ヘクタール)

第十三號(片江公園)

位置 片江町及大今里町ノ内
面積 約七・二七ヘクタール

第十四號(生野公園)

位置 岡之町(現勝山通九丁目)猪飼野町及舍利寺町ノ内
面積 約八・九二ヘクタール

第十五號(枕全公園)

位置 平野宮町、平野市町及平野濱町三丁目ノ内

面積 約六・〇二ヘクタール

第十六號(平野公園)

位置 平野本町十丁目、平野梅ヶ枝町一丁目及平野野堂町ノ内

面積 約三・一一ヘクタール(既設公園面積一・二三三ヘクタール)

第十七號(百濟公園)

位置 杭全町、今川町、北田邊町(現北田邊町、西今川町)平野西脇町、砂子町、中野町及湯里町ノ内

面積 約一〇・九一ヘクタール

第十八號(桃ヶ池公園)

位置 北田邊町(現山坂西之町一丁目)ノ内

面積 約八・六〇ヘクタール

但シ北田邊町三百六十一番地ノ二(現山坂西ノ町一丁目五十五番地)ニ於テ大阪都市計畫街路一等大路第三類第六十四號線ヨリ分岐シ同町ニ於テ右折シ南田邊町(現山坂西ノ町二丁目)ニ於テ左折シ同町千二百七十六番地ノ八(現山坂西ノ町二丁目二十三番地)ニ至ル公園道路ヲ設ク

幅員 十一米

第十九號(田邊公園)

位置 南田邊町及西田邊町(現南田邊町、西田邊町、山坂西ノ町三丁目、山坂町二丁目)ノ内

面積 約六・八六ヘクタール

但シ西田邊町二十三番地ヨリ西長居町四百十番地ノ一ニ至ル公園道路ヲ設ク

幅員 十八米

第二十號(臨南寺公園)

(變更一八二頁)

位置 鷹合町、東長居町及西長居町ノ内
面積 約六六・一二ヘクタール

但シ西長居町ニ面積約七千八百平方米ノ廣場ヲ設ク

第二十一號(大和川公園)

位置 庭井町、菊田町、我孫子町、山之内町及杉本町ノ内

面積 約二〇・三六ヘクタール

但シ矢田村大字矢田部二百二十一番地ニ於テ大阪都市計畫街路一等大路第三類第六十二號線ヨリ分岐シ同村大字枯木ニ於テ右折シ大和川右岸ニ沿ヒ淺香町八十一番地ニ至ル公園道路及杉本町三百二十五番地ヨリ山之内町ニ於テ左折シ大和川右岸ニ沿ヒ南海鐵道高野線線路ヲ横切り住之江町ニ於テ同阪堺線線路ヲ横切り七道町ニ於テ同本線線路ヲ横切り南加賀屋町六十五番地ノ二地先ニ至ル公園道路ヲ設ク

幅員 二十米乃至百二十米

第二十二號(萬代池公園)

位置 住吉町ノ内

面積 約一二・二三ヘクタール

但シ西長居町四百十九番地ニ於テ大阪都市計畫街路一等大路第三類第六十八號線ヨリ分岐シ住吉町ニ於テ南海鐵道上町線線路及同高野線線路ヲ横切り同町三百七十八番地ノ二(現帝塚山西三丁目十二番地)ニ至ル公園道路ヲ設ク

第二十三號(帝塚山公園)

位置 住吉町(現住吉町、帝塚山西二丁目、同西三丁目、同西四丁目)ノ内

面積 約九・二六ヘクタール